

HP Operations Orchestration

Windows および Linux向け

ソフトウェアバージョン: 10.10

Central ユーザーガイド

ドキュメントリリース日: 2014 年 5 月 (英語版)

ソフトウェアリリース日: 2014 年 5 月



ご注意

保証

HP製品、またはサービスの保証は、当該製品、およびサービスに付随する明示的な保証文によってのみ規定されるものとします。ここでの記載は、追加保証を提供するものではありません。ここに含まれる技術的、編集上の誤り、または欠如について、HPはいかなる責任も負いません。

ここに記載する情報は、予告なしに変更されることがあります。

権利の制限

機密性のあるコンピューターソフトウェアです。これらを所有、使用、または複製するには、HPからの有効な使用許諾が必要です。商用コンピューターソフトウェア、コンピューターソフトウェアに関する文書類、および商用アイテムの技術データは、FAR12.211および12.212の規定に従い、ベンダーの標準商用ライセンスに基づいて米国政府に使用許諾が付与されます。

著作権について

© Copyright 2005-2014 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

商標について

Adobe™は、Adobe Systems Incorporated (アドビシステムズ社) の登録商標です。

本製品には、'zlib' (汎用圧縮ライブラリ) のインタフェースが含まれています。'zlib': Copyright © 1995-2002 Jean-loup Gailly and Mark Adler.

AMDおよびAMD Arrowのシンボルは、Advanced Micro Devices, Inc.の登録商標です。

Google™およびGoogle Maps™は、Google Inc.の登録商標です。

Intel®, Itanium®, Pentium®, Intel®およびXeon®は、Intel Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

Javalは、Oracle Corporationおよびその関連会社の登録商標です。

Microsoft®, Windows®, Windows NT®, Windows® XP、およびWindows Vista®は、米国におけるMicrosoft Corporationの登録商標です。

Oracleは、Oracle Corporationおよびその関連会社の登録商標です。

UNIX® は、The Open Group の登録商標です。

ドキュメントの更新情報

このマニュアルの表紙には、以下の識別情報が記載されています。

- ソフトウェアバージョンの番号は、ソフトウェアのバージョンを示します。
- ドキュメントリリース日は、ドキュメントが更新されるたびに更新されます。
- ソフトウェアリリース日は、このバージョンのソフトウェアのリリース期日を表します。

更新状況、およびご使用のドキュメントが最新版かどうかは、次のサイトで確認できます。<http://h20230.www2.hp.com/selfsolve/manuals>

このサイトを利用するには、HP Passportへの登録とサインインが必要です。HP Passport IDの登録は、次のWebサイトから行なうことができます。<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html>

または、HP Passport のログインページの **[New users - please register]** リンクをクリックします。

適切な製品サポートサービスをお申し込みいただいたお客様は、更新版または最新版をご入手いただけます。詳細は、HPの営業担当にお問い合わせください。

サポート

HPソフトウェアサポートオンラインWebサイトを参照してください。<http://www.hp.com/go/hpsoftwaresupport>

このサイトでは、HPのお客様窓口のほか、HPソフトウェアが提供する製品、サービス、およびサポートに関する詳細情報をご覧いただけます。

HPソフトウェアオンラインではセルフソルブ機能を提供しています。お客様のビジネスを管理するのに必要な対話型の技術サポートツールに、素早く効率的にアクセスできます。HPソフトウェアサポートのWebサイトでは、次のようなことができます。

- 関心のあるナレッジドキュメントの検索
- サポートケースの登録とエンハンスメント要求のトラッキング
- ソフトウェアパッチのダウンロード
- サポート契約の管理
- HPサポート窓口の検索
- 利用可能なサービスに関する情報の閲覧
- 他のソフトウェアカスタマーとの意見交換
- ソフトウェアトレーニングの検索と登録

一部のサポートを除き、サポートのご利用には、HP Passportユーザーとしてご登録の上、サインインしていただく必要があります。また、多くのサポートのご利用には、サポート契約が必要です。HP Passport IDを登録するには、次のWebサイトにアクセスしてください。

<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html>

アクセスレベルの詳細については、次のWebサイトをご覧ください。

http://h20230.www2.hp.com/new_access_levels.jsp

HP Software Solutions Nowは、HPSWのソリューションと統合に関するポータルWebサイトです。このサイトでは、お客様のビジネスニーズを満たすHP製品ソリューションを検索したり、HP製品間の統合に関する詳細なリストやITILプロセスのリストを閲覧することができます。このサイトのURLは<http://h20230.www2.hp.com/sc/solutions/index.jsp>です。

このPDF版オンラインヘルプについて

本ドキュメントはPDF版のオンラインヘルプです。このPDFは、ヘルプ情報から複数のトピックを簡単に印刷したり、オンラインヘルプをPDF形式で閲覧できるようにするために提供されています。このコンテンツは本来、オンラインヘルプとしてWebブラウザで閲覧することを想定して作成されているため、トピックによっては正しいフォーマットで表示されない場合があります。また、インタラクティブトピックの一部はこのPDF版では提供されません。これらのトピックは、オンラインヘルプから正しく印刷することができます。

目次

目次	4
『HP Operations Orchestration Central ユーザーガイド』による	6
主要なタスクとペルソナ	7
サンプルシナリオ	9
HP OO へのログイン	11
HP OO Central 内の移動	12
ダッシュボードの操作	20
システム構成のセットアップ	24
セキュリティのセットアップ – 役割	24
セキュリティのセットアップ – LDAP 認証	34
セキュリティのセットアップ – 内部ユーザー	56
セキュリティのセットアップ – SAML 認証	62
セキュリティのセットアップ – LW SSO	69
セキュリティバナーのセットアップ	74
トポロジのセットアップ – ワーカー	77
トポロジのセットアップ – 構成	83
ブラウザの言語の設定	85
認証の有効化	87
コンテンツパックの昇格	89
コンテンツパックの昇格 - 概要	89
コンテンツパックのデプロイと管理	92
ワーカーグループエイリアスのセットアップ	102
コンテンツパックのシステムアカウントのセットアップ	105
コンテンツパックのシステムプロパティのセットアップ	109
フローライブラリの管理	113
フローマップの表示	120
コンテンツパックのテストとトラブルシューティング	123
フローの実行と監視	125
フローの実行と監視 – 概要	125

フローの実行	126
フロー実行のスケジューリング	134
フロー実行の追跡と管理	152
フロー実行の表示の調整	160
フロー実行のテストとトラブルシューティング	167
一般的なエラー	182
コマンドラインからの HP OO コマンドの実行	188
コマンドの実行	189
フローに関する情報の表示	190
フローの実行	190
コンテンツパックのデプロイ	190
OOSH ユーティリティに関するヘルプの表示	191
OOSH ユーティリティから HP OO コマンドを実行するスクリプトの作成	191
実行可能ファイルのパarserとしての OOSH の追加	191
参照情報	192

『HP Operations Orchestration Central ユーザーガイド』によろこそ

HP OO Central は Web ベースのアプリケーションで、フローの昇格、フローの実行とスケジュール、システムの管理、フロー実行の結果データの抽出と分析に使用されます。

主要なタスクとペルソナ

Central で作業する主要なペルソナは、運用管理者とエンドユーザーです。ただし、初期のセットアップタスクのいくつかは、システム管理者によって実行されます。

運用管理者

	<p>運用管理者は、HP OO の日々の運用を担当します。この中には、構成、メンテナンス、コンテンツパックの昇格、HP OO ユーザーのアクセス許可の設定などがあります。</p> <p>運用管理者は、実稼働環境での障害のトラブルシューティングを行い、問題を解決するか、または(問題に応じて)システム管理者、HP サポート、フロー作成者に送ります。</p>
---	---

運用管理者は、Central を使用して次のことを行います。

- コンテンツパックの昇格 - 「[コンテンツパックの昇格 - 概要](#)」(89ページ)を参照してください。



- フローの実行と監視 - 「[フローの実行と監視 - 概要](#)」(125ページ)を参照してください。



エンドユーザー



エンドユーザーはフローをトリガーし、監視します。エンドユーザーは、権利が付与された HP OO フローに、Central 経由で直接アクセスするか、または別のアプリケーションの埋め込まれた Web UI 経由で間接的にアクセスできます。

エンドユーザーは、Central を使用して次のことを行います。

- フローの実行と監視 - 「[フローの実行と監視 - 概要](#)」(125ページ)を参照してください。

システム管理者



システム管理者は、HP OO のハードウェアとソフトウェアを担当します。システム管理者は、HP OO (Central および RAS) のインストールとパッチの適用を行い、システムの観点からのアプリケーションの正しい動作を担当し、CPU、メモリ、OS 環境などを扱います。

システム管理者は、Central を使用して Central 構成をセットアップします。

- トポロジの構成 - 以下を参照してください。
 - 「[トポロジのセットアップ - ワーカー](#)」(77ページ)
 - 「[トポロジのセットアップ - 構成](#)」(83ページ)
- セキュリティと認証の構成 - 以下を参照してください。
 - 「[セキュリティのセットアップ - 役割](#)」(24ページ)
 - 「[セキュリティのセットアップ - 内部ユーザー](#)」(56ページ)
 - 「[セキュリティのセットアップ - LDAP 認証](#)」(34ページ)
 - 「[セキュリティのセットアップ - LW SSO](#)」(69ページ)
 - 「[セキュリティバナーのセットアップ](#)」(74ページ)

サンプルシナリオ

	システム管理者		運用管理者		フロー作成者
---	---------	---	-------	---	--------

セットアップ

	Central のインストール後に、システム管理者が LDAP 認証 (「セキュリティのセットアップ - LDAP 認証」(34ページ)) を構成します。
	システム管理者が Central の役割をセットアップし、それらの役割を LDAP グループにマッピングします (「セキュリティのセットアップ - 役割」(24ページ) を参照)。
	システム管理者がワーカーをワーカーグループに割り当てます。また、外部ワーカー用に "Windows" という新しいグループを作成します (see 「トポロジーのセットアップ - ワーカー」(77ページ) を参照)。
	運用管理者が、ベースコンテンツを Central サーバーにデプロイします (「コンテンツパックのデプロイと管理」(92ページ) を参照)。

昇格

	フロー作成者が Studio で新しいコンテンツパックを作成し、ファイルシステムにデプロイします。
	運用管理者が、フロー作成者から新しいコンテンツパックのデプロイメントの準備ができたことを通知する電子メールを受け取ります。
	運用管理者が、新しいコンテンツパックを Central ステージングサーバーにデプロイします (「コンテンツパックのデプロイと管理」(92ページ) を参照)。
	運用管理者が、コンテンツパック内のシステムアカウントに Central ユーザーアカウントをマッピングします (「コンテンツパックのシステムアカウントのセットアップ」(105ページ) を参照)。
	運用管理者がコンテンツパック内のシステムプロパティをセットアップします (「コンテンツパックのシステムプロパティのセットアップ」(109ページ) を参照)。
	運用管理者が、Windows エイリアスが自動的にワーカーグループに割り当てられたことを確認し、ほかのグループエイリアスを実際のワーカーグループにマッピングします (「ワーカーグループエイリアスのセットアップ」(102ページ) を参照)。
	運用管理者が、フローライブラリを見てすべてのフローがあることを確認し、フローを選択するとフローのメタデータが表示されることを確認します (「フローライブラリの管理」(113ページ) を参照)。
	運用管理者がコンテンツパック内のフローのアクセス許可を設定します (「フローライブラリの管理」(113ページ) を参照)。

フローの実行と監視

	運用管理者がコンテンツパック内のいずれかのフローをトリガーします (「フローの実行」(126ページ) を参照)。
	運用管理者が[実行]ビューに移動して、フローステータスを確認します (「フロー実行の追跡と管理」(152ページ) を参照)。
	運用管理者は、必要に応じてフローを一時停止、再開、またはキャンセルします (「フロー実行の追跡と管理」(152ページ) を参照)。
	運用管理者がフローの詳細を調べ、フローをテストして問題があるかどうかを確認します (「フロー実行のテストとトラブルシューティング」(167ページ) を参照)。

コンテンツパックの更新

	運用管理者が、コンテンツパックに問題があることを認識します。コンテンツパックが大きすぎるため、2つに分割したほうがいいと判断します。
	運用管理者が、フロー作成者に電子メールを送信して、コンテンツパックを2つに分割するように依頼します。
	フロー作成者がコンテンツパックを2つの小さなコンテンツパックに分割し、運用管理者に送信します。

最終デプロイメント

	運用管理者が新しいコンテンツパックをステージングサーバーにデプロイし、問題がないことを確認します。
	運用管理者がコンテンツパックを実稼働サーバーにデプロイします。

HP OO へのログイン

HP OO で認証が設定されている場合は、HP OO の起動時にログオン画面が表示され、ユーザー名とパスワードを入力する必要があります。

複数のドメインを使用可能な場合、ドメインも選択してください。選択したドメインは、使用するブラウザのデフォルト選択として保持されます。

注: 現在のドメインは、デフォルトで選択されています。



次の場合は、ドメインを選択することはできません。

- 内部ユーザーのみが設定されている場合
- ドメインが1つしかなく、デフォルトとして設定されている場合

注: ドメインが1つであってもデフォルトとして設定されていない場合、このドメインと内部ユーザーのどちらかを選択できます。

認証が有効になっていない場合、ログオン画面は表示されません。

HP OO の認証を設定する方法については、「[システム構成のセットアップ](#)」(24ページ)を参照してください。

HP OO Central 内の移動

HP OO Central は、4 つのワークスペースに分割されているため、同じ場所からエンドツーエンドのタスクを実行できます。ワークスペースとは、同じエンドツーエンドのタスクグループに属するすべての画面を保持する単位です。

- **[ダッシュボード]** ワークスペース - システムの ROI と、分析されたフローの集約の表示に使用します。運用管理者  の役割を持つユーザー用です。
- **[実行管理]** ワークスペース - フローの実行、実行の監視、実行のスケジューリング、実行のトラブルシューティングに使用します。エンドユーザー  または運用管理者  の役割を持つユーザーが使用できます。
- **コンテンツワークスペース** - 新しいコンテンツのデプロイ、フローのアクセス許可の設定、構成アイテムのセットアップ、以前のバージョンのコンテンツパックへのロールバックなど、昇格タスクに使用されます。運用管理者  の役割を持つユーザー用です。
- **[システム構成]** - トポロジの構成、ユーザー、役割、LDAP 認証、LW SSO、およびセキュリティバナーのセットアップに使用します。システム管理者  の役割を持つユーザー用です。

ダッシュボードワークスペース

[ダッシュボード]  ボタンをクリックして、ダッシュボードワークスペースを表示します。

このワークスペースには、システムに関する統計情報 (使用回数の多いフロー、結果の分布、実行時間など) と投資収益率に関する財務情報が表示されます。



hp Operations Orchestration

合計 ROI: 0

How to set ROI values in HP Operations Orchestration

0:00:00 0:00:49

使用回数が多い上位 10 個のフロー

フロー名	結果の分布	平均実行時間	ROI
Displayed URL Test		00:01:50	0.00

ダッシュボード

実行管理

コンテンツワークスペース

システム構成

実行管理ワークスペース



[実行管理] ボタンをクリックして、実行管理ワークスペースを表示します。

このワークスペースには、次のモジュールが含まれています。

- 実行エクスプローラー** – [実行エクスプローラー] モジュールでは、運用管理者またはエンドユーザーは、実行中のフローおよび実行が終了したフローを監視できます。フロー実行の追跡、その進捗状況の監視、およびフロー実行に関する操作（一時停止、再開、キャンセルなど）の実行を行うことができます。フローが失敗してトラブルシューティングを行う場合、実行をドリルダウンして詳細情報を表示できます。同時に実行するフローがたくさんある場合、フィルターを使って目的のフローを探ることができます。

hp Operations Orchestration

実行エクスプローラー スケジューラー

実行

実行名	実行ID	ステータス	開始時刻	ユーザー	期間
Displayed URL Test	100300038	完了 - 解決済み	午後2時8分	anonymousUser	28 秒

ダッシュボード

実行管理

コンテンツワークスペース

システム構成

- スケジューラー** – [スケジューラー] モジュールでは、運用管理者はフロー実行のスケジュールを表

示、作成、および変更 できます。

hp Operations Orchestration

実行エクスペローラー スケジューラー

フロー名でフィルター

状態	スケジュール名	フロー名	次の実行	前の実行	ユーザー
<input checked="" type="checkbox"/>	Find Pages with Dead...	Find Pages with Dead...	午後5時44分		anonymousUser
<input type="checkbox"/>	Simple SMTP Check	Simple SMTP Check	午後6時43分	午後5時43分	anonymousUser

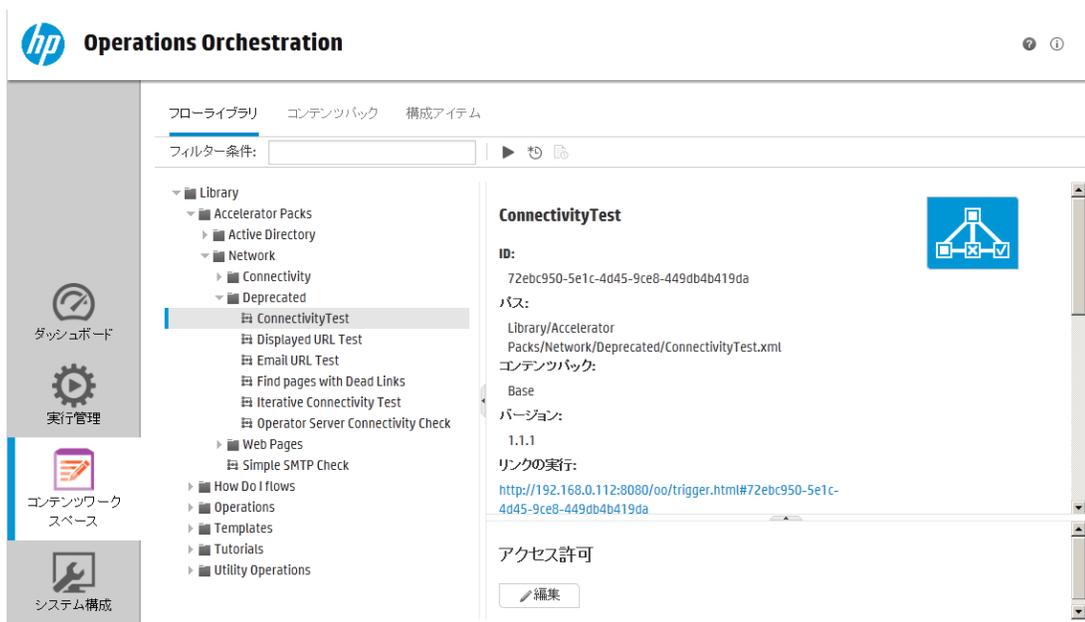
ダッシュボード
実行管理
コンテンツワークスペース
システム構成

コンテンツワークスペース

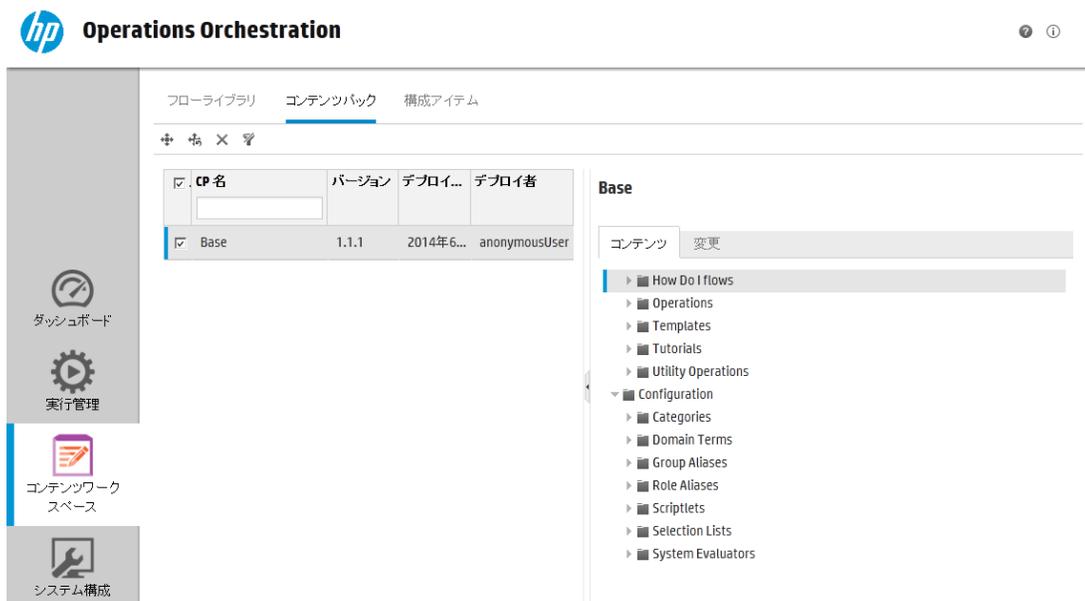
[コンテンツワークスペース]  ボタンをクリックして、コンテンツ管理を表示します。

このワークスペースには、次のモジュールが含まれています。

- **フローライブラリ** – [フローライブラリ] には、デプロイされたフローが表示されます。ここから、運用管理者は、フローの実行またはスケジュール設定、フローのメタデータの表示、コンテンツアクセス許可の設定、またはテスト用のフローの実行を行うことができます。



- **コンテンツパック** - このモジュールでは、運用管理者はデプロイ済みのコンテンツパックの表示、フィルタリング、削除、コンテンツパックのデプロイまたはロールバック、コンテンツパックの詳細の表示、コンテンツパックへの変更の表示ができます。



- **構成アイテム** - このモジュールでは、運用管理者は環境に合わせて次のようにコンテンツパックのコンテンツを構成できます (グループエイリアスを実際のワーカーグループにマッピングする、コンテンツパック内のシステムアカウントを Central ユーザーアカウントにマッピングする、システムのプロパティをマッピングするなど)。



hp Operations Orchestration

フローライブラリ コンテンツパック **構成アイテム**

グループエイリアス システムアカウント システムプロパティ

+ / ✎ ✕

名前	ワーカーグループ名
RAS_Operator_Path	RAS_Operator_Path

ダッシュボード
実行管理
コンテンツワークスペース
システム構成

システム構成

[システム構成]  ボタンをクリックして、システム構成を表示します。

このワークスペースには、次のタブが含まれています。

- **セキュリティ**—システム管理者は HP OO の役割をセットアップし、それらの役割を内部ユーザー、または LDAP、LW SSO などの認証システムのユーザーに適用できるようになります。

hp Operations Orchestration

セキュリティ トポロジ

認証を有効にする

役割 LDAP 内部ユーザー SAML SSO セキュリティバナー

役割名	説明	グループ
ADMINISTRATOR	Administration Role	
END_USER	End User Role	
<input checked="" type="checkbox"/> EVERYBODY	Everybody Role	
PROMOTER	Promoter Role	
SYSTEM_ADMIN	System Administrator Role	

ダッシュボード
実行管理
コンテンツワークスペース
システム構成

- トポロジ-システム管理者は、ワーカーグループの作成、ワーカーのこれらのグループへの割り当て、および構成の詳細 (ロードバランサーホストの URL など) のセットアップを行えるようになります。

hp Operations Orchestration

セキュリティ トポロジ

ワーカー 構成

× グループへの割り当て

ホスト名	有効	ステータス	パス	オペレーティングシステム	JDK
<input type="checkbox"/> [QRコード]	<input checked="" type="checkbox"/>		C:\Program Files\Hewlett-Packard\HP Operations Orchestration\central	Windows Server 2008 R2	1.7.0_!

ダッシュボード
実行管理
コンテンツワークスペース
システム構成

ワークスペースの表示

特定の役割が割り当てられたユーザーのみが、その役割に関連するワークスペースにアクセスできるように HP OO の役割をセットアップできます。

たとえば、役割を次のようにセットアップできます。

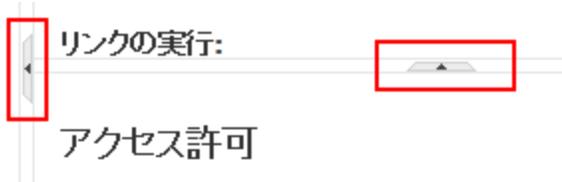
- **フローランナー**の役割に属しているユーザーは、[実行ワークスペース]のみを表示できる。
- **プロモーター**の役割に属しているユーザーは、[コンテンツワークスペース]と[実行ワークスペース]を表示できる。
- **システム管理者**の役割に属しているユーザーは、[システムワークスペース]と[実行ワークスペース]を表示できる。

役割の詳細については、「[セキュリティのセットアップ - 役割](#)」(24ページ)を参照してください。

ワークスペースのペインの表示の調整

ペイン間のスライダーを使用して、表示を調整します。

- スライダーの端をドラッグすると、ペインの高さや幅を調整できます。
- スライダー内の開く/閉じるボタンを使用すると、ペインの表示と非表示を切り替えられます。



ダッシュボードの操作

ダッシュボードには、システムに関する統計情報 (使用回数の多いフロー、結果の分布、実行時間など) と投資収益率に関する財務情報が表示されます。

ダッシュボードには、ログインしたユーザーが表示できるすべてのフローに関する情報が表示されます。

ダッシュボードを使用すると、運用管理者はフローの統計情報を分析して、上位 10 個のフローのパフォーマンスを比較することができます。

ダッシュボードに表示されるデータの期間は右上隅に表示されます。この期間は、直近の 1 日間、7 日間、または 30 日間のいずれかに設定できます。

注: また、次のように API を使用してさまざまなダッシュボードタスクを実行することもできます。

- 幅広い期間の中から期間を設定する
- より多くのフローを表示する
- データのソートやフィルタリングを行う

詳細については、『HP OO API Guide』の「Dashboard」を参照してください。

The screenshot shows the HP Operations Orchestration dashboard. At the top, there is a navigation bar with the HP logo and the text "Operations Orchestration". Below this, there are three radio buttons for selecting the time period: "1日間", "7日間", and "30日間". The main content area features a large "合計 ROI:" (Total ROI) section with a large purple "0" below it. To the right of the ROI section is a video player titled "How to set ROI values in HP Operations Orchestration" with a play button and a progress bar showing "0:00:00" and "0:00:49". Below the ROI section, there is a section titled "使用回数が多い上位 10 個のフロー" (Top 10 flows with highest usage). This section contains a table with the following data:

フロー名	結果の分布	平均実行時間	ROI	
Displayed URL Test		1	00:01:50	0.00

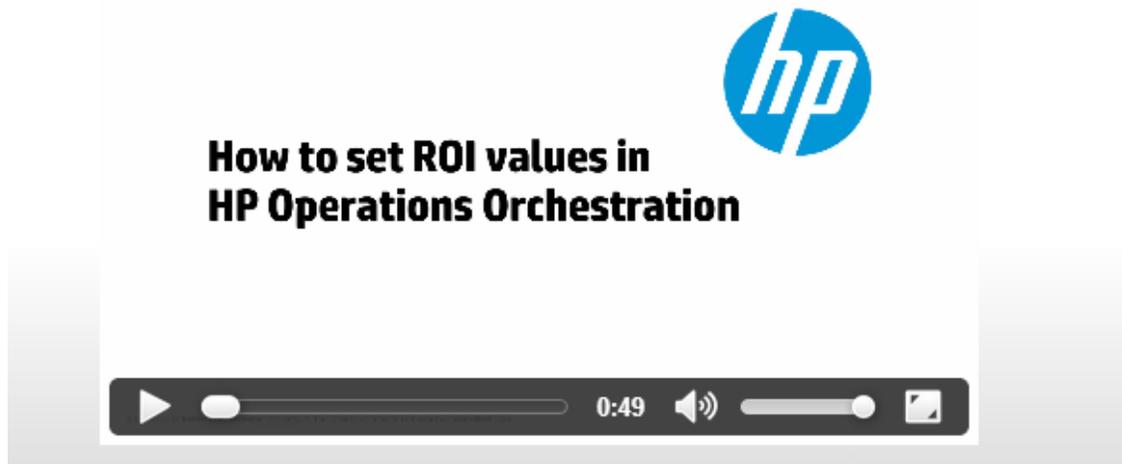
On the left side of the dashboard, there is a vertical navigation menu with four items: "ダッシュボード" (Dashboard), "実行管理" (Execution Management), "コンテンツワークスペース" (Content Workspace), and "システム構成" (System Configuration).

ダッシュボードの解釈方法については、「[参照情報](#)」(22ページ)を参照してください。

注: [ダッシュボード] タブは、**ダッシュボードの表示**のアクセス許可を持つ役割が割り当てられている場合にのみ、表示されます。役割の設定については、「[セキュリティのセットアップ - 役割](#)」(24ページ)を参照してください。

フローで ROI 値が割り当てられていない場合、合計 ROI 値は 0 になります。コンテンツの ROI 値の設定方法に関する動画を見る場合は、動作のサムネイルの下にある [再生] ボタンをクリックします。

注: 次のスクリーンショットは、図解のみを目的としています。動画を再生するには、Central の [再生] ボタンをクリックします。



実行する操作

ダッシュボードの期間のカスタマイズ

ダッシュボードでは、1 日間 (直近の 24 時間)、1 週間 (直近の 7 日間)、または 30 日間 (直近) の期間で、表示可能なすべてのフローに関する情報を表示することができます。

1 日間 7 日間 30 日間

期間を調整しない場合は、デフォルトで 7 日間に設定されます。

注: また、API を使用して期間を設定することもできます。この場合は、さらに幅広い期間を指定できます。詳細については、『HP OO API Guide』を参照してください。

1. [ダッシュボード] ボタンをクリックして、ダッシュボードワークスペースを表示します。
2. 右上隅で、次の中から期間に含める日数のオプションを選択します。
 - 1 - 直近の 1 日間のフローの実行に関する情報を表示する
 - 7 - 直近の 7 日間のフローの実行に関する情報を表示する
 - 30 - 直近の 30 日間のフローの実行に関する情報を表示する

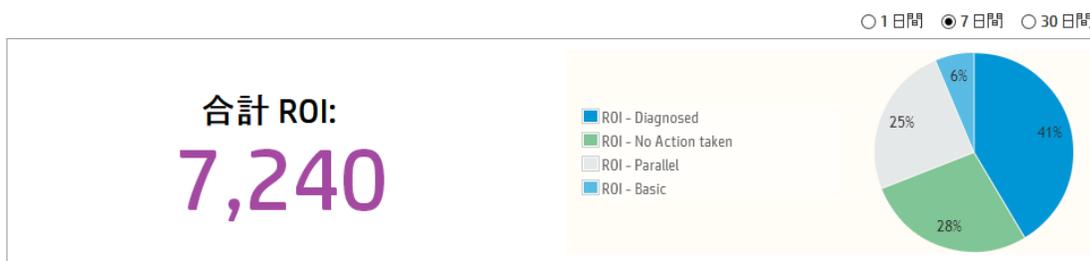
APIによるROI情報の抽出

ビジネスマネージャーに対する定期レポートの基本情報として、APIにより関連するROI情報を抽出することができます。

詳細については、『HP OO API Guide』の「Get Statistics」を参照してください。

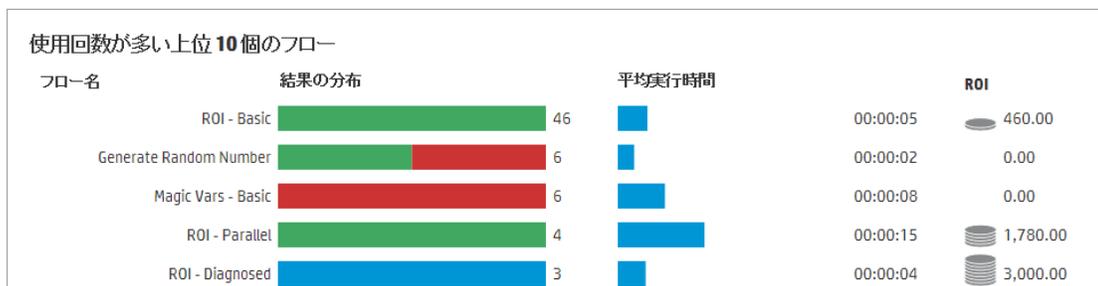
参照情報

システムROI



GUI アイテム	説明
期間	<p>ダッシュボードのデータはすべて右上隅で指定した期間に該当するものです。</p> <p>期間を調整するには、次のいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 1日間 - 直近の1日のフローの実行に関する情報を表示する 7日間 - 直近の7日間のフローの実行に関する情報を表示する 30日間 - 直近の30日間のフローの実行に関する情報を表示する
合計 ROI	この値は、ログオンしたユーザーが表示できる定義された期間で実行されたすべてのトランジションのROI値の合計です。
貢献率を表す円グラフ	ROIに貢献した主要なフローが、それぞれの貢献率を表す円グラフに表示されます。

使用回数が多い上位 10 個のフロー



GUI アイテム	説明
結果の分布の棒グラフ	<p>最も使用回数の多い 10 個のフローについて、それぞれの終了した実行数が表示されます。終了した実行とは、ステータスが成功、エラー、完了に失敗、診断済み、または操作なしの実行を意味します。これには、一時停止、実行中、キャンセル済み、キャンセルの保留中、または一時停止の保留中のフローは含まれません。</p> <p>棒グラフには、ステータスに応じた実行の相対的な分布が表示されます。ステータスは、次のように色分けされます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 緑: 完了 - 解決済み • 赤: 完了 - エラー • グレー: 完了 - 操作なし • 青: 完了 - 診断済み • 黄色: 完了できませんでした <p>これらの色は、[実行エクスプローラー] のステータスアイコンの色と同じです。</p> <div style="background-color: #f0f0f0; padding: 5px; border: 1px solid #ccc;"> <p>ヒント 色分けされたステータスを識別するには、棒グラフの色の上にカーソルを置いてツールチップを表示します。</p> </div>
平均実行時間の棒グラフ	<p>期間として設定された期間で終了した各フローの実行に基づいて、そのフローの平均時間が表示されます。</p> <p>棒グラフにはフローの期間が上位 10 個のほかのフローと比較する形で表示されます。</p>
ROI 列	<p>各フローの ROI 値を表示します。</p> <p>コインの枚数は、上位 10 個のフローと比較した相対的な ROI スコアを表示します。</p>

システム構成のセットアップ



システム構成のセットアップは、HP OO のインストール後に、通常システム管理者によって実行されます。

セキュリティのセットアップ – 役割	24
セキュリティのセットアップ – LDAP 認証	34
セキュリティのセットアップ – 内部ユーザー	56
セキュリティのセットアップ – SAML 認証	62
セキュリティのセットアップ – LW SSO	69
セキュリティバナーのセットアップ	74
トポロジのセットアップ – ワーカー	77
トポロジのセットアップ – 構成	83
ブラウザーの言語の設定	85
認証の有効化	87

セキュリティのセットアップ – 役割

 HP OO Central タスクへのアクセスは、役割ベースのアクセス制御 (RBAC) を使用して管理されます。RBAC を使用すると、管理者は役割に基づいて HP OO ユーザーが実行できる操作を制御できます。

- **アクセス許可**とは、ある作業を実行できるかどうかを事前に定義したものです。Central には役割に割り当てられるアクセス許可のセットが提供されています。
- **役割**とは、アクセス許可の集合です。役割はユーザーに割り当てることができます。

たとえば、フローの実行、スケジュールの表示、フローのスケジュール、実行の管理、およびレポートの作成を行うアクセス許可を持つフローマネージャーという役割を作成することができます。エンドユーザーの役割では、フローを実行するアクセス許可はありますが、フローをスケジュールするアクセス許可はありません。役割をスケジュールのアクセス許可なしでセットアップした場合、この役割を使用しても、スケジューラーモジュールを表示することもできません。

利用できるアクセス許可が数多く用意されているため、各役割で表示できる Web UI の部分を詳細に定義できます。管理者は、ユーザーの各グループに対して専用の UI エクスペリエンスを作成できます。これにより、エンドユーザーは Central を使用しても必要な情報しか表示できないため、システムに危害を及ぼす可能性は制限されます。

注: [役割] タブは、**セキュリティ構成の管理**または**セキュリティ構成の表示**のアクセス許可を持つ役割が割り当てられている場合にのみ、表示されます。役割を編集できるのは、**セキュリティ構**

成の管理のアクセス許可を持つ役割がある場合のみです。

役割をセットアップすると、それらの役割を内部ユーザーに割り当てるか、LDAP ユーザーまたは SAML ユーザーにマッピングできます。

- 管理者はある役割を1つ以上のグループにマッピングし、これらのグループに割り当てられている LDAP ユーザーに、その役割のアクセス許可を割り当てることができます。
- 管理者は、ユーザー構成のセットアップ中に、役割を内部ユーザーに割り当てることができます。詳細については、「[セキュリティのセットアップ - 内部ユーザー](#)」(56ページ)を参照してください。

デフォルトで Central には、Studio の該当する役割に合わせて、ADMINISTRATOR と EVERYBODY の役割が含まれています。

注: 役割ベースのアクセス制御は、コンテンツアクセス許可とは異なります。データ(フローおよびフォルダー)へのアクセスを制限する場合、そのコンテンツのアクセス許可を構成する必要があります。これは、コンテンツパックの昇格の一環として実行されます。コンテンツアクセス許可については、「[フローライブラリの管理](#)」(113ページ)を参照してください。

実行する操作

役割の作成

注: 役割を作成および編集するには、**セキュリティ構成の管理**のアクセス許可がある必要があります。



1. [システム構成] ボタンをクリックして、システム構成を表示します。
2. [セキュリティ] > [役割] を選択します。
3. [追加] + ボタンをクリックします。

役割の詳細
🔍 ✕

名前

説明

アクセス許可

グループ

実行管理

スケジュールの表示 スケジュールの管理 他ユーザーの実行の管理

リモートデバッグ

コンテンツ

コンテンツパックの表示 構成アイテムの表示 フローのアクセス許可の管理

コンテンツパックの管理 構成アイテムの管理

システム

システム設定の表示 トポロジの表示 セキュリティ構成の表示

システム設定の管理 トポロジの管理 セキュリティ構成の管理

ダッシュボード

ダッシュボードの表示

4. [名前] ボックスに、役割の一意の名前を入力します。役割名に使用できる文字数は、最大 255 文字です。
5. [説明] ボックスに、役割の説明を入力します。役割名に使用できる文字数は、最大 255 文字です。
6. この役割に割り当てるアクセス許可の横にあるチェックボックスを選択します。アクセス許可は、4 つの Central ワークスペースに従ってグループ化されます。ワークスペース内のどのアクセス許可も役割に割り当てられていない場合、この役割を持つユーザーはそのワークスペースに入ることができません。

実行管理

- **スケジュールの表示** – スケジュールを表示するアクセス許可
- **スケジュールの管理** – スケジュールを作成および変更するアクセス許可
- **他ユーザーの実行の管理** – 他ユーザーがトリガーした実行を変更するアクセス許可

- **リモートデバッグ** – リモート Central で Studio Debugger をトリガーするアクセス許可 このアクセス許可は、すべてのフローライブラリの表示と実行のアクセス許可も付与します。

コンテンツ

- **コンテンツパックの表示** – コンテンツパックを表示するアクセス許可
- **コンテンツパックの管理** – コンテンツパックの変更、コンテンツのデプロイ、およびデプロイメントのロールバックを行うアクセス許可
- **構成アイテムの表示** – 構成アイテム (グループエイリアス、システムアカウント、システムプロパティなど) を表示するアクセス許可
- **構成アイテムの管理** – 構成アイテム (グループエイリアス、システムアカウント、システムプロパティなど) を変更するアクセス許可
- **フローのアクセス許可の管理** – コンテンツアクセス許可 (フローおよびフォルダー用) を変更するアクセス許可

システム

- **システム設定の表示** – 監視およびシステム情報のレポートを表示するアクセス許可

注: これらのレポートには、HP サポートの情報が含まれています。

- /oo/reports/sysinfo にはシステム構成が表示されます
- /oo/monitoring はパフォーマンス監視ダッシュボードです

- **システム設定の管理** – REST API を使用してログレベルを構成するアクセス許可
- **トポロジの表示** – ワーカーおよびワーカーグループを表示するアクセス許可
- **トポロジの管理** – ワーカーを有効/無効にし、ワーカーグループを構成するアクセス許可
- **セキュリティ構成の表示** – セキュリティ構成を表示するアクセス許可。この中には、内部ユーザー、LDAP 認証、および役割の表示が含まれます。
- **セキュリティ構成の管理** – セキュリティ構成を変更するアクセス許可。この中には、内部ユーザー、LDAP 認証、LW SSO、および役割の変更が含まれます。

ダッシュボード

- **ダッシュボードの表示** – ダッシュボードを表示するアクセス許可

7. この役割を LDAP グループにマッピングするには、[グループ] タブをクリックします。

詳細については、「[役割のグループへのマッピング](#)」を参照してください。

8. **[保存]** をクリックして、役割を保存します。
9. 認証機能を有効にするには **[認証を有効にする]** チェックボックスを選択し、**[認証を有効にする]** ダイアログボックスを表示します。

注: **[認証を有効にする]** チェックボックスを使用できるのは、今後認証を無効にできるアクセス許可を持つ既存の内部ユーザーまたは LDAP ユーザーがいる場合のみです。

[認証を有効にする] チェックボックスをオフにすると、認証は行われず、すべてのユーザーがすべてのタスクにアクセスできます。

10. **[認証を有効にする]** ダイアログボックスで、管理者のユーザー名とパスワードを入力し、**[OK]** をクリックします。

注: LDAP ドメインの選択を設定したら、認証のドメインも選択する必要があります。

役割の編集

役割を編集するには、**セキュリティ構成の管理**のアクセス許可がある必要があります。

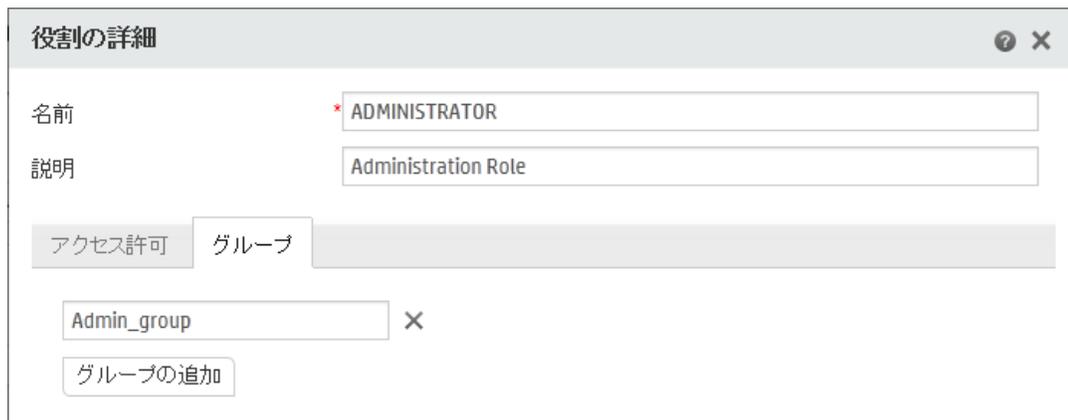
1. **[セキュリティ]** > **[役割]** を選択します。
2. 編集する役割を選択し、**[編集]**  ボタンをクリックします。
3. **[役割の詳細]** ダイアログボックスで必要な変更を行います。
4. **[保存]** をクリックします。

役割の削除

1. **[セキュリティ]** > **[役割]** を選択します。
2. 削除する役割を選択し、**[削除]**  ボタンをクリックします。
3. 確認ダイアログボックスで **[OK]** をクリックします。

役割のグループへのマッピング

1. **[セキュリティ]** > **[役割]** を選択します。
2. グループにマッピングする役割を選択し、**[編集]**  ボタンをクリックします。
3. **[役割の詳細]** ダイアログボックスで、**[グループ]** タブをクリックします。



4. [グループの追加] ボタンをクリックして、新しいマッピングを追加します。
5. テキストボックスに、この役割をマッピングするグループの名前を入力します。
6. 必要に応じて、さらに[グループの追加] ボタンをクリックして、役割をほかのグループにマッピングします。
7. [保存] をクリックします。

グループに対する役割のマッピングの削除

1. [セキュリティ] > [役割] を選択します。
2. グループへのマッピングを削除する役割を選択し、[編集]  ボタンをクリックします。
3. [役割の詳細] ダイアログボックスで、[グループ] タブをクリックします。
4. 削除するマッピングの横にある[削除]  ボタンをクリックします。

注: マッピングを削除する場合、確認ダイアログボックスはありません。削除を中止する場合は、[キャンセル] をクリックして、保存せずに[役割の詳細] ダイアログボックスを閉じます。

5. [保存] をクリックします。

デフォルトの役割としての役割の割り当て

役割をデフォルトの役割として定義すると、役割が割り当てられていないすべてのユーザーにその役割が割り当てられます。

1. [セキュリティ] > [役割] を選択します。
2. デフォルトの役割として指定する役割を選択します。
3. [役割] ツールバーの[デフォルトの役割の設定]  ボタンをクリックします。

デフォルトの役割の機能の削除

すべてのユーザーに割り当てるデフォルトの役割が不要な場合は、役割をデフォルトの役割として定義してから削除します。このような処理が必要になるのは、たとえば、LDAP が構成済みで、その LDAP のすべてのユーザーには HP OO へのアクセス権を与えたくないような場合です。

1. [セキュリティ] > [役割] を選択します。
2. 新しい役割を作成します。たとえば、**ToDelete** のような役割を作成します。
3. [役割] ツールバーの [デフォルト]  ボタンをクリックして、選択した役割をデフォルトの役割にします。
4. デフォルトの役割を選択して、[削除]  ボタンをクリックします。
5. 確認ダイアログボックスで [OK] をクリックします。

参照情報

[セキュリティ] > [役割]

セキュリティ トポロジ

認証を有効にする

役割 LDAP 内部ユーザー SAML SSO セキュリティパナー

+ ✎ ✕ 

役割名	説明	グループ
ADMINISTRATOR	Administration Role	
END_USER	End User Role	
 EVERYBODY	Everybody Role	
PROMOTER	Promoter Role	
SYSTEM_ADMIN	System Administrator Role	

GUI アイテム	説明
[認証を有効にする] チェックボックス	HP OO のユーザー認証機能を有効にするには、このチェックボックスを選択します。このチェックボックスをオフにすると、認証は行われず、すべてのユーザーがすべてのタスクにアクセスできます。 注: LDAP ドメインの選択を設定したら、認証のドメインも選択する必要があります。
[追加] + ボタン	[役割の詳細] ダイアログボックスが開き、新しい役割を追加できます。

[編集]  ボタン	[ユーザー構成] ダイアログボックスが開き、選択した役割を編集できます。
[削除]  ボタン	選択した役割を削除します。
[デフォルトの役割の設定]  ボタン	選択した役割をデフォルトの役割にします。
役割名	役割名を表示します。
説明	役割の説明を表示します。
グループ	役割にマッピングされたグループを表示します。

[役割の詳細] ダイアログボックス > [アクセス許可] タブ

役割の詳細
 

名前 * ADMINISTRATOR

説明 Administration Role

アクセス許可

グループ

実行管理

スケジュールの表示 スケジュールの管理 他ユーザーの実行の管理

リモートデバッグ

コンテンツ

コンテンツパックの表示 構成アイテムの表示 フローのアクセス許可の管理

コンテンツパックの管理 構成アイテムの管理

システム

システム設定の表示 トポロジの表示 セキュリティ構成の表示

システム設定の管理 トポロジの管理 セキュリティ構成の管理

ダッシュボード

ダッシュボードの表示

キャンセル
保存

GUI アイテム	説明
----------	----

名前	最大 255 文字の役割の名前を入力します。
説明	最大 255 文字の役割の説明を入力します。
実行管理	
スケジュールの表示	スケジュールを表示するアクセス許可
スケジュールの管理	スケジュールを作成および変更するアクセス許可
他ユーザーの実行の管理	ほかのユーザーがトリガーした実行を変更するアクセス許可
リモートデバッグ	リモート Central で Studio Debugger をトリガーするアクセス許可このアクセス許可は、すべてのフローライブラリの表示と実行のアクセス許可も付与します。
コンテンツ	
コンテンツパックの表示	コンテンツパックを表示するアクセス許可
コンテンツパックの管理	コンテンツパックの変更、コンテンツのデプロイ、およびデプロイメントのロールバックを行うアクセス許可
構成アイテムの表示	構成アイテム (グループエイリアス、システムアカウント、システムプロパティなど) を表示するアクセス許可
構成アイテムの管理	構成アイテム (グループエイリアス、システムアカウント、システムプロパティなど) を変更するアクセス許可
フローのアクセス許可の管理	コンテンツアクセス許可 (フローおよびフォルダー用) を変更するアクセス許可
システム	
システム設定の表示	監視およびシステム情報のレポートを表示するアクセス許可。これらのレポートには以下の HP サポート用の情報が含まれています。 <ul style="list-style-type: none"> • <code>/oo/reports/sysinfo</code> にはシステム構成が表示されます • <code>/oo/monitoring</code> はパフォーマンス監視ダッシュボードです
システム設定の管理	REST API を使用してログレベルを構成するアクセス許可
トポロジの表示	ワーカーおよびワーカーグループを表示するアクセス許可
トポロジの管理	ワーカーを有効/無効にし、ワーカーグループを構成するアクセス許可

セキュリティ構成の表示	セキュリティ構成を表示するアクセス許可。この中には、内部ユーザー、LDAP 認証、および役割の表示が含まれます。
セキュリティ構成の管理	セキュリティ構成を変更するアクセス許可。この中には、内部ユーザー、LDAP 認証、LW SSO、および役割の変更が含まれています。
ダッシュボード	
ダッシュボードの表示	ダッシュボードを表示するアクセス許可

[役割の詳細] ダイアログボックス > [グループ] タブ

役割の詳細

名前 * ADMINISTRATOR

説明 Administration Role

アクセス許可 グループ

Admin_group X

グループの追加

GUI アイテム	説明
[グループの追加] ボタン	テキストボックスが表示され、この役割からグループへのマッピングを作成できます。
テキストボックス	テキストボックスに、この役割をマッピングするグループの名前を入力します。
[削除] X ボタン	横にあるテキストボックスのマッピングを削除します。

セキュリティのセットアップ – LDAP 認証

 LDAP 認証 サービスを使用している場合、LDAP 構成を Central に追加できます。ユーザーは、組織から資格情報をシステムに提供することでログインできます。この変更は動的に行われ、変更を適用するために Central を再起動する必要はありません。

管理者は、ユーザーが所属している LDAP グループに HP OO の役割をマッピングし、ユーザーがシステムで実行できる操作を制御できます。役割の詳細については、「[セキュリティのセットアップ – 役割 \(24ページ\)](#)」を参照してください。

組織で複数の LDAP サーバーを使用している場合は、Central ですべてのサーバーが動作するように構成することができます。LDAP は、スキームが異なり、ベンダーが異なってもかまいません。たとえば、Active Directory (Microsoft LDAP) を組織の一部に実装し、Sun One (Oracle LDAP) を別の箇所で実装することができます。

さまざまなドメイン上に複数の LDAP 構成をセットアップした場合、HP OO にログインするユーザーは、ドロップダウンリストからアクティブなドメインを選択する必要があります。LDAP 構成の 1 つがデフォルトに設定されている場合や、構成されているのが内部ユーザーのみの場合、ドロップダウンリストは表示されません。

注: LDAP サービスがない場合、HP OO のユーザー名とパスワードを使用してログインする内部ユーザーをセットアップできます。このオプションの詳細については、「[セキュリティのセットアップ – 内部ユーザー \(56ページ\)](#)」を参照してください。

ユーザー認証機能なしで Central を実行することもできます。すべての Central ユーザーは "anonymous" として識別され、システムで認証が求められません。すべての Central ユーザーは、システム内ですべての操作 (トリガー、コンテンツ管理、システム構成など) を行うフル管理者アクセス権限を持ちます。

注: [LDAP] タブは、**セキュリティ構成の管理**または**セキュリティ構成の表示**のアクセス許可を持つ役割が割り当てられている場合にのみ、表示されます。LDAP 認証を編集できるのは、**セキュリティ構成の管理**のアクセス許可を持つ役割がある場合のみです。

注: HP OO 10.x と以前のバージョンでの LDAP の構成の比較については、『HP OO リリースノート』を参照してください。

デフォルト LDAP

HP OO 10.x 以前のバージョンでは、ユーザーは認証時にドメインを指定する必要はありませんでした。最初に LDAP で処理を行い、ユーザーが見つからない場合内部ユーザーで処理を行う動作となっていました。この動作をアップグレード後も維持するため、「デフォルト LDAP」機能が用意されています。デフォルト LDAP が設定されている場合、ドメイン指定のない場合は最初にデフォルトの LDAP で認証を試み、次に内部ユーザーで試みます。「[デフォルト LDAP 認証構成の設定](#)」を参照してください。

注: HP OO 10.x 以前のバージョンからアップグレードした場合、以前のバージョンで設定されてい

た LDAP がデフォルトとして設定されます。

実行する操作

LDAP 認証構成の追加 (Active Directory を除く)

この手順は、Active Directory を除くすべての LDAP 認証設定で該当します。Active Directory 設定を作成する場合は、「[Active Directory LDAP 認証構成の追加](#)」を参照してください。

1. [システム構成]  ボタンをクリックして、システム構成を表示します。
2. [セキュリティ] > [LDAP] を選択します。
3. [追加] メニューから、追加する LDAP 設定の種類を選択します。



[LDAP] タブに、選択した LDAP 設定に関連するフィールドが表示されます。

認証を有効にする

役割 LDAP 内部ユーザー SAML SSO セキュリティバナー

追加 ×

新しい名前 (1) ×

新しい名前 (2) ×

テスト 元に戻す 保存

LDAPの詳細

LDAPタイプ: Sun ONE

ドメイン: * 新しい名前 (2)

特権を持つユーザーのDN:

特権を持つユーザーのパスワード:

有効

接続*

セキュリティで保護されたチャンネル

+ × 全 ↓

ホスト ポート

グループ

グループDN: * ...

ユーザーDN別グループ化フィルター: * (&(objectclass=groupofuniquenames)(u

グループ名属性: * cn

グループのサブ検索範囲

ユーザー

ユーザーDN: * ...

ユーザーフィルター: * (&(uid={0})((objectclass=inetOrgPerson

ユーザー共通名属性: * cn

ユーザーのサブ検索範囲

4. [ドメイン] ボックスにドメインの名前を入力します。

たとえば、LDAP 設定が1つのみの場合は、会社名を入力しても良いでしょう。複数のLDAP 設定がある場合は、それぞれを識別できる名前を各ドメインに付けます。

ユーザーがHP OO にログインする場合、有効なドメインのドロップダウンリストから選択できます。

ドメイン名が、左側のLDAP ナビゲーションペインに表示されます。

5. [特権を持つユーザーのDN] ボックスに、検索特権があるユーザーの識別名を入力します。

スケジューラーなどの一部のHP OO 機能では検索を使用するため、特権ユーザーを指定することをお勧めします。特権ユーザーがない場合 LDAP の設定内容によってはこの機能が適切に動作しない可能性があります。

例: uid=john,ou=people,dc=devlab,dc=ad

注: このような特権を持つユーザーの正確な DN を使用してください。

6. [特権を持つユーザーのパスワード] ボックスに、検索特権があるユーザーのパスワードを入力します。

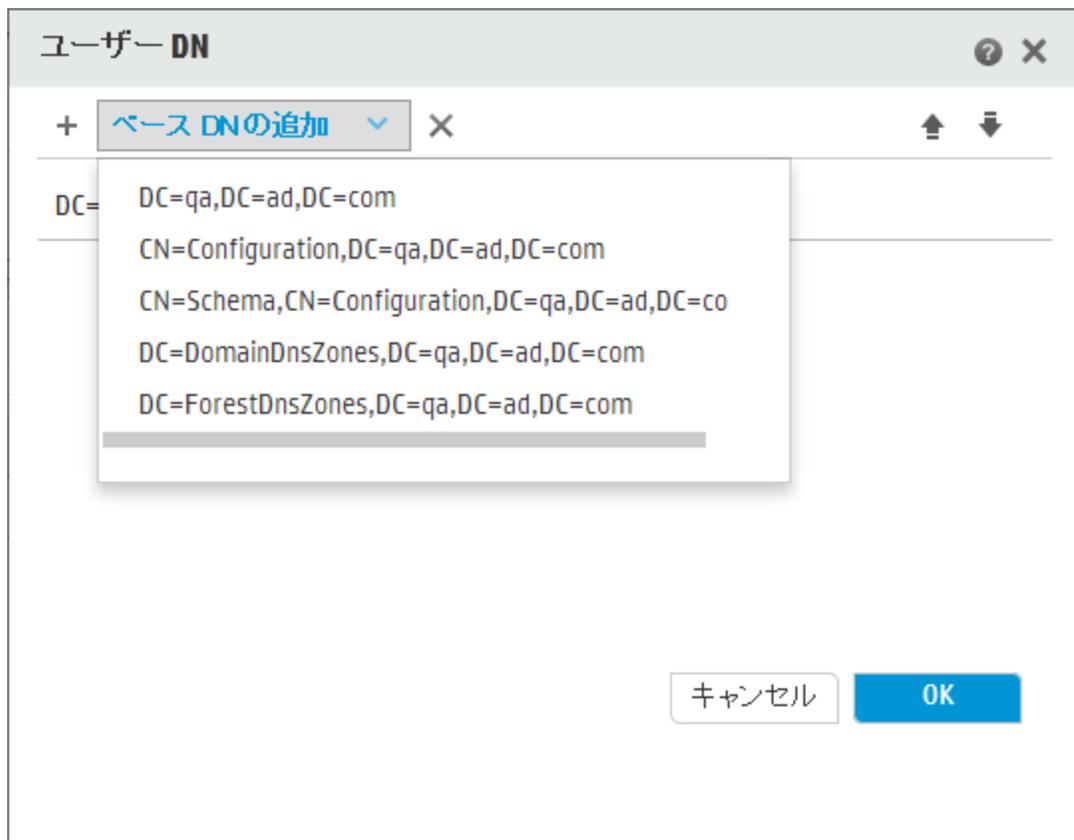
7. [有効にする] チェックボックスを選択して、このLDAP の認証を有効にします。

8. [接続] セクションで[セキュリティで保護されたチャンネル]を選択して、セキュリティで保護されたトランスポートレイヤー接続をサポートします。

9. **[ホスト]** ボックスに、LDAP サーバーの IP アドレスまたはホスト名を入力します。
10. **[ポート]** ボックスに、LDAP サーバーのポート番号を入力します。この値は 0 ~ 64435 の間にしてください。
11. 複数の LDAP サーバーがある場合、**[追加 +]** ボタンをクリックして新しい行を追加し、ホストとポートを追加します。
12. リストの接続を上下に移動するには、**[上]** および **[下]**   矢印を使用します。リストの上のほうにある接続が、フェールオーバー時の優先度が上になります。
13. **[ユーザー DN]** ボックスの横の参照ボタン  をクリックして、**[ユーザー DN]** ダイアログボックスを開き、ユーザーの識別名を定義します。
 - ユーザー DN が分かっている場合、**[行の追加] +** ボタンをクリックして空の行を追加し、ユーザー DN 情報を手動で入力します。複数の LDAP ホストがある場合は、区切り文字として ";" を使用します。

例: ou=people,dc=devlab,dc=ad;ou=people,dc=devlab,dc=com
 - 正確な構文が分からない場合、**[ベース DN の追加]** をクリックして、ベース DN を LDAP から取得します。

使用可能なルート DN のリストから、目的に近い DN を選択して修正します。



14. リストの接続を上下に移動するには、[上] および [下]   矢印を使用します。リストの先頭にあるアイテムが最初に使用されます。
15. [OK] をクリックして、[ユーザー DN] ダイアログボックスを閉じ、情報を [ユーザー DN] ボックスに読み込みます。
16. [ユーザーフィルター] ボックスに、ユーザーをフィルタリングするための検索フィルターパラメーターを入力します。このフィルターは、[ユーザー DN] ボックスに入力したそれぞれのユーザー DN に適用されます。

このフィルターは非常に一般的なものであるため、デフォルト値が機能しても、変更することをお勧めします。フィルターに objectclass 属性を含めることを強くお勧めします。

注: このフィルターでは、{0} はユーザー ID のプレースホルダーです。ユーザーがログインするときに、{0} 自動的に提供されたユーザー名に置き換わります。

17. [ユーザー共通名属性] ボックスに、画面に表示されるユーザー名を定義する属性を入力します。

注: ほとんどのLDAP 実装では、cn がデフォルトです。

18. ユーザーフィルターを再帰的に実行する場合、[ユーザーのサブ検索範囲] チェックボックスを選択します。

注: 再帰的な検索が不要な場合、このチェックボックスの選択はお勧めしません。

19. [グループ DN] ボックスの横の参照ボタン  をクリックして、[グループ DN] ダイアログボックスを開き、グループの識別名を定義します。

これは、ユーザーの識別名を定義する場合と同様です。

20. [ユーザー DN 別グループ化フィルター] ボックスに、グループをフィルタリングするための検索フィルターパラメータを入力します。これは、指定されたユーザーがメンバーになっているグループをフィルタリングします。このフィルターは各グループ DN に適用されます。

このフィルターは非常に一般的なものであるため、デフォルト値が機能しても、変更することをお勧めします。フィルターに objectclass 属性を含めることを強くお勧めします。

21. [グループ名属性] ボックスに、UI に表示されるグループの名前を定義する属性を入力します。

注: ほとんどのLDAP 実装では、cn がデフォルトです。

22. グループフィルターを再帰的に実行する場合、[グループのサブ検索範囲] チェックボックスを選択します。

注: 再帰的な検索が不要な場合、このチェックボックスの選択はお勧めしません。

23. 保存する前に、構成をテストしてください。詳細については、「[構成のテスト](#)」を参照してください。

24. [保存] をクリックして、設定を保存します。

注: 認証を有効にする前に、変更を保存してください。保存しないと、認証に変更内容が反映されません。

LDAP 設定が保存されていない場合、アスタリスクが左側のLDAP ナビゲーションペインのドメイン名の横に表示されます。保存する前にページを閉じると、未保存の変更内容があることが警告されます。

25. 認証機能を有効にするには [認証を有効にする] チェックボックスを選択し、[認証を有効にする]

ダイアログボックスを表示します。

注: [認証を有効にする] チェックボックスを使用できるのは、今後認証を無効にできるアクセス許可を持つ既存の内部ユーザーまたはLDAPユーザーがいる場合のみです。

[認証を有効にする] チェックボックスをオフにすると、認証は行われず、すべてのユーザーがすべてのタスクにアクセスできます。

26. [認証を有効にする] ダイアログボックスで、管理者のユーザー名とパスワードを入力し、[OK] をクリックします。

Active Directory LDAP 認証構成の追加

この手順は、Active Directory 構成専用です。別のLDAP構成を作成する場合は、「[LDAP 認証構成の追加 \(Active Directory を除く\)](#)」を参照してください。



1. [システム構成] ボタンをクリックして、システム構成を表示します。
2. [セキュリティ] > [LDAP] を選択します。
3. [追加] メニューから [Active Directory] を選択します。

[LDAP] タブに Active Directory の表示が表示されます。

認証を有効にする

役割 LDAP 内部ユーザー SAML SSO セキュリティパナー

追加

新しい名前 (1)
新しい名前 (2)

LDAPの詳細

LDAPタイプ: Active Directory

ドメイン: * 新しい名前 (2)

特権を持つユーザー名

特権を持つユーザーのパスワード:

有効

ユーザー

ユーザーDN: *

ユーザーフィルター: * (&(objectclass=person)(sAMAccountName=*))

ユーザー共通名属性: * displayName

グループメンバーシップ属性: * memberOf

ユーザーのサブ検索範囲

接続 *

セキュリティで保護されたチャンネル

ホスト ポート

グループ

グループ名属性: * cn

4. **[ドメイン]** ボックスに、認証に使用する AD ショートドメイン (EMEA、US、ASIA など) を入力します。ユーザーが HP OO にログインする場合、有効なドメインのドロップダウンリストから選択できます。

ドメイン名が、左側の LDAP ナビゲーションペインに表示されます。

5. **[特権を持つユーザー名]** ボックスに、検索特権があるユーザー名を入力します。

スケジューラーなどの一部の HP OO 機能では検索を使用するため、特権ユーザーを指定することをお勧めします。特権ユーザーがない場合、この機能が適切に動作しない可能性があります。

6. **[特権を持つユーザーのパスワード]** ボックスに、検索特権があるユーザーのパスワードを入力します。

7. **[有効にする]** チェックボックスを選択して、この LDAP の認証を有効にします。

8. **[接続]** セクションで **[セキュリティで保護されたチャンネル]** を選択して、セキュリティで保護されたトランスポートレイヤー接続をサポートします。

9. **[ホスト]** ボックスに、LDAP サーバーの IP アドレスまたはホスト名を入力します。

10. **[ポート]** ボックスに、LDAP サーバーのポート番号を入力します。この値は 0 ~ 64435 の間にしてください。

11. 複数の LDAP サーバーがある場合、**[追加 +]** ボタンをクリックして新しい行を追加し、ホストとポートを追加します。

12. リストの接続を上下に移動するには、**[上]** および **[下]**   矢印を使用します。リストの上のほうにある接続が、フェールオーバー時の優先度が上になります。

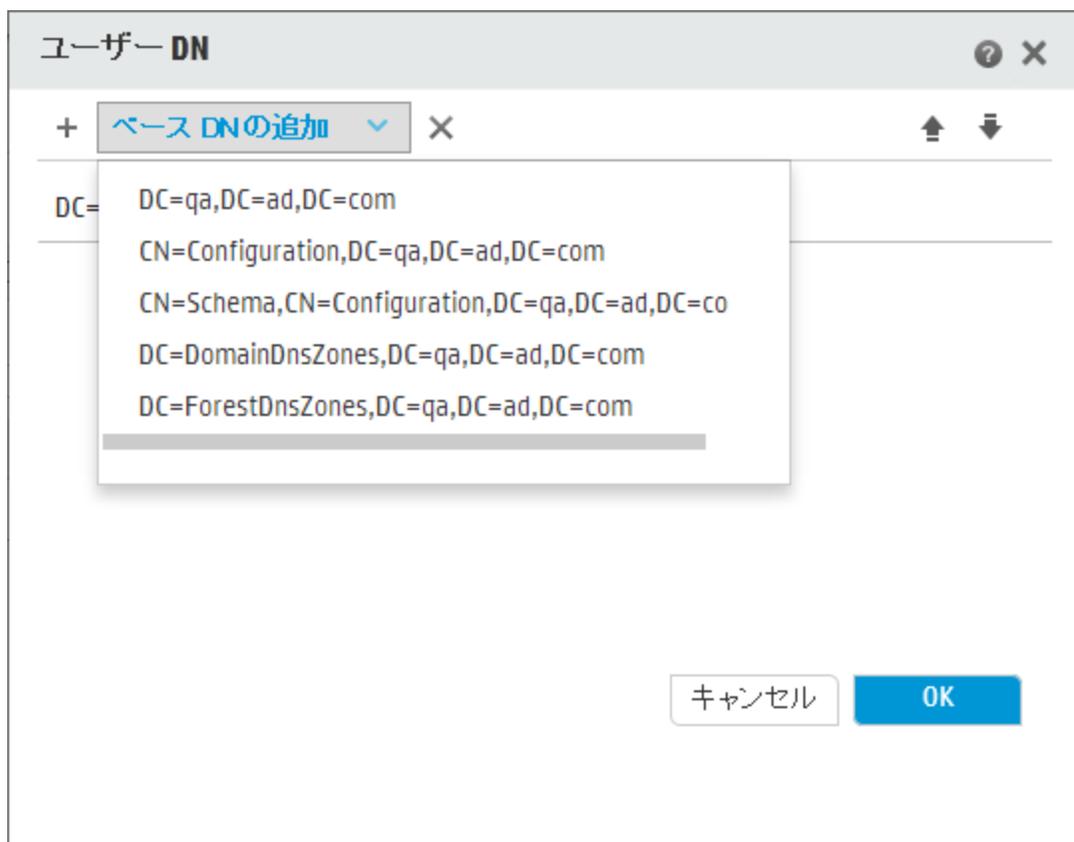
13. **[ユーザー DN]** ボックスの横の参照ボタン  をクリックして、**[ユーザー DN]** ダイアログボックスを開き、ユーザーの識別名を定義します。

- ユーザー DN が分かっている場合、**[行の追加] +** ボタンをクリックして空の行を追加し、ユーザー DN 情報を手動で入力します。複数の LDAP ホストがある場合は、区切り文字として ";" を使用します。

例: ou=people,dc=devlab,dc=ad;ou=people,dc=devlab,dc=com

- 正確な構文が分からない場合、**[ベース DN の追加]** をクリックして、ベース DN を LDAP から取得します。

使用可能なルート DN のリストから、目的に近い DN を選択して修正します。



14. リストの接続を上下に移動するには、[上] および [下]   矢印を使用します。リストの先頭にあるアイテムが最初に使用されます。
15. [OK] をクリックして、[ユーザー DN] ダイアログボックスを閉じ、情報を [ユーザー DN] ボックスに読み込みます。
16. [ユーザーフィルター] ボックスに、ユーザーをフィルタリングするための検索フィルターパラメーターを入力します。このフィルターは、[ユーザー DN] ボックスに入力したそれぞれのユーザー DN に適用されます。

このフィルターは非常に一般的なものであるため、デフォルト値が機能しても、変更することをお勧めします。フィルターに objectclass 属性を含めることを強くお勧めします。

注: このフィルターでは、{0} は sAMAccountName ユーザーのプレースホルダーです。ユーザーがログインすると、{0} は自動的に入力されたユーザー名に置き換わります。

17. [ユーザー共通名属性] ボックスに、画面に表示されるユーザー名を定義する属性を入力します。

注: たとえば、displayName のようになります。

18. [グループメンバーシップ属性] ボックスに、ユーザーが属するグループを示す属性を入力します。

例: memberOf

19. ユーザーフィルターを再帰的に実行する場合、[ユーザーのサブ検索範囲] チェックボックスを選択します。

注: 再帰的な検索が不要な場合、このチェックボックスの選択はお勧めしません。

20. [グループ名属性] ボックスに、UI に表示されるグループの名前を定義する属性を入力します。

注: ほとんどの LDAP 実装では、cn がデフォルトです。

21. 保存する前に、構成をテストしてください。詳細については、「[構成のテスト](#)」を参照してください。

22. [保存] をクリックして、設定を保存します。

注: 認証を有効にする前に、変更を保存してください。保存しないと、認証に変更内容が反映されません。

LDAP 設定が保存されていない場合、アスタリスクが左側の LDAP ナビゲーションペインのドメイン名の横に表示されます。保存する前にページを閉じると、未保存の変更内容があることが警告されます。

23. 認証機能を有効にするには [認証を有効にする] チェックボックスを選択し、[認証を有効にする] ダイアログボックスを表示します。

注: [認証を有効にする] チェックボックスを使用できるのは、今後認証を無効にできるアクセス許可を持つ既存の内部ユーザーまたは LDAP ユーザーがいる場合のみです。

[認証を有効にする] チェックボックスをオフにすると、認証は行われず、すべてのユーザーがすべてのタスクにアクセスできます。

24. [認証を有効にする] ダイアログボックスで、管理者のユーザー名とパスワードを入力し、[OK] をクリックします。

LDAP 認証構成の編集

1. [セキュリティ] > [LDAP] を選択します。

2. 編集が必要な LDAP 認証構成を選択します。
3. 必要な変更を入力します。
4. 保存する前に、構成をテストしてください。詳細については、「[構成のテスト](#)」を参照してください。
5. [保存] をクリックします。

その値をグループとして使用する属性のリストの構成

グループフィルターの代わりに、グループとして使用される属性名のリストを持つ LDAP 認証構成を設定できます。

これにより、LDAP グループではなく、LDAP 属性でユーザーをグループ化することができます。

1. [セキュリティ] > [LDAP] を選択します。
2. [追加] メニューから [代替グループ] を選択します。



[LDAP] タブに [代替グループ] ビューが表示されます。このビューは非 Active Directory ビューに似ていますが、[代替グループ属性] という追加のテキストボックスがなく、[グループ] セクションもありません。

LDAPの詳細	接続*
LDAPタイプ: <input type="text" value="代替グループ"/>	<input type="checkbox"/> セキュリティで保護されたチャンネル
ドメイン: * <input type="text" value="新しい名前 (1)"/>	+ × <input type="text" value="ホスト"/> <input type="text" value="ポート"/>
特権を持つユーザーのDN: <input type="text"/>	
特権を持つユーザーのパスワード: <input type="text"/>	
<input checked="" type="checkbox"/> 有効	
ユーザー	
ユーザーDN: * <input type="text"/>	
ユーザーフィルター: * <input type="text" value="(&((objectclass=inetOrgPerson)(objectclass=*))"/>	
ユーザー共通名属性: * <input type="text" value="cn"/>	
代替グループ属性: * <input type="text" value="myAttribute1;myAttribute2"/>	
<input checked="" type="checkbox"/> ユーザーのサブ検索範囲	

3. [代替グループ属性] ボックスに、グループとして使用する属性名を入力します。区切り文字としてセミコロン (;) を使用します。
4. 「LDAP 認証構成の追加 (Active Directory を除く)」の説明に従って、[グループ] フィールド以外の残りの構成の詳細を入力します。

デフォルト LDAP 認証構成の設定

デフォルト LDAP 構成が設定されている場合、ドメイン指定のない場合は最初にデフォルトのLDAPで認証を試み、次に内部ユーザーで試みます。

注: [デフォルト]  ボタンは、選択したLDAP構成が保存されている場合にのみ使用できません。

1. 左側のナビゲーションペインから、LDAP 認証構成を1つ選択します。
2. ツールバーの [デフォルト]  ボタンをクリックします。

[デフォルト]  アイコンが、構成名の横に表示されます。



3. この構成をデフォルトでなくするには、その構成名を選択して [デフォルト LDAP の削除]  ボタンをクリックします。

LDAP 認証構成のテスト

1. LDAP の詳細を入力したら、[テスト]  ボタンをクリックします。
2. [LDAP 構成] ダイアログボックスで、ユーザー名とパスワードを入力し、[テスト] をクリックします。

次の情報が、ポップアップメッセージに表示されます。

- 認証が成功したかどうか
- 構成が有効かどうか
- ユーザーが属するグループ (見つかった場合)

LDAP 構成

ユーザー名: * QU_Adv1

ユーザーパスワード:

 認証

認証が成功しました

 構成

現在の LDAP で、特権を持つユーザーの資格情報が構成されている必要があります。
現在の構成では、スケジュールの実行が失敗する可能性があります。
特権を持つユーザーの資格情報を正しく入力していることを確認してください。

 グループ

1. QG_Adv

閉じる テスト

3. テストが完了したら [閉じる] をクリックして、ダイアログボックスを閉じます。

LDAP 認証構成の削除

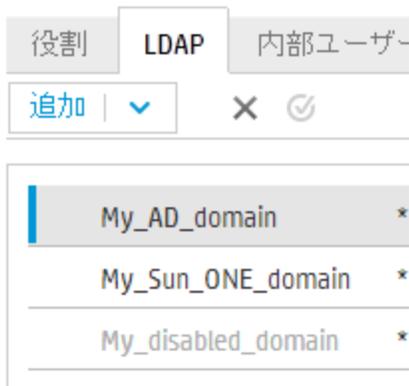
1. LDAP 構成を選択します。
2. ツールバーの [削除]  ボタンをクリックします。
3. 確認のダイアログボックスで [はい] をクリックします。

LDAP 認証構成の無効化

LDAP 構成を一時的に無効にして、詳細を後から使用できるように保存できます。

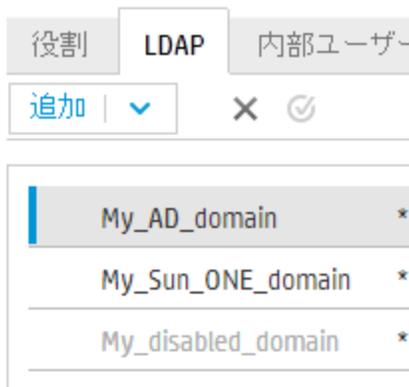
1. LDAP 構成を選択します。
2. [LDAP の詳細] セクションの [有効] チェックボックスをオフにします。

選択した LDAP 構成名が、LDAP ナビゲーションペインにグレーのテキストで表示されます。



参照情報

LDAP ナビゲーションペイン



GUI アイテム	説明
[追加] ボタン	クリックして LDAP タイプのリストを表示し、選択します。
[削除] ボタン	クリックして選択された LDAP 構成を削除します。

<p>[デフォルト] <input checked="" type="checkbox"/> ボタン</p>	<p>クリックして選択された LDAP 構成をデフォルトに設定します。そうすると、ドメイン指定のない場合は最初にこの LDAP で認証を試み、次に内部ユーザーで試みます。</p> <p>デフォルト設定されていない場合、ドメイン指定のない場合は認証を直接内部ユーザーで試みます。</p> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>注: [デフォルト] <input checked="" type="checkbox"/> ボタンは、選択した LDAP 構成が保存されている場合にのみ使用できます。</p> </div>
<p>ナビゲーションペイン</p>	<p>LDAP 構成ドメイン名の名前を表示します。ドメイン名をクリックして構成を編集します。</p>
<p>無効</p>	<p>LDAP 構成の [有効にする] チェックボックスがオフの場合、ドメイン名はグレーのテキストで表示されます。</p>

[セキュリティ] > [LDAP] > [Active Directory 以外の構成]

必須フィールドには赤のアスタリスクが表示されます。*

セキュリティ トポロジ

認証を有効にする

役割 LDAP 内部ユーザー SAML SSO セキュリティパナー

追加 | v x ↺

新しい名前 (1) *

新しい名前 (2) *

LDAP の詳細

LDAP タイプ: Sun ONE

ドメイン: * 新しい名前 (2)

特権を持つユーザーの DN:

特権を持つユーザーのパスワード:

有効

ユーザー

ユーザー DN: * ...

ユーザーフィルター: * (&(uid={0})!(objectclass=inetOrgPerson

ユーザー共通名属性: * cn

ユーザーのサブ検索範囲

接続 *

セキュリティで保護されたチャンネル

ホスト	ポート

グループ

グループ DN: * ...

ユーザー DN 別グループ化フィルター: * (&(objectclass=groupofunique

グループ名属性: * cn

グループのサブ検索範囲

GUI アイテム	説明
<p>[認証を有効にする] チェックボックス</p>	<p>HP OO のユーザー認証機能を有効にするには、このチェックボックスを選択します。このチェックボックスをオフにすると、認証は行われず、すべてのユーザーがすべてのタスクにアクセスできます。</p>

[テスト]  ボタン	クリックして構成をテストします。次の情報が、ポップアップメッセージに表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> • 認証が成功したかどうか • 構成が有効かどうか • ユーザーが属するグループ(見つかった場合)
[元に戻す]  ボタン	クリックして構成をサーバーに最後に保存した構成に戻します。
[保存]  ボタン	クリックして選択されたLDAP構成を保存します。
[LDAPの詳細] セクション	
LDAPタイプ	[追加] メニューから選択したLDAPタイプが表示されます。
ドメイン	ドメインの名前を入力します。これは、ユーザーがHP OOにログインした時に表示される名前です。 たとえば、LDAP設定が1つのみの場合は、会社名を入力しても良いでしょう。複数のLDAP設定がある場合は、それぞれを識別できる名前を各ドメインに付けます。
特権を持つユーザーのDN	検索特権があるユーザーの識別名を入力します。 例: uid=john,ou=people,dc=devlab,dc=ad スケジューラーなどの一部のHP OO機能では検索を使用するため、特権ユーザーを指定することをお勧めします。特権ユーザーがない場合、この機能が適切に動作しない可能性があります。 <div style="background-color: #f0f0f0; padding: 5px; border: 1px solid #ccc;"> 注: このような特権を持つユーザーの正確なDNを使用してください。 </div>
特権を持つユーザーのパスワード	検索特権があるユーザーのパスワードを入力します。
有効	クリックしてこのLDAPの認証を有効にします。
[接続] セクション	
セキュリティで保護されたチャンネル	[セキュリティで保護されたチャンネル] チェックボックスを選択して、セキュリティで保護されたトランスポートレイヤー接続をサポートします。
[追加] ボタン	クリックすると新しい接続が追加されます。
[削除] ボタン	クリックして選択した接続を削除します。
	リストの接続を上下に移動するには、矢印を使用します。リストの上のほうにある接続が、フェールオーバー時の優先度が上になります。

ホスト	LDAP サーバーの IP アドレスまたはホスト名を入力します。 例: 16.55.222.71
ポート	LDAP サーバーのポート番号を入力します。この値は 0 ~ 64435 の間にしてください。 例: 389
[ユーザー] セクション	
ユーザー DN	ユーザーに使用する識別名を定義します。参照ボタン  をクリックして、[ユーザー DN] ダイアログボックスを開きます。「[ユーザー DN]/[グループ DN] ダイアログボックス」を参照してください。
ユーザーフィルター	ユーザーをフィルタリングするための検索フィルターパラメーターを入力します。このフィルターは、[ユーザー DN] ボックスに入力したそれぞれのユーザー DN に適用されます。 このフィルターは非常に一般的なものであるため、デフォルト値が機能しても、変更することをお勧めします。フィルターに objectclass 属性を含めることを強くお勧めします。 注: このフィルターでは、{0} はユーザー ID のプレースホルダーです。ユーザーがログインするときに、{0} 自動的に提供されたユーザー名に置き換わります。
ユーザー共通名属性	画面に表示されるユーザー名を定義します。 注: ほとんどの LDAP 実装では、cn がデフォルトです。
[ユーザーのサブ検索範囲] チェックボックス	ユーザーフィルターを再帰的に実行する場合、このチェックボックスを選択します。 注: 再帰的な検索が不要な場合、このチェックボックスの選択はお勧めしません。
[グループ] セクション	
グループ DN	グループに使用する識別名を定義します。参照ボタン  をクリックして、[グループ DN] ダイアログボックスを開きます。「[ユーザー DN]/[グループ DN] ダイアログボックス」を参照してください。

<p>ユーザー DN 別グループフィルター</p>	<p>グループをフィルタリングするための検索フィルターパラメーターを入力します。これは、指定されたユーザーがメンバーになっているグループをフィルタリングします。このフィルターは各グループ DN に適用されます。</p> <p>このフィルターは非常に一般的なものであるため、デフォルト値が機能しても、変更することをお勧めします。フィルターに objectclass 属性を含めることを強くお勧めします。</p>
<p>グループ名属性</p>	<p>UI に表示されるグループの名前を定義する属性を入力します。</p> <p>注: ほとんどの LDAP 実装では、cn がデフォルトです。</p>
<p>[グループのサブ検索範囲] チェックボックス</p>	<p>グループフィルターを再帰的に実行する場合、このチェックボックスを選択します。</p> <p>注: 再帰的な検索が不要な場合、このチェックボックスの選択はお勧めしません。</p>

[セキュリティ] > [LDAP] > [Active Directory 構成]

必須フィールドには赤のアスタリスクが表示されます。 *

セキュリティ トポロジ

認証を有効にする

役割 LDAP 内部ユーザー SAML SSO セキュリティバナー

追加 | ×

新しい名前 (1) *

新しい名前 (2) *

テスト 元に戻す 保存

LDAP の詳細

LDAP タイプ: Active Directory

ドメイン: * 新しい名前 (2)

特権を持つユーザー名:

特権を持つユーザーのパスワード:

有効

ユーザー

ユーザー DN: *

ユーザーフィルター: * (&(objectclass=person)(SAMAccountName))

ユーザー共通名属性: * displayName

グループメンバーシップ属性: * memberOf

ユーザーのサブ検索範囲

接続 *

セキュリティで保護されたチャネル

ホスト	ポート

グループ

グループ名属性: * cn

HP Operations Orchestration (10.10)

52 / 203 ページ

GUI アイテム	説明
[認証を有効にする] チェックボックス	HP OO のユーザー認証機能を有効にするには、このチェックボックスを選択します。このチェックボックスをオフにすると、認証は行われず、すべてのユーザーがすべてのタスクにアクセスできます。
[テスト]  ボタン	クリックして構成をテストします。次の情報が、ポップアップメッセージに表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> • 認証が成功したかどうか • 構成が有効かどうか • ユーザーが属するグループ (見つかった場合)
[元に戻す]  ボタン	クリックして構成をサーバーに最後に保存した構成に戻します。
[保存]  ボタン	クリックして選択された LDAP 構成を保存します。
[LDAP の詳細] セクション	
LDAP タイプ	[追加] メニューから選択した LDAP タイプが表示されます。
ドメイン	認証するドメインの名前を入力します。 ドメイン名が、左側のナビゲーションペインに表示されます。
特権を持つユーザー名	検索特権があるユーザー名を入力します。 スケジューラーなどの一部の HP OO 機能では検索を使用するため、特権ユーザーを指定することをお勧めします。特権ユーザーがない場合、この機能が適切に動作しない可能性があります。
特権を持つユーザーのパスワード	検索特権があるユーザーのパスワードを入力します。
有効	クリックしてこの LDAP の認証を有効にします。
[接続] セクション	
セキュリティで保護されたチャンネル	[セキュリティで保護されたチャンネル] チェックボックスを選択して、セキュリティで保護されたトランスポートレイヤー接続をサポートします。
[追加] ボタン	クリックすると新しい接続が追加されます。
[削除] ボタン	クリックして選択した接続を削除します。
 	リストの接続を上下に移動するには、矢印を使用します。リストの上のほうにある接続が、フェールオーバー時の優先度が上になります。

ホスト	LDAP サーバーの IP アドレスまたはホスト名を入力します。 例: 16.55.222.71
ポート	LDAP サーバーのポート番号を入力します。この値は 0 ~ 64435 の間にしてください。 例: 389
[ユーザー] セクション	
ユーザー DN	ユーザーに使用する識別名を定義します。参照ボタン  をクリックして、[ユーザー DN] ダイアログボックスを開きます。「 [ユーザー DN]/[グループ DN] ダイアログボックス 」を参照してください。
ユーザーフィルター	ユーザーをフィルタリングするための検索フィルターパラメーターを入力します。このフィルターは、[ユーザー DN] ボックスに入力したそれぞれのユーザー DN に適用されます。 このフィルターは非常に一般的なものであるため、デフォルト値が機能しても、変更することをお勧めします。フィルターに objectclass 属性を含めることを強くお勧めします。 注: このフィルターでは、{0} は sAMAccountName ユーザーのプレースホルダーです。ユーザーがログインすると、{0} は自動的に入力されたユーザー名に置き換わります。
ユーザー共通名属性	画面に表示されるユーザー名を定義します。
グループメンバーシップ属性	ユーザーが属するグループを表示する属性を入力します。 例: memberOf
[ユーザーのサブ検索範囲] チェックボックス	ユーザーフィルターを再帰的に実行する場合、このチェックボックスを選択します。 注: 再帰的な検索が不要な場合、このチェックボックスの選択はお勧めしません。
[グループ] セクション	
グループ名属性	UI に表示されるグループの名前を含む属性を入力します。 注: ほとんどの LDAP 実装では、cn がデフォルトです。

[セキュリティ] > [LDAP] > [代替グループ属性]

[代替グループ] ビューは、その他の非 Active Directory ビューと似ています。ただし、[グループ] セクショ

ではなく、[代替グループ属性] ボックスがあります。

これにより、グループフィルターの代わりに、グループとして使用される属性名のリストを持つ LDAP 認証構成を設定できます。

LDAPの詳細	接続*
LDAPタイプ: <input type="text" value="代替グループ"/> ドメイン: * <input type="text" value="新しい名前 (1)"/> 特権を持つユーザーのDN: <input type="text"/> 特権を持つユーザーのパスワード: <input type="password"/> <input checked="" type="checkbox"/> 有効	<input type="checkbox"/> セキュリティで保護されたチャンネル + × ↑ ↓ ホスト <input type="text"/> ポート <input type="text"/>
ユーザー ユーザーDN: * <input type="text" value="..."/> ユーザーフィルター: * <input type="text" value="(&!(objectclass=inetOrgPerson)(objectclass=*))"/> ユーザー共通名属性: * <input type="text" value="cn"/> 代替グループ属性: * <input type="text" value="myAttribute1;myAttribute2"/> <input checked="" type="checkbox"/> ユーザーのサブ検索範囲	

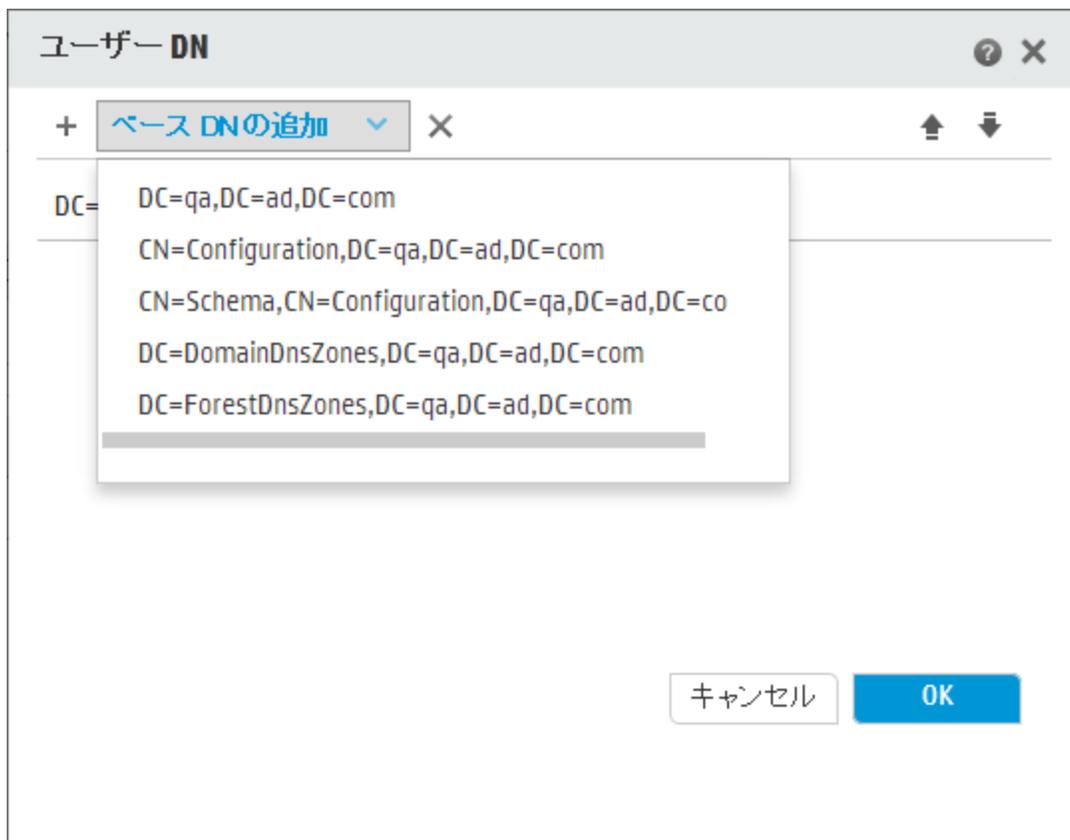
GUI アイテム	説明
代替グループ属性	グループとして使用する属性名を入力します。区切り文字としてセミicolon (;) を使用します。

[ユーザー DN]/[グループ DN] ダイアログボックス

[ユーザー DN] ボックスの横の参照ボタン をクリックして、[ユーザー DN] ダイアログボックスを開きます。

[グループ DN] ボックスの横の参照ボタン をクリックして、[グループ DN] ダイアログボックスを開きます。

2つのダイアログボックスには同じフィールドが表示されます。



GUI アイテム	説明
ベース DN の追加	クリックして LDAP から取得した使用可能なルート DN のリストから選択します。目的に近い DN を選択して修正します。
追加 +	クリックして新しい、空の行を追加し、DN 情報を手動で入力します。 複数の LDAP ホストがある場合は、区切り文字として ";" を使用します。 例: ou=people,dc=devlab,dc=ad;ou=people,dc=devlab,dc=com
削除 ✕	クリックして選択した DN 行を削除します。
↑ ↓	DN 行の順番を調整するには、矢印を使用します。リストの先頭にあるアイテムが最初に使用されます。

セキュリティのセットアップ - 内部ユーザー

 外部認証システム (LDAP など) を使用する代わりに、Central で内部ユーザーをセットアップできます。内部ユーザーは、HP OO のユーザー名とパスワードを使用してログインし、外部認証を必要としません。

管理者は、役割をユーザーに割り当てることによって、ユーザーがシステムで実行できる操作を制御できます。役割の詳細については、「[セキュリティのセットアップ - 役割](#)」(24ページ)を参照してください。

注: [内部ユーザー] タブは、**セキュリティ構成の管理**または**セキュリティ構成の表示**のアクセス許可を持つ役割が割り当てられている場合にのみ、表示されます。ユーザーを編集できるのは、**セキュリティ構成の管理**のアクセス許可を持つ役割が割り当てられている場合のみです。

認証を有効にする

役割	LDAP	内部ユーザー	SAML	SSO	セキュリティバナー
+ / ✎ ✕					
ユーザー名	役割				
<input type="checkbox"/> User1	EVERYBODY				
<input type="checkbox"/> User2	ADMINISTRATOR				

LDAP ユーザーと内部ユーザーの両方に同じユーザー名が割り当てられている場合、Central は LDAP ユーザーに関連付けられます。

実行する操作

ユーザーの追加



1. [システム構成] ボタンをクリックして、システム構成を表示します。
2. [セキュリティ] > [内部ユーザー] を選択します。
3. [追加] + ボタンをクリックします。
4. 次のように内部ユーザーの詳細を入力します。

内部ユーザーの詳細

ユーザー名 *

パスワード

パスワードの確認

役割

<input checked="" type="checkbox"/> ADMINISTRATOR	<input checked="" type="checkbox"/> SYSTEM_ADMIN
<input type="checkbox"/> EVERYBODY	<input type="checkbox"/> END_USER
<input type="checkbox"/> PROMOTER	<input type="checkbox"/> ADMIN

- [ユーザー名] ボックスに、一意なユーザー名を入力します。ユーザー名に使用できる文字数は、最大 255 文字です。
- [パスワード] と [パスワードの確認] の両方のボックスに、パスワードを入力します。パスワードに使用できる文字数は、最大 255 文字です。
- このユーザーに割り当てる各役割の横にあるチェックボックスを選択します。複数の役割をユーザーに割り当てることができます。

注: 複数の役割をユーザーに割り当てると、ユーザーはこれらの割り当てられた役割のすべてのアクセス許可にアクセスできるようになります。アクセス許可の少ない役割があっても、このユーザーのほかの役割内にあるアクセス許可へのアクセスが制限されることはありません。

- [保存] をクリックして、新しいユーザーを保存します。
- 認証機能を有効にするには [認証を有効にする] チェックボックスを選択し、[認証を有効にする]

ダイアログボックスを表示します。

注: [認証を有効にする] チェックボックスを使用できるのは、今後認証を無効にできるアクセス許可を持つ既存の内部ユーザーまたはLDAPユーザーがいる場合のみです。

[認証を有効にする] チェックボックスをオフにすると、認証は行われず、すべてのユーザーがすべてのタスクにアクセスできます。

7. [認証を有効にする] ダイアログボックスで、管理者のユーザー名とパスワードを入力し、[OK] をクリックします。

ユーザーアカウントの編集



1. [システム構成] ボタンをクリックして、システム構成を表示します。
2. [セキュリティ] > [内部ユーザー] を選択します。
3. 編集するユーザーの横にあるチェックボックスを選択し、[編集] ボタンをクリックします。

注: [編集] ボタンが有効になるのは、1人のユーザーを選択した場合のみです。

4. [ユーザー構成] ダイアログボックスで必要な変更を行います。
5. [保存] をクリックします。

ユーザーの削除

1. [セキュリティ] > [内部ユーザー] を選択します。
2. 削除する1人以上のユーザーを選択し、[削除] ボタンをクリックします。

注: [削除] ボタンが有効になるのは、少なくとも1人のユーザーを選択した場合のみです。

3. 確認ダイアログボックスで [OK] をクリックします。

注: ユーザーが自分自身のアカウントを削除することはできません。

参照情報

[セキュリティ] > [内部ユーザー]

認証を有効にする

役割	LDAP	内部ユーザー	SAML	SSO	セキュリティバナー
+ / ✎ ✕					

ユーザー名	役割
<input type="checkbox"/> User1	EVERYBODY
<input type="checkbox"/> User2	ADMINISTRATOR

GUI アイテム	説明
[認証を有効にする] チェックボックス	HP OO のユーザー認証機能を有効にするには、このチェックボックスを選択します。このチェックボックスをオフにすると、認証は行われず、すべてのユーザーがすべてのタスクにアクセスできます。
[追加] + ボタン	[内部ユーザーの詳細] ダイアログボックスが開き、新しいユーザーを追加できます。
[編集] ✎ ボタン	[内部ユーザーの詳細] ダイアログボックスが開き、選択したユーザーを編集できます。
[削除] ✕ ボタン	選択したユーザーを削除します。
ユーザー名	ユーザー名を表示します。
役割	ユーザーに割り当てられた役割を表示します。

[内部ユーザーの詳細] ダイアログボックス

内部ユーザーの詳細
? X

ユーザー名 *

パスワード

パスワードの確認

役割

<input checked="" type="checkbox"/> ADMINISTRATOR	<input checked="" type="checkbox"/> SYSTEM_ADMIN
<input type="checkbox"/> EVERYBODY	<input type="checkbox"/> END_USER
<input type="checkbox"/> PROMOTER	<input type="checkbox"/> ADMIN

GUI アイテム	説明
ユーザー名	最大 255 文字の一意なユーザー名を入力します。
パスワード	最大 255 文字のパスワードを入力します。
パスワードの確認	確認のために再度パスワードを入力します。
役割	このユーザーに割り当てる各役割の横にあるチェックボックスを選択します。複数の役割をユーザーに割り当てることができます。
保存	クリックしてユーザーを保存します。

セキュリティのセットアップ – SAML 認証

 HP 管理者は、Central で SAML 2.0 認証が動作するよう構成することができます。SAML (セキュリティアサーションマークアップ言語) は、ID プロバイダーとサービスプロバイダーの間で認証データを交換するための、XML ベースのオープンな標準データ形式です。ID プロバイダーを使用したユーザーの認証および認可プロセスでは、SAML アーティファクトと SAML アサーションを使用します。

SAML アサーションは、ユーザーおよびユーザーのグループを定義する属性を含む XML ドキュメントです。ID プロバイダーは、これらの属性をサービスプロバイダーに送信し、これらの属性に基づいてサービスプロバイダーは、ユーザーにアクセス権を付与します。

SAML アーティファクトは、次の 2 種類の情報をエンコードしたバイトのシーケンスです。

- SAML アサーションのアーティファクト ID。ID プロバイダーから取得される
- SOAP エンドポイント。このハンドルの解決に使用されます。

SAML アーティファクトストリングは、Base64 エンコーディング形式でリクエスト URL を介してクエリパラメーターとして渡される必要があります。

例:

```
http
(s)://<FQDN>:<PORT>/saml/SSO/alias/defaultAlias?SAMLart=ARTIFACTEncodedString
```

注: [SAML] タブは、**セキュリティ構成の管理**または**セキュリティ構成の表示**のアクセス許可を持つ役割が割り当てられている場合にのみ、表示されます。SAML 認証を編集できるのは、**セキュリティ構成の管理**のアクセス許可を持つ役割がある場合のみです。

ヒント: SAML 構成にエラーがあった場合に直接ログインできるよう、管理者ユーザーを設定しておくことをお勧めします。

注: HP OO Shell ユーティリティ (OOSH)、Studio リモートデバッガーを使用する場合や、Central でフロースケジュールを作成する場合、RESTful API や HP OO 9.x に対応している SOAP および RESTful API を使用する場合は **internal/ldap** ユーザーを使用します。

既知の問題とトラブルシューティング

- 再割り当てで、ユーザーが存在するかどうかを検証されない。
- ID プロバイダーへのアクセス権がない状態でロックアウトされた場合、HP OO に直接ログインします。こういった場合のために、管理者ユーザーを設定しておくようにしてください。直接ログインするには、**http(s)/<host>:<port>/oo/login/direct** に移動します。
- Central スケジューラーは、SAML 認証を使用している場合には動作しません。

実行する操作

前提条件

SAML 認証を設定する前に、次の手順を実行します。

1. SSL 向けに HP OO を構成します。『HP OO 構成とハードニングガイド』を参照してください。
2. デフォルトパスワードの **key.store** を変更した場合、システム構成アイテムとしてこれを設定する必要があります。

手順については、「[SAML システム構成のデフォルト値の変更](#)」を参照してください。参考情報については、「[SAML システム構成](#)」を参照してください。

注: このステップは、デフォルトのパスワードを使用している場合は必要ありません。

3. サーバー証明書 (プライベートキー) デフォルトパスワードと、**key.store** 内のこの証明書のエイリアスのデフォルト値を変更している場合は、システム構成アイテムとして設定する必要があります。

手順については、「[SAML システム構成のデフォルト値の変更](#)」を参照してください。参考情報については、「[SAML システム構成](#)」を参照してください。

注: このステップは、デフォルトの値を使用している場合は必要ありません。

4. ID プロバイダーの証明書のパブリックキーを、Central の **key.store** にインポートします。

例:

```
keytool -importcert -alias <any_alias> -keystore key.store -file <certificate_name.cer> -storepass <changeit>
```

5. サーバーを再起動します。
6. Central のユーザーインターフェイスを開きます。

重要: URL では完全修飾ドメイン名を使用するようにしてください。

7. 管理者ユーザーと管理者の役割を作成し、必要なその他の役割を作成します。
8. 役割を必要なグループにマップします。役割の作成とグループへのマップの詳細については、「[セキュリティのセットアップ - 役割](#)」(24ページ)を参照してください。

SAML システム構成のデフォルト値を変更します。

デフォルトパスワードの **key.store** を変更した場合、システム構成アイテムとしてこれを設定する必要があります。

サーバー証明書 (プライベートキー) デフォルトパスワードと、**key.store** 内のこの証明書のエイリアスのデフォルト値を変更している場合は、システム構成アイテムとして設定する必要があります。

注: これらのステップは、デフォルトの値を使用している場合は必要ありません。

1. HP OO Shell ユーティリティ (OOSH) に接続します。
2. **key.store** または HP OO サーバー証明書 (**key.store** にインポート済み) のパスワードを変更する場合、**<install dir>/central/bin/encrypt-password** にある暗号化ツールでパスワードを暗号化する必要があります。

```
encrypt-password --encrypt --password <自分のパスワード>
```

```
C:\Program Files\Hewlett-Packard\HP Operations Orchestration_saml_oracle\central\bin>encrypt-password.bat --encrypt --password no
[ENCRYPTED]a/HWf1/Op2hh31R05aD4m4=
```

3. **set-sys-config --key <key> --value <value>** を実行します。

例:

```
set-sys-config --key key.store.private.key.alias.name --value newValue
```

注: 'lsc' コマンドを実行するとすべてのシステム構成のリストを表示できます。

参照情報セクションの「[SAML システム構成](#)」を参照してください。

SAML 認証構成の追加

この手順を始める前に、「[前提条件](#)」のセクションを参照し、必要な手順を完了してください。



1. **[システム構成]** ボタンをクリックして、システム構成を表示します。
2. **[セキュリティ]** > **[SAML]** を選択します。
3. **[サービスプロバイダー]** ボックスに、サービスプロバイダー (HP OO) のエンティティ ID を入力します。デフォルト値は **ooentityid** です。
4. **[ID プロバイダー]** セクションに、ID プロバイダーの詳細を入力します。
 - **IDp メタデータ URL:** やり取りする ID プロバイダーの SAML メタデータを入力します。
 - **ユーザー名属性:** ユーザーを定義する SAML アサーション属性名を入力します。
 - **グループ名属性:** ユーザーグループを定義する SAML アサーション属性名を入力します。
 - **グループ名の区切り文字:** SAML アサーショングループ名属性で使用する区切り文字を入力

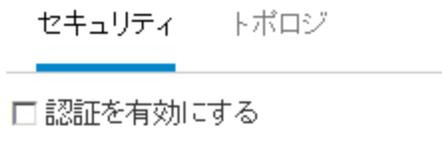
します。

注: 属性が正しいことを確認してください。間違っていると、アクセスが拒否されます。

5. HP OO がプロキシの背後にインストールされている場合、転送 (Web) プロキシホストおよびポート番号を定義します。
6. **[有効にする]** をクリックして SAML を有効にします。
7. **[保存]** をクリックします。
8. **[メタデータのダウンロード]** ボタンをクリックしてメタデータファイルを保存します。

注: このボタンは、SAML 構成を有効にして保存すると有効になります。

9. HP OO パブリックキーを ID プロバイダーに提供します。
10. ID プロバイダーにメタデータファイルを提供します。
11. 認証機能を有効にするには **[認証を有効にする]** チェックボックスを選択し、**[認証を有効にする]** ダイアログボックスを表示します。



注: **[認証を有効にする]** チェックボックスを使用できるのは、今後認証を無効にできるアクセス許可を持つ既存の内部ユーザーまたは LDAP ユーザーがいる場合のみです。

[認証を有効にする] チェックボックスをオフにすると、認証は行われず、すべてのユーザーがすべてのタスクにアクセスできます。

12. **[認証を有効にする]** ダイアログボックスで、管理者のユーザー名とパスワードを入力し、**[OK]** をクリックします。
13. HP OO からログアウトします。ID プロバイダーのログインページが表示されます。
14. ID プロバイダーのログインページから HP OO にログインします。

SAML 認証構成のロードバランサーへの追加

ロードバランサーを設定する場合、サービスプロバイダーメタデータを ID プロバイダーに再送信する必要があります。

この手順を始める前に、「[前提条件](#)」のセクションを参照し、必要な手順を完了してください。

1. [SAML 認証構成の追加](#) セクションのすべての手順を完了します。
2. ロードバランサーの外部 URL を設定 ([[トポロジ](#)] タブ)して保存します。詳細については、「[トポロジのセットアップ - 構成](#)」([83ページ](#))を参照してください。
3. [[メタデータのダウンロード](#)] ボタンをクリックして外部 URL 詳細のある新しいメタデータを取得します。
4. ID プロバイダーにメタデータファイルを提供します。

SAML ログレベルの変更

`log4j.properties` ファイルで SAML ログレベルを変更できます。

1. `<oo-installation>/central/conf/log4j.properties` の `log4j.properties` ファイルを開きます。
2. SAML ログレベルの記述がある行を探します。例：

```
saml.log.level=INFO
```
3. ログレベルを必要に応じて `DEBUG` または `ERROR/WARNING` に変更します。

詳細については、『[HP OO 構成とハードニングガイド](#)』の「[ログレベルの調整](#)」を参照してください。

参照情報

[セキュリティ] > [SAML]

セキュリティ トポロジ

認証を有効にする

役割 LDAP 内部ユーザー **SAML** SSO セキュリティパナー

有効にする

サービスプロバイダー

エンティティID: * [メタデータのダウンロード](#)

ID プロバイダー

IDP メタデータ URL: *

ユーザー名属性: *

グループ名属性: * グループ名の区切り文字: *

フォワード (Web) プロキシ

ホスト: ポート:

GUI アイテム	説明
[有効にする] チェックボックス	選択して SAML 認証を有効にします。
エンティティ ID	サービスプロバイダー (HP OO) のアイデンティティ ID を入力します。デフォルト値は oentityid です。
IDP メタデータ URL	やり取りする ID プロバイダーの SAML メタデータを入力します。
ユーザー名属性	ユーザーを定義する SAML アサーション属性名を入力します。
グループ名属性	ユーザーグループを定義する SAML アサーション属性名を入力します。
グループ名の区切り文字	SAML アサーショングループ名属性で使用する区切り文字を入力します。
ホスト	HP OO がプロキシの背後にインストールされている場合、転送 (Web) プロキシホストを定義します。

ポート	HP OO がプロキシの背後にインストールされている場合、転送 (Web) プロキシのポート番号を定義します。
メタデータのダウンロード	クリックしてメタデータファイルを保存します。このファイルは ID プロバイダーに送信する必要があります。このボタンは、SAML 構成を有効にして保存すると有効になります。
[認証を有効にする] チェックボックス	選択して HP OO のユーザー認証機能を有効にします。このチェックボックスをオフにすると、認証は行われず、すべてのユーザーがすべてのタスクにアクセスできます。

SAML システム構成

HP OO Shell ユーティリティ (OOSH) を使用して以下の構成アイテムを更新する場合、サーバーを再起動する必要があります (セキュリティ上の理由から)。HP OO Shell ユーティリティの詳細については、[「コマンドラインからの HP OO コマンドの実行」\(188ページ\)](#) を参照してください。

構成アイテム	操作
key.store.password	key.store へのアクセスに使用するパスワードを設定します。デフォルト値は 'changeit' です。
key.store.private.key.alias.name	key.store のサーバー証明書 (プライベートキー) に使用するエイリアスを設定します。デフォルト値は 'tomcat' です。
key.store.private.key.alias.password	key.store からサーバー証明書 (プライベートキー) にアクセスするために使用するパスワードを設定します。デフォルト値は 'changeit' です。

📄 セキュリティのセットアップ – LW SSO

📄 Lightweight SSO (LW SSO) 経由で、HP Operations Orchestration のシングルサインオン (SSO) をセットアップできます。LW SSO は、さまざまな HP アプリケーションに対して、1 つの認証を使用してシングルサインオンを有効にする HP ソリューションです。

LW SSO は、Web ブラウザーからアクセスされる HP 製品間で Cookie を共有します。結果として、ユーザーが LW SSO が有効な別の HP 製品の Web クライアント (SM Web クライアントや BSM Web クライアントなど) にログオンする場合、このユーザーは、HP OO Central ログオン画面をバイパスして、直接 HP OO Central アプリケーションに入ることができます。

この構成の前提条件:

- シングルサインオンを使用するすべての HP 製品で、LW SSO 機能を有効にする必要があります。
- ほかの HP 製品のユーザーのログオン資格情報は、HP OO ユーザーアカウントのログオン資格情報と一致する必要があります。

たとえば、BSM が HP OO と統合されている場合、BSM にログインするユーザーは、HP OO 内にも存在する必要があります (LDAP ユーザーまたは内部ユーザー)。

注: HP OO が複数の LDAP 構成で設定されていても、デフォルトの LDAP で LW SSO を使用してのみユーザーを認証できます。LW SSO は最初に、デフォルト LDAP を使用してユーザー認証を試み、これが失敗すると、HP OO 内部ドメイン内の認証を試みます。

LW SSO 構成を保存すると、変更がすぐ有効になるため、サーバーを再起動する必要はありません。

クラスター構成内のすべてのノードは、10 分間隔でその構成をデータベースから定期的に更新します。サーバーが 1 台の場合、そのノードは同じ 10 分間隔でその構成をデータベースから更新します。

LW SSO を採用している別のアプリケーションを HP OO 10.x に接続している場合、次の形式を使用して HP OO の接続 URL を指定する必要があります。

<protocol>://<FQDN>:<portNumber>

例: http://lab.lab:8080

注: LW SSO の有効化手順は、ほかの HP 製品では異なる場合があります。各 HP 製品の対応するドキュメントを参照してください。

たとえば、一部のアプリケーションでは、接続 URL は、<protocol>://<FQDN>:<portNumber>/oo という形式である必要があります。

注: [SSO] タブは、**セキュリティ構成の管理**または**セキュリティ構成の表示**のアクセス許可を持つ役割が割り当てられている場合にのみ、表示されます。LW SSO 認証を編集できるのは、**セキュリティ構成の管理**のアクセス許可を持つ役割がある場合のみです。

実行する操作

LW SSO 認証構成のセットアップ



1. [システム構成] ボタンをクリックして、システム構成を表示します。
2. [セキュリティ] > [SSO] を選択します。

セキュリティ トポロジ

認証を有効にする

役割 LDAP 内部ユーザー SAML SSO セキュリティバナー

LW SSO 設定 ✕

有効にする

InitString:
LW SSO パスフレーズ (LW SSO を通じて統合されるすべてのアプリケーション...)

ドメイン:
サーバーが属するドメイン

保護されたドメイン:
LW SSO を採用したアプリケーションで使用されるコンマ区切りのドメインのリ...

3. [InitString] ボックスに、HP 製品 への接続に使用するパスワードを入力します。この値は、ほかの HP 製品の LW SSO 構成に使用される値と同じである必要があります。このパスワードは、12 文字以上にする必要があります。

initstring は、LW SSO Cookie の暗号化に使用され、ユーザーのパスワードには関係ありません。ただし、2つのアプリケーションが LW SSO を使用して統合されている場合、両方のアプリケーションの initstring を一致させる必要があります。initstring が一致していないと、あるアプリケーションで暗号化された Cookie を別のアプリケーションで復号化できません。

4. [ドメイン] ボックスに、HP OO サーバーのドメインを入力します。
5. LW SSO を採用しているアプリケーションで複数のドメインを使用している場合、それらのドメインを [保護されたドメイン] ボックスにカンマ区切りで入力します。

HP OO サーバードメインは、[保護されたドメイン] リストに表示される必要があります。[保護されたドメイン] ボックスに複数のドメインがある場合、LW SSO 経由で統合されるすべてのアプリケーションで、保護されたドメインのリストの定義が同じである必要があります。

6. [有効にする] チェックボックスを選択して、LW SSO 構成を有効にします。この操作を行うと、設定の保存後に、[LW SSO 設定] タイトルの横にあるアイコンが [有効にする]  に変わります。

注: [有効にする] チェックボックスは、一般的な認証機能を有効にしたまま、LW SSO 構成を無効にできるようにするためにあります。たとえば、内部ユーザーとLDAP ユーザーに対して認証を有効にしても、LW SSO 構成を有効にする場合と、有効にしない場合があります。

LW SSO 設定の新しい状態は、[有効にする] チェックボックスの選択時にすぐ有効にはならず、新しい構成を保存したときに有効になることに注意してください。

7. [保存] をクリックします。
8. 認証機能を有効にするには [認証を有効にする] チェックボックスを選択し、[認証を有効にする] ダイアログボックスを表示します。

注: [認証を有効にする] チェックボックスを使用できるのは、今後認証を無効にできるアクセス許可を持つ既存の内部ユーザーまたはLDAP ユーザーがいる場合のみです。

[認証を有効にする] チェックボックスをオフにすると、認証は行われず、すべてのユーザーがすべてのタスクにアクセスできます。

9. [認証を有効にする] ダイアログボックスで、管理者のユーザー名とパスワードを入力し、[OK] をクリックします。

既存のLW SSO 認証構成の編集

1. [セキュリティ] > [SSO] を選択します。
2. 必要な変更を入力します。
3. [保存] をクリックします。

参照情報

[セキュリティ] > [SSO]

セキュリティ トポロジ

認証を有効にする

役割 LDAP 内部ユーザー SAML **SSO** セキュリティバナー

LW SSO 設定 

有効にする

InitString:
LW SSO パスフレーズ (LW SSO を通じて統合されるすべてのアプリケーション...)

ドメイン:
サーバーが属するドメイン

保護されたドメイン:
LW SSO を採用したアプリケーションで使用されるコマンド区切りのドメインのリ...

[保存](#)

GUI アイテム	説明
[認証を有効にする] チェックボックス	HP OO のユーザー認証機能を有効にするには、このチェックボックスを選択します。このチェックボックスをオフにすると、認証は行われず、すべてのユーザーがすべてのタスクにアクセスできます。
 	[LW SSO 設定] タイトルの横にあるアイコンは、設定が有効または無効であるかを示します。
有効	このチェックボックスを選択して、LW SSO を有効にします。
initString	initstring は、LW SSO Cookie の暗号化に使用され、ユーザーのパスワードには関係ありません。ただし、2つのアプリケーションが LW SSO を使用して統合されている場合、両方のアプリケーションの initstring を一致させる必要があります。initstring が一致していないと、あるアプリケーションで暗号化された Cookie を別のアプリケーションで復号化できません。
ドメイン	HP OO サーバーのドメインを入力します。

保護されたドメイン	<p>LW SSO を採用しているアプリケーションで複数のドメインを使用している場合、それらのドメインを [保護されたドメイン] ボックスにカンマ区切りで入力します。</p> <p>HP OO サーバードメインは、[保護されたドメイン] リストに表示される必要があります。[保護されたドメイン] ボックスに複数のドメインがある場合、LW SSO 経由で統合されるすべてのアプリケーションで、保護されたドメインのリストの定義が同じである必要があります。</p>
保存	クリックして LW SSO 認証構成を保存します。

セキュリティバナーのセットアップ

 セキュリティバナーをログオン画面の前に表示するように構成することができます。このバナーは、セキュリティルールやセキュリティ上の問題についてユーザーに通知する場合に役立ちます。

たとえば、「実稼働環境にログオンしようとしています。当システムの管理ルールを理解していないユーザーはログオンする前に必要なトレーニングを受けてください」というバナーを作成することができます。

セキュリティバナーを有効にすると、セキュリティバナーがログオン画面の前にポップアップダイアログとして表示されます。続行するには、ユーザーが[OK] ボタンをクリックする必要があります。

注: [セキュリティバナー] タブは、**セキュリティ構成の管理**または**セキュリティ構成の表示**のアクセス許可を持つ役割が割り当てられている場合にのみ、表示されます。バナーを編集できるのは、**セキュリティ構成の管理**のアクセス許可を持つ役割が割り当てられている場合のみです。

セキュリティ トポロジ

認証を有効にする

役割 LDAP 内部ユーザー SAML SSO **セキュリティバナー**

有効にする

バナー:

セキュリティバナーテキスト

[ログオン]ページに表示されるテキスト (最大 2000 文字)

[保存](#)

実行する操作

セキュリティバナーの追加

1. [システム構成]  ボタンをクリックして、システム構成を表示します。
2. [セキュリティ] > [セキュリティバナー] を選択します。
3. [有効にする] チェックボックスを選択します。

4. [バナー] テキストボックスに、バナーに表示するテキストを入力します。このテキストは最大 2000 文字です。
5. [保存] をクリックして、バナーを保存します。

セキュリティバナーの編集



1. [システム構成] ボタンをクリックして、システム構成を表示します。
2. [セキュリティ] > [セキュリティバナー] を選択します。
3. [バナー] テキストボックスで必要な変更を行います。
4. [保存] をクリックします。

セキュリティバナーの削除

[有効にする] チェックボックスをクリアして、[バナー] テキストボックスのテキストを削除しない場合は、このテキストを保存して後で使用することができます。



1. [システム構成] ボタンをクリックして、システム構成を表示します。
2. [セキュリティ] > [セキュリティバナー] を選択します。
3. [有効にする] チェックボックスをクリアします。
4. [保存] をクリックします。

参照情報

[セキュリティ] > [セキュリティバナー]

セキュリティ トポロジ

認証を有効にする

役割 LDAP 内部ユーザー SAML SSO **セキュリティバナー**

有効にする

バナー:

セキュリティバナーテキスト

[ログイン]ページに表示されるテキスト (最大 2000 文字)

[保存](#)

GUI アイテム	説明
[認証を有効にする] チェックボックス	HP OO のユーザー認証機能を有効にするには、このチェックボックスを選択します。このチェックボックスをオフにすると、認証は行われず、すべてのユーザーがすべてのタスクにアクセスできます。
[有効にする] チェックボックス	セキュリティバナーを有効にしてログイン画面に表示されるようにするには、このチェックボックスを選択します。
[バナー] テキストボックス	セキュリティバナーのテキストを入力します。このテキストは最大 2000 文字です。
保存	クリックすると、セキュリティバナーが保存されます。

トポロジのセットアップ - ワーカー

 ネットワークトポロジとは、ネットワーク内のさまざまな要素 (リンク、ノードなど) の配置です。ワーカーとロードバランサーは、トポロジの一部で、[トポロジ] タブの下で構成できます。

注: [トポロジ] タブは、トポロジの管理またはトポロジの表示のアクセス許可を持つ役割が割り当てられている場合にのみ、表示されます。トポロジを編集できるのは、トポロジの管理のアクセス許可を持つ役割がある場合のみです。

セキュリティ トポロジ

ワーカー 構成

グループへの割り当て

ホスト名	有効	ステータス	パス	オペレーティングシステム	JDK
<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>		C:\Program Files\Hewlett-Packard\HP Operations Orchestration\central	Windows Server 2008 R2	1.7.0_5
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>		C:\Program Files\Hewlett-Packard\HP Operations Orchestration\central	Windows Server 2008 R2	1.7.0_5

ワーカーはフローの実行を担当します。ワーカーは、Central に接続し、タスク (フロー実行メッセージ) を取得して処理します。

ワーカーグループは、ワーカーの論理的集合です。1 つのワーカーではなくグループを使用することで、アクション実行の高い負荷にワーカーが耐えられるようにし、またデータセンター内でのワーカーの可用性を高めることができます。

注: ワーカーは、複数のグループに同時に所属することができます。

[トポロジ] > [ワーカー] タブに、各ワーカーのステータスが表示されます。ステータスは、[実行中] または [停止] のどちらかです。ワーカーパスは、ワーカーが Central と RAS のどちらに存在するかを示します。

注: ステータスの更新には 1 ~ 2 分かかることがあります。

[トポロジ] > [ワーカー] タブを使用して、ワーカーをワーカーグループに割り当てたり、ワーカーをグループから削除したり、ワーカーを有効、無効、削除することができます。

注: 一部の実行ステージは、常にデフォルトのグループ (RAS_Operator_Path) に対して実行されます。そのため、このグループに少なくとも 1 人のワーカーが割り当てられるようにしてください。

実行時間を最適化するため、ほとんど (またはすべて) のワーカーを RAS_Operator_Path に割り当てることをお勧めします。このグループから RAS を除外するのは、その使用を最小化することが望ましく、かつそれを使用するオペレーションの数が少ない場合だけにしてください。

ワーカーとワーカーグループの詳細については、『HP OO コンセプトガイド』の「ワーカーグループとグループエイリアス」を参照してください。

実行する操作

ワーカーの既存のワーカーグループへの割り当て



1. [システム構成] ボタンをクリックして、システム構成を表示します。
2. [トポロジ] > [ワーカー] を選択します。
3. ワーカー名の横にあるチェックボックスを選択します。

セキュリティ トポロジ

ワーカー 構成

グループへの割り当て

ホスト名	有効	ステータス	パス	オペレーティングシステム	JDK
<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>		C:\Program Files\Hewlett-Packard\HP Operations Orchestration\central	Windows Server 2008 R2	1.7.0_5
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>		C:\Program Files\Hewlett-Packard\HP Operations Orchestration\central	Windows Server 2008 R2	1.7.0_5

4. [グループへの割り当て] ボタンをクリックします。
5. このワーカーを割り当てるワーカーグループの横にあるチェックボックスを選択します。

グループへの割り当て

DEFAULT_WORKER_GROUP

RAS_Operator_Path

新規グループの追加

適用

キャンセル

6. [適用] をクリックします。

新しいワーカーグループを作成し、そのグループにワーカーを割り当てる

1. [トポロジ] > [ワーカー] を選択します。
2. ワーカー名の横にあるチェックボックスを選択します。

3. [グループへの割り当て]  ボタンをクリックします。
4. 空のボックスの横にあるチェックボックスをクリックして、新しく作成するワーカーグループの名前を入力します。

グループへの割り当て | ▼

DEFAULT_WORKER_GROUP

RAS_Operator_Path

適用

キャンセル

5. [適用] をクリックします。

ワーカーグループからのワーカーの削除

1. [トポロジ] > [ワーカー] を選択します。
2. ワーカー名の横にあるチェックボックスを選択します。
3. [グループへの割り当て]  ボタンをクリックします。
4. このワーカーを削除するワーカーグループの横にあるチェックボックスをオフにします。
5. [適用] をクリックします。

ワーカーの無効化

1. [システム構成] > [トポロジ] > [ワーカー] を選択します。
2. ワーカー名の横にあるチェックボックスを選択します。
3. [ワーカー] ツールバーで、[無効にする]  をクリックします。

注: [無効にする] ボタンを使用できるのは、少なくとも 1 人の有効なワーカーを選択した場合のみです。

ワーカーの有効化

1. [トポロジ] > [ワーカー] を選択します。
2. ワーカー名の横にあるチェックボックスを選択します。
3. [ワーカー] ツールバーで、[有効にする]  をクリックします。

注: [有効にする] ボタンを使用できるのは、少なくとも 1 人の無効なワーカーを選択した場合のみです。

ワーカーの削除

1. [トポロジ] > [ワーカー] を選択します。
2. ワーカー名の横にあるチェックボックスを選択します。
3. [ワーカー] ツールバーで、[削除]  をクリックします。

注: [削除] ボタンは、少なくとも 1 人のワーカーが選択されており、選択されているワーカーが現在実行中でない場合にのみ使用できます。

参照情報

[トポロジ] > [ワーカー]

セキュリティ トポロジ

ワーカー 構成

グループへの割り当て | 

ホスト名	有効	ステータス	パス	オペレーティングシステム	JDK
<input checked="" type="checkbox"/> [ホスト名]	<input checked="" type="checkbox"/>		C:\Program Files\Hewlett-Packard\HP Operations Orchestration\central	Windows Server 2008 R2	1.7.0_5
<input type="checkbox"/> [ホスト名]	<input checked="" type="checkbox"/>		C:\Program Files\Hewlett-Packard\HP Operations Orchestration\central	Windows Server 2008 R2	1.7.0_5

GUI アイテム	説明
[有効にする]  ボタン	クリックして選択したワーカーを有効にします。[有効にする] ボタンを使用できるのは、少なくとも 1 人の無効なワーカーを選択した場合のみです。

[無効にする]  ボタン	クリックして選択したワーカーを無効にします。 [無効にする] ボタンを使用できるのは、少なくとも 1 人の有効なワーカーを選択した場合のみです。
[削除] ボタン 	クリックして選択したワーカーを削除します。 [削除] ボタンは、少なくとも 1 人のワーカーが選択されており、選択されているワーカーが現在実行中でない場合にのみ使用できます。
[リフレッシュ] ボタン 	クリックしてワーカーの表示を更新します。
	クリックすると、 [グループへの割り当て] ポップアップが表示されます。
ホスト名	このワーカーがあるホストの名前。
有効	ワーカーが有効または無効になっているかどうか。
ステータス	ワーカーのステータスが [実行中] または [停止] のどちらかの場合。 <div style="background-color: #f0f0f0; padding: 5px; border: 1px solid #ccc;"> 注: ステータスの更新には 1 ~ 2 分かかることがあります。 </div>
パス	このワーカーがあるホストのパス。パスは、ワーカーが Central と RAS のどちらに存在するかを示します。
オペレーティングシステム	このワーカーがあるマシンのオペレーティングシステム。
JDK	ワーカーマシンにインストールされている JDK のバージョン。
.NET	ワーカーマシンにインストールされている .NET のバージョン。
ID	ワーカーの UUID (一意の識別子)。
グループ	選択したワーカーが割り当てられるワーカーグループ。

[トポロジ] > [ワーカー] > [グループへの割り当て] ポップアップ

グループへの割り当て 

DEFAULT_WORKER_GROUP
 RAS_Operator_Path

適用

キャンセル

GUI アイテム	説明
グループへの割り当て	[グループへの割り当て] ボタンをクリックすると、[グループへの割り当て] ポップアップが表示されます。
新規グループの追加	チェックボックスを選択して、選択したワーカーが割り当てられる新しいグループの名前を入力します。
<ワーカーグループ>	グループ名の横にあるチェックボックスを選択して、選択したワーカーをこれらのグループに割り当てます。ダイアログボックスの表示は、セットアップしたグループによって変わります。
適用	クリックすると、変更内容がワーカーに適用されます。
キャンセル	クリックすると、変更内容が保存されずに [グループへの割り当て] ポップアップが閉じます。

トポロジのセットアップ - 構成

 ロードバランサー、リバースプロキシ、または DNS ロードバランサーを使用している場合、関連する外部 URL がある場所を HP OO に通知する必要があります。例: `https://my.server.com:443/oo`

ロードバランサーホストの URL が構成されていない場合、[実行ツリー] と [実行ログ] は HTTP 要求からの IP/ホストを参照します。

注: 構成アイテム用の REST API 経由で、ロードバランサーホストの URL を構成することもできます。

実行する操作

ロードバランサー、リバースプロキシまたは DNS ロードバランサーの外部 URL の構成



- [システム構成] ボタンをクリックして、システム構成を表示します。
- [トポロジ] > [構成] を選択します。
- [URL] ボックスに、ロードバランサー、リバースプロキシ、または DNS ロードバランサーの URL を入力します。
- [保存] をクリックします。

参照情報

[トポロジ] > [構成]

セキュリティ トポロジ

ワーカー 構成

外部 URL

URL:

ロードバランサー、リバースプロキシ、または DNS ロードバランサーの URL

保存

GUI アイテム	説明
----------	----

URL	ロードバランサー、リバースプロキシ、または DNS ロードバランサーの URL を入力します。
保存	クリックして構成を保存します。

ブラウザーの言語の設定

Central の言語サポートは、ブラウザーの言語に基づきます。言語がサポートされていない場合は、Central は英語で表示されます。

ブラウザーの言語サポートを設定します。

注: 追加した言語がリストの先頭になるようにしてください。

Internet Explorer の言語設定の変更

1. [ツール] > [インターネットオプション] > [全般] (タブ) > [言語] > [言語の優先順位] を選択します。
2. 必要な言語を選択します。最も優先順位の高い言語がリストの先頭になるようにします。

Firefox の言語設定の変更

1. [ツール] > [オプション] を選択し、[コンテンツ] (タブ) > [言語] > [選択] (ボタン) を選択します。
2. 必要な言語を選択します。

Google Chrome の言語設定の変更

1. [Google Chrome のカスタマイズと制御] ボタンを選択してから、[設定] > [詳細設定を表示] を選択します。
2. [言語] セクションの [言語と入力の設定] をクリックします。
3. [追加] をクリックして、必要な言語を選択します。

あらかじめ定義されているセットから言語を追加することができます。Chrome は選択したすべての言語を設定した順序で Accept-Language ヘッダーを用いて送信します。

Safari の言語設定の変更

Windows では、Safari で送信される言語を変更することはできません。Accept-Language ヘッダーで送信される言語は、システム設定に基づいて設定されます。

MS SQL 照合順序の言語またはコンテンツの central-wrapper.conf の変更

HP OO Central がインストールされている場合、英語のほかにサポートされている言語を選択できました。この言語は、MS SQL 照合順序の言語として、また該当する場合コンテンツに対し使用されます。この言語サポートは、たとえば、日本語で構成されているサーバーに ping 操作を行う必要がある場合などに必要です。この言語は、**central-wrapper.conf** ファイルを編集して変更します。

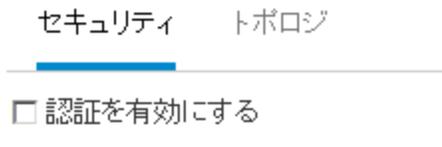
1. **central-wrapper.conf** ファイルをテキストエディターで開きます。このファイルは **central/conf** 配下のインストールディレクトリにあります。

2. 言語のプロパティを編集します。たとえば、`wrapper.lang=en_US` を `wrapper.lang=ja_JP` のように変更します。
3. **central-wrapper.conf** ファイルを保存します。

認証の有効化

 **[認証を有効にする]** チェックボックスは、**[セキュリティ]** タブにあります。このチェックボックスで、Central の認証機能を有効または無効にできます。認証が有効になっていない場合、すべてのユーザーは認証なしにすべてのタスクにアクセスできます。

管理者の資格を持つユーザーのみが、Central の認証を有効にできます。これは、システムからユーザーがロックアウトされるのを防ぐためです。



[認証を有効にする] チェックボックスを使用できるのは、今後認証を無効にできるアクセス許可を持つ既存の内部ユーザーまたは LDAP ユーザーがいる場合のみです。

実行する操作

認証を有効にする

1. **[認証を有効にする]** チェックボックスを選択し、**[認証を有効にする]** ダイアログボックスを表示します。
2. **[認証を有効にする]** ダイアログボックスで、管理者のユーザー名とパスワードを入力し、**[OK]** をクリックします。

注: LDAP ドメインの選択を設定したら、認証のドメインも選択する必要があります。

認証を無効にする

1. 認証機能が有効になっている場合、**[認証を有効にする]** チェックボックスをクリアします。
2. 確認ダイアログボックスで、**[OK]** をクリックします。

参照情報

[セキュリティ] > [認証を有効にする]



認証を有効にする

管理者資格情報を入力してください:

ユーザー名: Taro Tanaka

パスワード: ●●●●

OK 閉じる

GUI アイテム	説明
ユーザー名	管理者のユーザー名を入力します。 注: LDAPドメインの選択を設定したら、認証のドメインも選択する必要があります。
パスワード	管理者のパスワードを入力します。
OK	クリックして資格情報を保存し認証を有効にします。

コンテンツパックの昇格

	運用管理者は、通常コンテンツパックの昇格を担当する管理者です。
---	---------------------------------

コンテンツパックの昇格 - 概要	89
コンテンツパックのデプロイと管理	92
ワーカーグループエイリアスのセットアップ	102
コンテンツパックのシステムアカウントのセットアップ	105
コンテンツパックのシステムプロパティのセットアップ	109
フローライブラリの管理	113
フローマップの表示	120
コンテンツパックのテストとトラブルシューティング	123

コンテンツパックの昇格 - 概要

昇格とは

昇格の目的は、新しいコンテンツパックを Central 実稼働サーバーにデプロイし、ユーザーがフローを使用できるようにすることです。



昇格は、コンテンツパックを次の Central 環境にデプロイします。

- 開発
- QA (オプション)

- ステージング
- 実稼働

昇格とデプロイメントの違い

デプロイメントは昇格の一部です。ただし、昇格プロセスには、次のようなほかのタスクも含まれていません。

- コンテンツパックの構成: ワーカーグループエイリアスの構成、システムアカウントのマッピングなど
- コンテンツパック内のフローのテストとトラブルシューティング

コンテンツパックとは

コンテンツパックとは、オペレーション、フロー、操作 (Java ベースまたは .NET ベース)、および構成アイテムを含むファイルです。フロー作成者は、プロジェクトを完成すると、Central サーバーでの昇格のためにコンテンツパックにパッケージ化します。

コンテンツパックの詳細については、『HP OO コンセプトガイド』を参照してください。

コンテンツパックを昇格するタイミング

次の場合にコンテンツパックを昇格します。

- 実稼働環境で新しいコンテンツが必要な場合
- フロー内のバグを修正し、新しいバージョンのフローを実稼働環境にアップロードする必要がある場合。
- 新しい機能を実稼働環境の既存のフローに追加する必要がある場合。
- HPLN から新しいバージョンの既定のコンテンツパックにアップグレードしている場合。

昇格を実行するペルソナ

昇格プロセスは各環境で少し異なり、異なるペルソナによって実行される可能性があります。ただし、ほとんどの場合、運用管理者が昇格を担当します。

昇格を実行する担当者には、**コンテンツパックの表示**と**コンテンツパックの管理**のアクセス許可を持つ役割を割り当てる必要があります。

昇格ステップ

注: これは Central ワークフローの簡単な概要であり、ここに記載していない多くのオプションがあります。任意のステップの詳細については、リンクを使用してオプションの詳細を確認してください。

ステップ 1: フロー作成者からのコンテンツパックの取得

1.  フロー作成者は HP OO Studio 内でコンテンツパックを作成します。『HP OO Studio オーサリングガイド』の「コンテンツパックのコンパイル」を参照してください。
2.  フロー作成者がコンテンツパックをファイルシステムに保存します。
3.  フロー作成者がコンテンツパックを運用管理者/プロモーターと共有します。

ステップ 2: ステージングサーバーへのデプロイ

1.  運用管理者はフロー作成者からコンテンツパックを受け取ります。
2.  運用管理者はステージングサーバーにコンテンツパックをデプロイします。「[コンテンツパックのデプロイと管理](#)」(92ページ)を参照してください。

ステップ 3: コンテンツパック内のコンテンツの構成

このステップでは、運用管理者がコンテンツパック内のコンテンツを構成して、コンテンツパックを環境に合うように調整します。

1.  コンテンツパックにシステムアカウントが含まれている場合、運用管理者はコンテンツパック内のシステムアカウントに値を割り当てます。「[コンテンツパックのシステムアカウントのセットアップ](#)」(105ページ)を参照してください。
2.  運用管理者はワーカーグループのエイリアスを実際のワーカーグループにマッピングします。「[ワーカーグループエイリアスのセットアップ](#)」(102ページ)を参照してください。

注: 運用管理者は、API 経由でシステムプロパティをマップすることもできます。詳細については、『HP OO API Guide』を参照してください。

3.  運用管理者がフローのコンテンツアクセス許可を設定します。「[フローライブラリの管理](#)」(113ページ)を参照してください。

ステップ 4: コンテンツパックのテストとトラブルシューティング

1.  運用管理者が[コンテンツワークスペース] > [フローライブラリ] から各フローを実行し、正しく動作するかどうかを確認します。「[フロー実行の追跡と管理](#)」(152ページ)を参照してください。
2.  フロー実行が失敗する場合、運用管理者はフローをドリルダウンして、問題を特定できます。「[フロー実行のテストとトラブルシューティング](#)」(167ページ)を参照してください。

ステップ 5: 実稼働サーバーへのデプロイ

1.  必要に応じて、運用管理者はコンテンツパックの構成を実稼働サーバーに合わせて調整します。たとえば、このサーバーに対しては、ワーカーグループエイリアスとシステムアカウントを異なる

方法でマッピングする必要がある場合があります。

2.  最後に、運用管理者がコンテンツパックを実稼働サーバーにデプロイします。

コンテンツパックのデプロイと管理

 [コンテンツパック] タブで、コンテンツパックを Central 環境にデプロイできます。例：

- 開発
- QA (オプション)
- ステージング
- 実稼働

デプロイメントは、昇格プロセスで少なくとも 2 回実行されます。

注：自分で作成したコンテンツパックをデプロイする前に、ベースコンテンツパックおよび Studio で使用されているその他の HP コンテンツパックをデプロイすることをお勧めします。

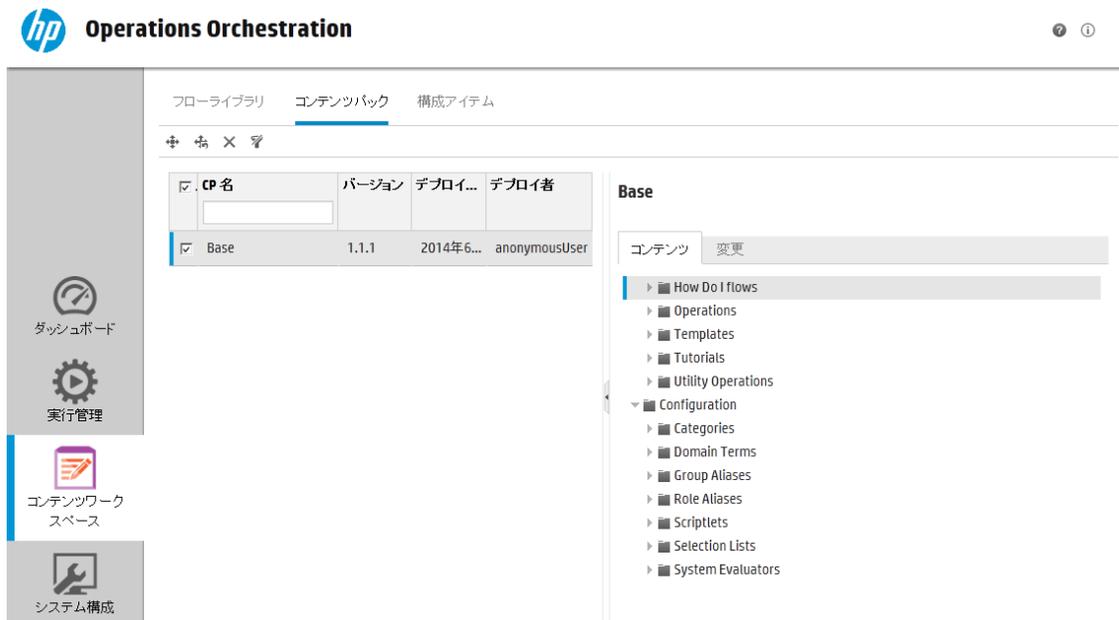
コンテンツパックの詳細の表示

コンテンツパックをデプロイすると、[コンテンツパック] タブにバージョン番号、デプロイメント時間、デプロイしたユーザーの名前とともに表示されます。

注：アップグレードすると、旧バージョンにデプロイされたコンテンツパックのデプロイメント時間は表示されません。

右側の [コンテンツ] タブには、選択したコンテンツパックの詳細が表示されます。詳細には、バージョン、パブリッシャー、説明、デプロイ者、コンテンツパックのエンティティが含まれます。コンテンツは、ツリー ([Library] および [Configuration] フォルダーの下) に整理され、Studio でコンテンツパックがどのように表示されるかを示します。ツリーのノードは、Studio と同じように展開や折りたたみが可能です。

[変更] タブをクリックすると、以前に Central でデプロイされたバージョン以降に選択したコンテンツパックに対する変更内容が表示されます。この情報では、追加、削除、更新、移動されたアイテムが分かります。



コンテンツパックのバージョン

コンテンツがフロー作成者によって更新され、新しいバージョンのコンテンツパックが作成されるため、コンテンツパックのサーバーへのデプロイは複数回行うことができます。

コンテンツパックをデプロイした後で、直前のデプロイメントバージョンにロールバックすることができます。この機能は、新しいデプロイメントのフローで問題が見つかった場合に便利です。詳細については、「[前のデプロイメントへのロールバック](#)」を参照してください。

注: 直前のデプロイメントにロールバックすると、コンテンツは最新のデプロイメントの直前の状態に戻ります。最新のデプロイメントに複数のコンテンツパックが含まれていた場合、ロールバックでは、これらのすべてのコンテンツパックが以前の状態に戻されます。

ロールバックできるのは、1つ前のバージョンのみであることにも注意してください。直前のバージョンよりも前のバージョンには、ロールバックできません。

複数のコンテンツパックのデプロイ

1人のユーザーが、複数のコンテンツパックを一度にデプロイできます。これには、[新規コンテンツのデプロイ] ダイアログボックスの[追加]+ ボタンを使用します。

ただし、複数のユーザーが同じ Central に同時にコンテンツパックをデプロイすることはできません。別のユーザーがコンテンツをデプロイしているときに Central にコンテンツをデプロイしようすると、別のデプロイメントが行われていることを示すエラーメッセージが表示されます。

分割デプロイメント

コンテンツパックのデプロイ後に、Studio で元のコンテンツパックを2つ以上に分割し、それぞれ別々にデプロイすることができます。これらの小さなコンテンツパックのいずれかが最初にデプロイされたコンテン

ツパックと同じ名前である場合、Central サーバー上の元のコンテンツツパックが上書きされます。別の名前であれば、一緒にデプロイされます。

コンテンツツパックの検証

デプロイメントプロセス中に、Central はデプロイされたコンテンツツパックを検証して、デプロイされたコンテンツの構造的な整合性が損なわれていないことを確認します。この確認では、参照の不足がないこと、重複した UUID がないこと、コンテンツツパック内のフローの形式が正しいこと、重複したフローパスと重複したシステムプロパティ名がないことなどがチェックされます。

コンテンツツパックの変更後のデプロイメント

デプロイされるコンテンツツパック内の各エンティティ (フロー、オペレーション、および構成アイテム) には、一意の UUID が必要です。デプロイしようとするコンテンツツパックに、重複するエンティティ (デプロイされる他のコンテンツツパック内のエンティティと UUID が同じエンティティ) がある場合、そのデプロイメントは失敗します。

コンテンツツパックのエンティティを別のコンテンツツパックに移動すると、それが原因で重複が発生することがあり、その場合はデプロイメントが失敗することになります。たとえば、A と B の 2 つのコンテンツツパックがあるとします。コンテンツツパック A を Central にデプロイしてから、エンティティ X を A から B に移動します。それからコンテンツツパック B をデプロイしようすると、エンティティ X が A と B の両方にあるためデプロイメントは失敗します。

このような場合、エンティティを移動してから **A と B の両方** をデプロイし、B のみはデプロイしないようにするのが適切なワークフローです。A の新しいバージョン (エンティティ X なし) によって Central 上の旧バージョンが上書きされるため、重複は生じません。

ある Central 環境から別の環境にコンテンツを昇格する場合、元の Central 環境にデプロイされている最新バージョンのコンテンツツパックすべてをデプロイする必要があります。

アップグレード後のコンテンツツパックのデプロイメントのベストプラクティス

アップグレード後に、以前のバージョンでデプロイされたコンテンツが存在し、そのコンテンツが一意性の要件を満足していないことがあります。そのような状況になると、コンテンツツパックが有効でない (一部のコンテンツが別のコンテンツツパックに移動されたが、元のコンテンツツパックの新バージョンが再デプロイされていない) 可能性があることが [コンテンツツパック] タブに示されます。

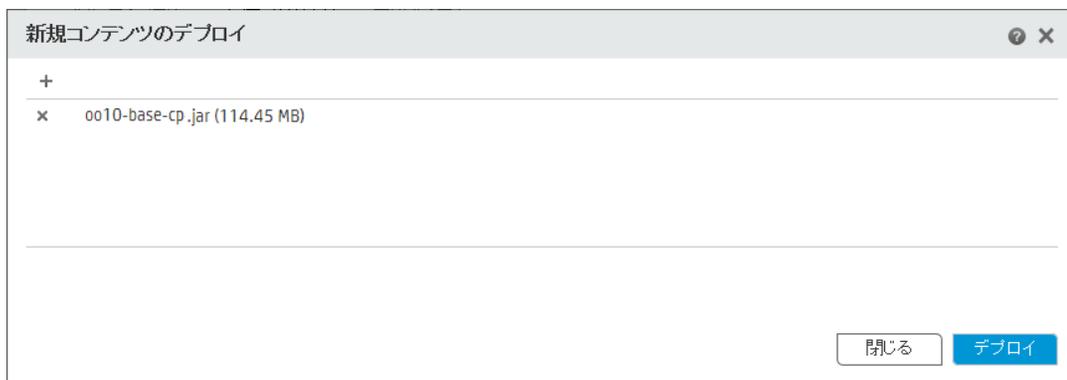
HP OO 9.x から大規模なリポジトリをアップグレードする場合、推奨されるベストプラクティスは以下のとおりです。

1. リポジトリを HP OO 10.10 にアップグレードします。
2. リポジトリを Central にデプロイします。
3. リポジトリを正しくデプロイできたら、Studio でリポジトリを複数のコンテンツツパックに分割します。
4. そのコンテンツツパックをまとめてデプロイします。
5. これらのコンテンツツパック内のエンティティを修正、削除、または移動する場合は、影響するすべてのコンテンツツパックを再デプロイします。

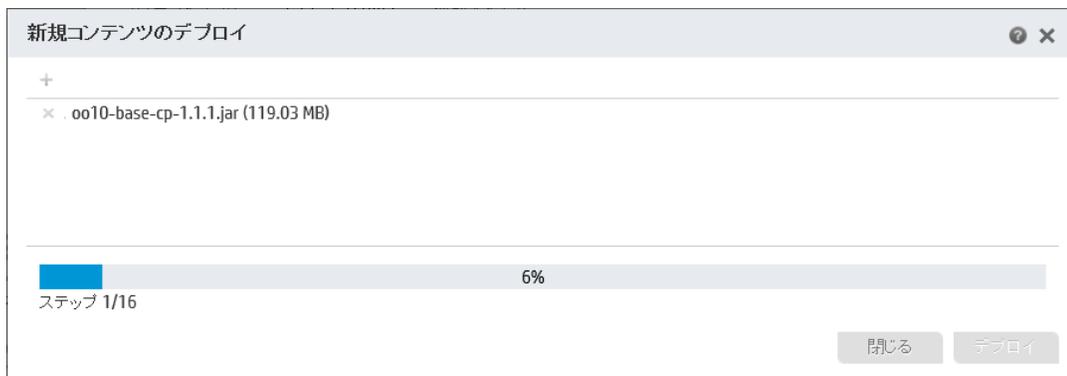
実行する操作

コンテンツパックのデプロイ

1. [コンテンツワークスペース]  ボタンをクリックして、コンテンツ管理を表示します。
2. [コンテンツパック] タブで、[新規コンテンツのデプロイ]  ボタンをクリックします。
3. [新規コンテンツのデプロイ] ダイアログボックスで、[追加] + ボタンをクリックします。
4. ファイルシステム上のコンテンツパックを参照して選択し、[開く] をクリックします。
5. 必要に応じてステップ 3 ~ 4 を繰り返し、さらにコンテンツパックを追加します。
6. [デプロイ] をクリックします。



デプロイメントは数分間かかる可能性があります。デプロイメントの進捗状況を示す進捗バーが表示されます。進捗バーは、各ステップが完了すると表示されます。



注: 複数のユーザーが同じ Central に同時にコンテンツパックをデプロイすることはできません。別のユーザーがコンテンツをデプロイしているときに Central にコンテンツをデプロイしようとすると、別のデプロイメントが行われていることを示すエラーメッセージが表示されます。

デプロイメント後、デプロイメントの成功または失敗を示すアイコンが、ダイアログボックスに表示されます。

7. [閉じる] をクリックして、ダイアログボックスを閉じます。

前回のデプロイメントへのロールバック

コンテンツパックをデプロイした後で、直前のデプロイメントにロールバックすることができます。この機能は、新しいデプロイメントのフローで問題が見つかった場合に便利です。

コンテンツパックを削除した後でロールバックすると、削除が取り消されます。

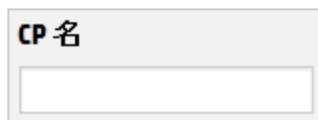
1. [コンテンツワークスペース] > [コンテンツパック] タブをクリックします。
2. コンテンツパックを選択して、[デプロイメントのロールバック]  ボタンをクリックします。
3. 確認ダイアログボックスで [OK] をクリックします。

デプロイ済みのコンテンツパックを削除する

1. [コンテンツワークスペース] > [コンテンツパック] タブをクリックします。
2. コンテンツパックを選択して、[削除]  ボタンをクリックします。
3. 確認ダイアログボックスで [削除] をクリックします。

コンテンツパックのフィルタリング

1. [コンテンツワークスペース] > [コンテンツパック] タブをクリックします。
2. [CP 名] ボックスに、コンテンツパック名または名前の一部を入力し、コンテンツパックの表示をフィルタリングします。



3. フィルターをクリアするには、[フィルターのクリア]  ボタンをクリックします。

選択したコンテンツパックの詳細が表示されます。

1. [コンテンツワークスペース] > [コンテンツパック] タブをクリックします。

2. リストからデプロイしたコンテンツパックを作成します。
3. 右側にある [詳細] ペインの [コンテンツ] をクリックします。
4. バージョン、パブリッシャー、説明、デプロイ者についての詳細が表示されます。
5. [Library] および [Configuration] フォルダーに、コンテンツパック内のエンティティのツリー構造が表示されます。
6. ノードを展開したり折りたたんだりして、コンテンツパック内の異なるフォルダーのコンテンツを表示できます。
7. [詳細] ペインから詳細を削除するコンテンツパックの名前の横にあるチェックボックスをオフにします。

選択したコンテンツパックに行われた変更の表示

1. [コンテンツワークスペース] > [コンテンツパック] タブをクリックします。
2. リストからデプロイしたコンテンツパックを作成します。
3. 右側にある [詳細] ペインの [変更] タブをクリックすると、コンテンツパックで追加、削除、更新、移動されたアイテムが表示されます。

移動されたアイテムの場合、移動元を確認するには、アイテムの上にマウスポインタを置きます。
4. 必要に応じて、特定の種類の変更のみが表示されるよう、変更内容をフィルターできます。
 - [種類] で、1つまたは複数のエンティティの種類を選択し、その種類のエンティティに関連する変更のみを表示します。選択肢は、[フロー]、[オペレーション]、[構成アイテム]、[すべて] です。
 - [パス] に、パスの一部またはすべてを入力し、入力した文字列を含むパスのエンティティに対する変更のみを表示します。
 - [変更] で、1つまたは複数のエンティティの種類を選択し、その種類の変更のみを表示します。選択肢は [追加されました]、[削除されました]、[変更されました]、[移動しました] または

[コンテンツパックが移動されました] です。



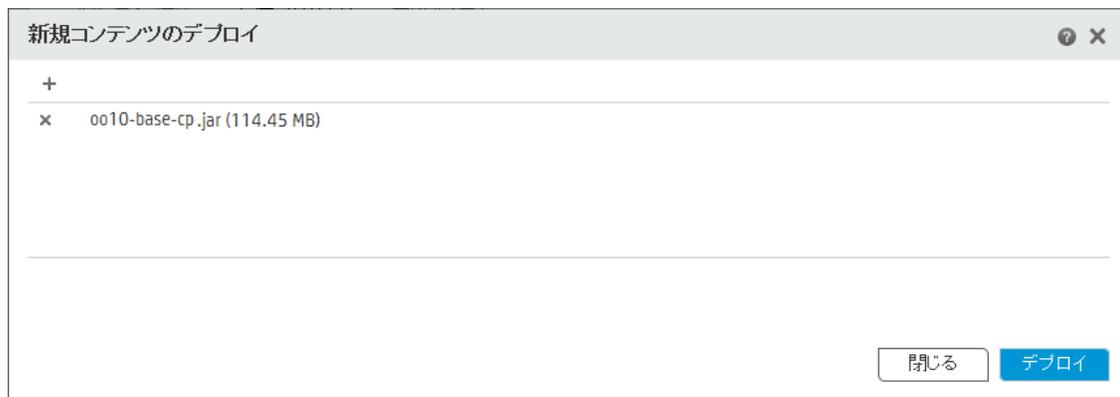
ペインの表示を調整します。

ペインの端にあるスライダーの開く/閉じるボタンを使って、ペインの表示と非表示を切り替えます。

スライダーをドラッグして、ペインのサイズを調整します。

参照情報

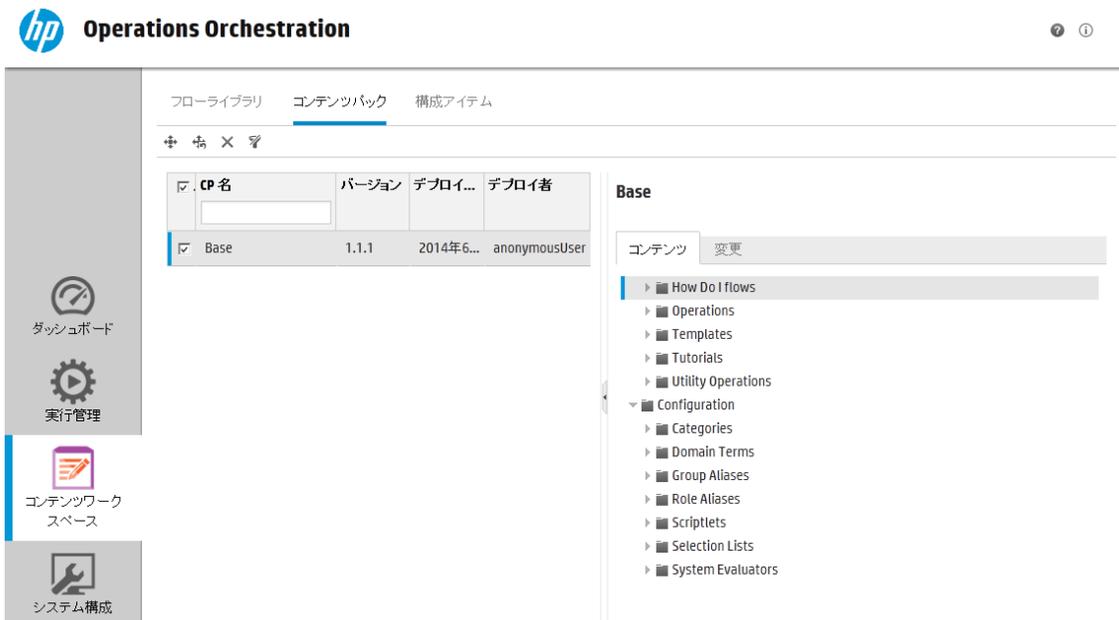
[新規コンテンツのデプロイ] ダイアログボックス



GUI アイテム	説明
追加 +	クリックしてデプロイメント用の新規コンテンツパックを追加します。1つの操作で複数のコンテンツパックを追加およびデプロイできます。

削除	コンテンツパックの横の をクリックして [新規コンテンツのデプロイ] ダイアログボックスから削除します。
デプロイ	クリックして [新規コンテンツのデプロイ] ダイアログボックスにリストされているコンテンツパックをデプロイします。
閉じる	クリックして [新規コンテンツのデプロイ] ダイアログボックスを閉じます。

[コンテンツパック] タブ



GUI アイテム	説明
[デプロイ] ボタン	[デプロイ] ボタンをクリックして、[新規コンテンツのデプロイ] ダイアログボックスを開きます。
[ロールバック] ボタン	[ロールバック] をクリックして、最後のデプロイメントにロールバックします。
[削除] ボタン	クリックして選択されたコンテンツパックを削除します。
[フィルターの クリア] ボタン	クリックしてフィルターをクリアし、すべてのコンテンツパックを表示します。
[CP 名] フィルター	コンテンツパック名または名前の一部を入力し、コンテンツパックの表示をフィルタリングします。
バージョン	コンテンツパックのバージョン番号を表示します。

デプロイ日時	<p>コンテンツパックがデプロイされた日時を表示します。</p> <p>注: コンテンツパックが当日デプロイされたものの場合、時刻のみが表示されます。</p>
デプロイ者	コンテンツパックをデプロイしたユーザーを表示します。
[コンテンツ] タブ	<p>[コンテンツ] タブをクリックすると、選択したコンテンツパックの詳細が表示されます。詳細には、バージョン、パブリッシャー、説明、デプロイ者、コンテンツパックのエンティティが含まれます。</p> <p>エンティティは [Library] および [Configuration] フォルダに Studio でのコンテンツパックの表示にならってツリー形式で表示されます。ツリーのノードは、Studio と同じように展開や折りたたみが可能です。</p>
[変更] タブ	<p>[変更] タブをクリックすると、選択したコンテンツパックに対する変更内容が表示されます。この情報では、追加、削除、更新、移動されたアイテムが分かります。</p> <p>移動されたアイテムの場合、移動元を確認するには、アイテムの上にマウスポインタを置きます。</p>
[開く/閉じる] ボタン	<p>[詳細] ペインの左端にあるスライダーの [開く/閉じる] ボタンを使って、ペインの表示と非表示を切り替えます。</p> 

[コンテンツパック] タブ > [変更] ペイン

コンテンツ		変更
種類	パス	変更
<input type="text" value="▼"/>	<input type="text"/>	<input type="text" value="▼"/>
	Library/Operations/Operating Systems/Linux...	+
	Library/Operations/Operating Systems/Wind...	+
	Library/Operations/Active Directory/.NET/Co...	+
	Library/Operations/Operating Systems/Linux...	+
	Library/Utility Operations/Date and Time/Dat...	+
	Library/Operations/MS Cluster/PowerShell/CL...	+

GUI アイテム	説明
種類	1つまたは複数のエンティティの種類を選択し、その種類のエンティティに関連する変更のみを表示します。選択肢は、[フロー]、[オペレーション]、[構成アイテム]、[すべて] です。
パス	パスの一部またはすべてを入力し、入力した文字列を含むパスのエンティティに対する変更のみを表示します。
変更	1つまたは複数のエンティティの種類を選択し、その種類の変更のみを表示します。選択肢は [追加されました]、[削除されました]、[変更されました]、[移動しました] または [コンテンツパックが移動されました] です。

ワーカーグループエイリアスのセットアップ

 コンテンツパックを Central サーバーにデプロイしたら、運用管理者は、このコンテンツパックのコンテンツを構成して、環境に合うように調整する必要があります。

コンテンツパックに、実際のワーカーグループでなくグループエイリアスに割り当てられているオペレーションが含まれている場合、これらのグループエイリアスを実際のワーカーグループにマッピングする必要があります。グループエイリアスの詳細については、『HP OO コンセプトガイド』の「ワーカーグループとグループエイリアス」を参照してください。

注: グループ名とエイリアス名が同じ場合、これらはデフォルトで自動的にマッピングされます。

構成アイテムにアクセスするには、[コンテンツワークスペース] > [構成アイテム] タブをクリックします。

注: [構成アイテム] タブは、構成アイテムの管理または構成アイテムの表示のアクセス許可を持つ役割が割り当てられている場合にのみ、表示されます。グループエイリアスを編集できるのは、構成アイテムの管理のアクセス許可を持つ役割がある場合のみです。

実行する操作

コンテンツパック内のグループエイリアスのワーカーグループへの割り当て

コンテンツパックにグループエイリアスに割り当てられているオペレーションが含まれている場合、これらのグループエイリアスをワーカーグループにマッピングします。



- [コンテンツワークスペース] ボタンをクリックして、コンテンツ管理を表示します。
- [構成アイテム] > [グループエイリアス] を選択します。
- [追加] + ボタンをクリックします。[グループエイリアスの詳細] ダイアログボックスが開きます。

グループエイリアスの詳細 ? ×

エイリアス名:

ワーカーグループ名:

グループへの割り当て...
グループへの割り当て...
 RAS_Operator_Path

- [エイリアス名] ボックスに、オペレーションで使用したエイリアスの名前を入力します。

5. [ワーカーグループ名] リストから、このグループエイリアスをマッピングするワーカーグループを選択します。
6. [保存] をクリックします。

注: まだ存在していないグループにグループエイリアスをマッピングする場合、[システム構成] > [トポロジ] > [ワーカー] に移動し、新しいグループを作成してから、このタスクに戻ってマッピングしてください。ワーカーグループの作成の詳細については、「[トポロジのセットアップ - ワーカー](#)」(77ページ)を参照してください。

グループエイリアスにマッピングされるワーカーグループの変更

1. [コンテンツワークスペース] > [構成アイテム] > [グループエイリアス] を選択します。
2. 編集するグループエイリアスを選択し、[編集]  ボタンをクリックします。
3. [ワーカーグループ名] リストから、グループエイリアスをマッピングする別のワーカーグループを選択します。
4. [保存] をクリックします。

グループエイリアスのマッピングの削除

1. [コンテンツワークスペース] > [構成アイテム] > [グループエイリアス] を選択します。
2. 削除するグループエイリアスのマッピングを選択し、[削除]  ボタンをクリックします。
3. 確認のダイアログボックスで [はい] をクリックします。

参照情報

[グループエイリアス] ペイン

The screenshot displays the HP Operations Orchestration interface. At the top, the HP logo and 'Operations Orchestration' are visible. The interface is divided into a sidebar on the left and a main content area. The sidebar contains icons for 'ダッシュボード', '実行管理', 'コンテンツワークスペース', and 'システム構成'. The main content area has a top navigation bar with 'フローライブラリ', 'コンテンツパック', and '構成アイテム'. Below this, there are tabs for 'グループエイリアス', 'システムアカウント', and 'システムプロパティ'. The 'グループエイリアス' tab is active, showing a table with two columns: '名前' and 'ワーカーグループ名'. The table contains one entry: 'RAS_Operator_Path'.

GUI アイテム	説明
名前	コンテンツパックのワーカーグループエイリアスの名前を表示します。
ワーカーグループ名	該当するエイリアスのマッピング先のワーカーグループを表示します。
[追加] + ボタン	[グループエイリアスの詳細] ダイアログボックスが開き、コンテンツパック内のグループエイリアスをワーカーグループに割り当てることができます。
[編集] ✎ ボタン	[グループエイリアスの詳細] ダイアログボックスが開き、グループエイリア스에マッピングされるワーカーグループを変更できます。
[削除] ✕ ボタン	選択したグループエイリアスのマッピングを削除します。

[グループエイリアスの詳細] ダイアログボックス

GUI アイテム	説明
エイリアス名	コンテンツパックのワーカーグループエイリアスの名前を入力します。
ワーカーグループ名	該当するエイリアスのマッピング先のワーカーグループを選択します。

コンテンツパックのシステムアカウントのセットアップ

コンテンツパックを Central サーバーにデプロイしたら、運用管理者は、このコンテンツパックのコンテンツを構成して、環境に合うように調整する必要があります。この調整には、システムアカウントのセットアップが含まれます。

多くの場合、コンテンツパックには構成済みのシステムアカウントが付属しています。たとえば、Oracle データベースのコンテンツパックをデプロイしている場合、その中には Oracle ユーザーアカウントが含まれています。Central ユーザー名を作成し、コンテンツパック内のシステムアカウントにマッピングする必要があります。

フローライブラリ コンテンツパック 構成アイテム

グループエイリアス システムアカウント システムプロパティ

+ / ↻ ×

名前	デプロイ済みユーザー名	ユーザー名のオーバーライド
Admin		admin
Sys_account1		Sys_account1
Sys_account2		Sys_account2

- システムアカウントがデプロイ済みのコンテンツパック内に存在していた場合は、元の値が[デプロイ済みユーザー名]列に表示されます。

- デプロイ済みのコンテンツパックのシステムアカウントを編集した場合は、デフォルト値がオーバーライドされて、新しい値が[ユーザー名のオーバーライド]列に表示されます。
- システムアカウントを新規に作成した場合は、[ユーザー名のオーバーライド]列のみに値が表示されます。

注: <>\"/;%!@#\$%^&*() の文字はシステムアカウント名には使用できません。

構成アイテムにアクセスするには、[コンテンツワークスペース] > [構成アイテム] タブをクリックします。

注: [構成アイテム] タブは、構成アイテムの管理または構成アイテムの表示のアクセス許可を持つ役割が割り当てられている場合にのみ、表示されます。システムアカウントを編集できるのは、構成アイテムの管理のアクセス許可を持つ役割がある場合のみです。

実行する操作

システムアカウントのコンテンツパックへの追加



1. [コンテンツワークスペース] ボタンをクリックして、コンテンツ管理を表示します。
2. [構成アイテム] > [システムアカウント] を選択します。
3. [追加] + ボタンをクリックします。[システムアカウントの追加] ダイアログボックスが開きます。

システムアカウントの詳細

システムアカウント名: *

ユーザー名:

パスワード:

パスワードの確認:

4. [システムアカウント名] ボックスに、コンテンツパックに表示されるシステムアカウント名を入力します。

5. [ユーザー名] ボックスに、Central ユーザーアカウントの名前を入力します。このユーザー名は、コンテンツパックからシステムアカウントにマッピングされます。

注: ユーザー名は、元のシステムアカウント名と同じである必要はありません。

6. [パスワード] ボックスに、Central ユーザーのパスワードを入力します。
7. [パスワードの確認] ボックスに再度パスワードを入力します。
8. [保存] をクリックします。

コンテンツパック内のシステムアカウントの編集

1. [コンテンツワークスペース] > [構成アイテム] > [システムアカウント] を選択します。
2. 編集するシステムアカウントを選択し、[編集]  ボタンをクリックします。
3. [システムアカウントの編集] ダイアログボックスで、システムアカウント名、ユーザー名、またはパスワードに対して必要な変更を行います。

注: <> \ " / ; % ! @ # \$ % ^ & * () の文字はシステムアカウント名には使用できません。
<> \ " / ; % ! @ # \$ % ^ & * () .

4. [保存] をクリックします。

コンテンツパックからのシステムアカウントのマッピングの削除

1. [コンテンツワークスペース] > [構成アイテム] > [システムアカウント] を選択します。
2. 削除するシステムアカウントのマッピングを選択し、[削除]  ボタンをクリックします。
3. 確認のダイアログボックスで [はい] をクリックします。

注: HP OO 10.02 以前でデプロイされたシステムアカウントは削除できますが、HP OO 10.02 以降でデプロイされたシステムアカウントは削除できません。

参照情報

[システムアカウント] ペイン

フローライブラリ コンテンツパック **構成アイテム**

グループエイリアス **システムアカウント** システムプロパティ

+ ✎ ↺ ✕

名前	デプロイ済みユーザー名	ユーザー名のオーバーライド
Admin		admin
Sys_account1		Sys_account1
Sys_account2		Sys_account2

GUI アイテム	説明
名前	コンテンツパックに表示されるシステムアカウント名を表示します。
デプロイ済みユーザー名	デプロイ時にコンテンツパック内に含まれていたシステムアカウントの場合、元の値が表示されます。システムアカウントを編集する場合は、このフィールドに元の値が記録されます。
ユーザー名のオーバーライド	システムアカウントにマッピングされる Central ユーザー名を表示します。 <ul style="list-style-type: none"> デプロイ後にコンテンツパックに追加されたシステムアカウントの場合、その値が表示されます。 デプロイ時にコンテンツパック内に含まれていたシステムアカウントを編集した場合、元の値をオーバーライドする編集後の値が表示されます。
[追加] + ボタン	[システムアカウントの追加] ダイアログボックスが開き、新しいシステムアカウントを追加できます。
[編集] ✎ ボタン	[システムアカウントの編集] ダイアログボックスが開き、選択したシステムアカウントを編集できます。
[元に戻す] ↺ ボタン	選択したシステムアカウントを元の値に戻します。このボタンは、デプロイ時にコンテンツパック内に含まれていたシステムアカウントでのみ利用できません。
[削除] ✕ ボタン	選択したシステムアカウントを削除します。 <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>注: HP OO 10.02 以前でデプロイされたシステムアカウントは削除できませんが、HP OO 10.02 以降でデプロイされたシステムアカウントは削除できません。</p> </div>

[システムアカウントの追加] ダイアログボックス

システムアカウントの詳細
? ×

システムアカウント名: *

ユーザー名:

パスワード:

パスワードの確認:

GUI アイテム	説明
システムアカウント名	コンテンツパックに表示されるシステムアカウント名を入力します。
ユーザー名	システムアカウントにマッピングされる Central ユーザー名を入力します。
パスワード	Central ユーザー名のパスワードを入力します。
パスワードの確認	[パスワードの確認] ボックスに再度パスワードを入力します。

コンテンツパックのシステムプロパティのセットアップ

 コンテンツパックを Central サーバーにデプロイしたら、運用管理者は、このコンテンツパックのコンテンツを構成して、環境に合うように調整する必要があります。この中には、システムプロパティのセットアップが含まれています。

フローライブラリ コンテンツパック 構成アイテム		
グループエイリアス システムアカウント システムプロパティ		
+ / 🔍 ×		
名前	デプロイ値	オーバーライド値

- システムプロパティがデプロイ済みのコンテンツパック内に存在していた場合は、元の値が[デプロイ値]列に表示されます。

- デploy済みのコンテンツパックのシステムプロパティを編集した場合は、デフォルト値がオーバーライドされて、新しい値が[オーバーライド値]列に表示されます。
- システムプロパティを新規に作成した場合は、[オーバーライド値]列のみに値が表示されます。

構成アイテムにアクセスするには、[コンテンツワークスペース] > [構成アイテム] タブをクリックします。

注: [構成アイテム] タブは、構成アイテムの管理または構成アイテムの表示のアクセス許可を持つ役割が割り当てられている場合にのみ、表示されます。システムプロパティを編集できるのは、構成アイテムの管理のアクセス許可を持つ役割がある場合のみです。

実行する操作

システムプロパティの追加



1. [コンテンツワークスペース] ボタンをクリックして、コンテンツ管理を表示します。
2. [構成アイテム] > [システムプロパティ] を選択します。
3. [追加] + ボタンをクリックします。[システムプロパティの詳細] ダイアログボックスが開きます。

システムプロパティの詳細

名前 *

オーバーライド値

キャンセル 保存

4. [名前] ボックスに、最大 255 文字のシステムプロパティ名を入力します。

注: \ の文字はシステムプロパティ名には使用できません。 \

5. [保存] をクリックします。

システムプロパティ値の編集

1. [コンテンツワークスペース] > [構成アイテム] > [システムプロパティ] を選択します。

2. 編集するシステムプロパティを選択し、[編集]  ボタンをクリックします。



システムプロパティの詳細

名前 * system_property_for_display

デプロイ値 value_for_display

オーバーライド値

キャンセル 保存

3. [システムプロパティ構成] ダイアログボックスで、システムプロパティ値に対して必要な変更を行います。

注: デプロイ済みのコンテンツパックが元になっている場合は、システムプロパティ名を変更できません。

4. [保存] をクリックします。

システムプロパティの削除

削除できるシステムプロパティは、コンテンツパックをデプロイした後で作成したシステムプロパティに限られます。デプロイ時にコンテンツパック内に含まれていたシステムプロパティを削除することはできません。

1. [コンテンツワークスペース] > [構成アイテム] > [システムプロパティ] を選択します。
2. 削除するシステムプロパティを選択し、[削除]  ボタンをクリックします。
3. 確認のダイアログボックスで [はい] をクリックします。

コンテンツパックからのシステムプロパティを元に戻す

デプロイ時にコンテンツパック内に含まれていたシステムプロパティの値を変更した場合は、これを元の値に戻すことができます。

1. [コンテンツワークスペース] > [構成アイテム] > [システムプロパティ] を選択します。
2. 元の値に戻すシステムプロパティを選択し、[元に戻す]  ボタンをクリックします。
3. 確認のダイアログボックスで [はい] をクリックします。

参照情報

[システムプロパティ] タブ

フローライブラリ	コンテンツパック	構成アイテム
グループエイリアス	システムアカウント	システムプロパティ
+ / ↻ ×		
名前	デプロイ値	オーバーライド値

GUI アイテム	説明
名前	システムプロパティの名前が表示されます。
デプロイ値	デプロイ時にコンテンツパック内に含まれていたシステムプロパティの場合、元の値が表示されます。システムプロパティを編集する場合は、このフィールドに元の値が記録されます。
オーバーライド値	<ul style="list-style-type: none"> デプロイ後にコンテンツパックに追加されたシステムプロパティの場合、その値が表示されます。 デプロイ時にコンテンツパック内に含まれていたシステムプロパティを編集した場合、元の値をオーバーライドする編集後の値が表示されます。
[追加] + ボタン	[システムプロパティの詳細] ダイアログボックスが開くので、新しいシステムプロパティを追加できます。
[編集] ✎ ボタン	[システムプロパティの詳細] ダイアログボックスが開くので、選択したシステムプロパティを編集できます。
[削除] ✕ ボタン	選択したシステムプロパティを削除します。このボタンは、デプロイ後にコンテンツパックに追加されたシステムプロパティでのみ利用できます。
[元に戻す] ↻ ボタン	選択したシステムプロパティを元の値に戻します。このボタンは、デプロイ時にコンテンツパック内に含まれていたシステムプロパティでのみ利用できます。

[システムプロパティ構成] ダイアログボックス



GUI アイテム	説明
名前	システムプロパティの名前を入力します。
オーバーライド値	システムプロパティの値を入力します。
保存	システムプロパティを保存します。

フローライブラリの管理

 コンテンツパックをデプロイした後で、フローライブラリでコンテンツパック内のフローを表示できます。フローライブラリからフローを参照したり、フィルターして、必要なフローを検索できます。フローのメタデータの表示、フローを最後に実行したときのレポートの表示、およびコンテンツアクセス許可の設定を行うことができます。

フローライブラリにアクセスするには、[コンテンツワークスペース] > [フローライブラリ] タブをクリックします。フローライブラリでフローを選択すると、そのフローに関する情報が右側の情報ペインに表示されます。この情報には次の内容が含まれています。

- フローに関する説明 (存在する場合)
- フローが格納されている場所へのパス
- フローのバージョン
- フローのUUID
- フローのROI

コンテンツアクセス許可の設定

コンテンツアクセス許可を使用すると、ユーザーに割り当てられた役割に従って、データ(フローとフォルダー)へのアクセスを制限できます。これは、コンテンツバックの昇格の一環として実行する必要があります。

役割には、フローまたはフォルダーに対する表示アクセス許可、実行アクセス許可のいずれか、または両方を付与することができます。たとえば、選択されたフォルダーのコンテンツの表示と実行を行うプロモーターの役割のアクセス許可、またはコンテンツの表示のみを行うエンドユーザーの役割のアクセス許可をユーザーに付与できます。

注: コンテンツアクセス許可を変更するには、**セキュリティの管理**アクセス許可を持つ役割が割り当てられている必要があります。

フォルダーのコンテンツアクセス許可を設定し、変更内容をすべての子に適用する場合、これらのアクセス許可はそのフォルダー内のすべてのフローに適用されます。ライブラリ全体のアクセス許可を設定することもできます。

注: コンテンツアクセス許可は、HP OO ユーザーがシステム内で実行できる操作を制限することとは異なります。これは役割ベースのアクセス制御 (RBAC) によって行われます。RBAC の詳細については、「[セキュリティのセットアップ - 役割](#)」(24ページ)を参照してください。

実行する操作

フロー情報の表示



1. [コンテンツワークスペース] ボタンをクリックして、コンテンツ管理を表示します。
2. [フローライブラリ] タブをクリックします。
3. フォルダーを開いて必要なフローを探します。
4. (オプション) フローパスの一部またはすべてを [フィルター条件] テキストボックスに入力してフローをフィルタリングします。

たとえば "network" と入力すると、"network" という文字が含まれるフローまたは、"network" という文字が含まれるフォルダーにあるパスが表示されます。

注: 検索では大文字と小文字は区別されません。

5. フローを選択します。
6. 右側の情報ペインに表示されるフロー情報を確認します。
7. 必要に応じて、スクロールバーを使用して下にスクロールし、[説明] セクションの内容を確認します。

8. 必要に応じて、情報ペインの端のスライダーを使用して、ペインの幅と高さを調整します。



9. 必要に応じて、[グラフを開く] ボタンをクリックして、フローを表すフローマップを表示します。



詳細については、「[フローマップの表示](#)」(120ページ)を参照してください。

フローを最後に実行したときの情報の表示

フローを最後に実行したときの結果の詳細を表示できます。



1. [コンテンツワークスペース] ボタンをクリックして、コンテンツ管理を表示します。
2. [フローライブラリ] タブをクリックします。
3. フローライブラリ内のフローを選択します。
4. [最終実行レポート] ボタンをクリックします。[ドリルダウン] ウィンドウが開き、フローを最後に実行したときの結果が表示されます。

ドリルダウン
✕

◀
Displayed URL Test

完了 - 解決済み
✓

ステップ名	トランザクションメッセージ
<input checked="" type="checkbox"/> Iterate over URL List	リストにはさらに要素が存在...
<input checked="" type="checkbox"/> Accessible?	success
<input checked="" type="checkbox"/> Passed	success
<input checked="" type="checkbox"/> Iterate over URL List	no more
<input checked="" type="checkbox"/> Check if any URLs Failed	すべての Web ページにアク...
⚙️ Resolved : success	

フローグラフ

ステップの詳細

⚙️ **Resolved : success**

ステップ ID: 067323d5-e2fd-4515-bf2f-abb6384b70d0

開始時刻: 午後1時23分

終了時刻: 午後1時23分

レスポンス: N/A

期間: 21.404 秒

プライマリ結果: LocalFailedMemory

ワーカージェット: N/A

ワーカー ID:

トランザクションメッセージ:

その他のデータ: Result

[最終実行レポート]  ボタンは、少なくとも一度実行されたフローに対してのみ使用できます。

[ドリルダウン] ウィンドウの情報は、[実行エクスプローラー] のドリルダウン表示の情報と同じです。この表示の詳細については、「[フロー実行のテストとトラブルシューティング](#)」(167ページ)を参照してください。

フローまたはフォルダーのコンテンツアクセス許可の設定

1. フローライブラリ内のフローまたはフォルダーを選択します。
2. [アクセス許可] セクションで、[編集] ボタンをクリックします。
3. [アクセス許可の編集] ダイアログボックスで、[表示] および [実行] チェックボックスを選択して、選択した役割のアクセス許可を割り当てます。

アクセス許可の編集 ✕

パス: Library/Accelerator Packs/Network/Deprecated/Displayed URL Test.xml

役割名	表示	実行
ADMINISTRATOR	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>

キャンセル
保存

- 選択した役割を持つユーザーが Central 内で該当するフローまたは該当するフォルダーのコンテンツを表示できるようにするには、[表示] を選択します。
 - 選択した役割を持つユーザーが Central 内で該当するフローまたは該当するフォルダーのコンテンツを実行できるようにするには、[実行] を選択します。
4. フォルダーを選択した場合、[子に適用] チェックボックスを選択して、これらのアクセス許可をフォルダー内のすべてのフローに適用できます。
 5. [保存] をクリックします。

参照情報

[フローライブラリ] ペイン

フローライブラリ コンテンツパック 構成アイテム

フィルター条件:

- ▼ Library
 - ▼ Accelerator Packs
 - ▼ Active Directory
 - ▶ Deprecated
 - ▶ Diagnostics
 - ▶ Health Check
 - ▶ Utility
 - Find Inactive Domain Administrators
 - Find Inactive Users**
 - Fix Root Hints
 - ▶ Network
 - ▶ How Do I flows
 - ▶ Operations
 - ▶ Templates
 - ▶ Tutorials
 - ▶ Utility Operations

Find Inactive Users

ID:
d97d148b-2b91-490a-848a-fb6762f73a45

パス:
Library/Accelerator Packs/Active Directory/Find Inactive Users.xml

コンテンツパック:

アクセス許可

役割名	表示	実行
ADMINISTRATOR	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
END_USER		
EVERYBODY		

GUI アイテム	説明
[実行]  ボタン	[実行] ボタンをクリックして、選択したフローを実行します。
[スケジュール]  ボタン	[スケジュール] ボタンをクリックして、[スケジュールの作成] ダイアログボックスを開きます。
[最終実行レポート]  ボタン	選択したフローを最後に実行したときの結果の詳細を表示します。 [最終実行レポート] ボタンは、少なくとも一度実行されたフローに対してのみ使用できます。
[グラフを開く] ボタン 	[グラフを開く] ボタンをクリックすると、フローを表すフローマップが表示されます。 詳細については、「 フローマップの表示 」(120ページ)を参照してください。
ID	選択したフローのUUIDを表示します。
パス	選択したフローの場所へのパスを表示します。
コンテンツパック	選択したフローの元となるコンテンツパックを表示します。

バージョン	選択したフローのバージョン番号を表示します。
リンクの実行	必要に応じて、このリンクをコピーし、外部 Web サイトに埋め込みます。リンクをクリックすると表示される内容をテストするには、ここからリンクをクリックして、トリガーダイアログボックスを開きます。詳細については、「 フローの実行 」(126ページ)を参照してください。
説明	選択したフローの説明を表示します。必要に応じて、スクロールバーを使用して下にスクロールし、[説明] セクションの内容を確認します。
アクセス許可	<p>システムで定義されている各役割に対して、このフローまたはフォルダーに関して設定されているアクセス許可を表示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 該当する役割を持つユーザーが Central 内でこのフロー (または該当するフォルダーのコンテンツ) を表示するアクセス許可がある場合、[表示] と表示されます。 該当する役割を持つユーザーが Central 内でこのフロー (または該当するフォルダーのコンテンツ) を実行するアクセス許可がある場合、[実行] と表示されます。 <p>このセクションの役割の表示は、システム内で定義されている役割に対応します。</p>
編集	クリックすると、選択したフローまたはフォルダーの [アクセス許可の編集] ダイアログボックスが開きます。

[アクセス許可の編集] ダイアログボックス

×

パス: Library/Accelerator Packs/Network/Deprecated/Displayed URL Test.xml

役割名	表示	実行
ADMINISTRATOR	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>

GUI アイテム	説明
実行	選択した役割を持つユーザーが Central 内で該当するフロー (または該当するフォルダーのコンテンツ) を表示できるようにするには、[表示] を選択します。

表示	選択した役割を持つユーザーが Central 内で該当するフロー (または該当するフォルダーのコンテンツ) を実行できるようにするには、 [実行] を選択します。
子に適用	フォルダーを選択した場合、 [子に適用] チェックボックスを選択して、更新されたアクセス許可をフォルダー内のすべてのフローに適用します。
保存	クリックして変更内容をアクセス許可に保存します。

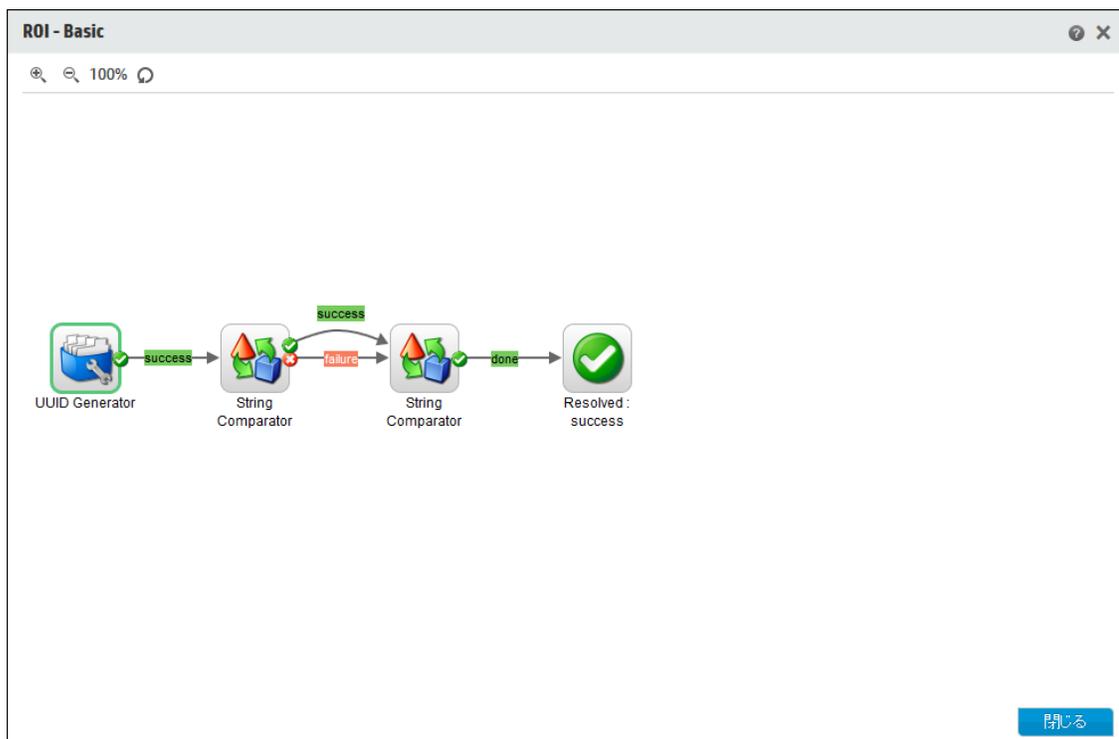
フローマップの表示

 [フローライブラリ] で、[グラフを開く] ボタンをクリックすると、フローを表すフローマップを表示することができます。このフローマップは、フローを作成したときに Studio に存在していたのと同じマップです。



フローマップを使用する目的

- プロモートフェーズでは、運用管理者がフローの内容や必要なステップと出力を理解しやすくする目的でフローマップを使用できます。
- 実行フェーズでは、エンドユーザーがフローの内容を明確にしたり必要なフローであることを確認したりする目的でフローマップを使用できます。
- トラブルシューティングフェーズでは、エンドユーザーと運用管理者が、フローが失敗する原因になった連続ステップを正確に把握するのにフローマップを使用できます。



実行する操作

[フローライブラリ] からのフローマップの表示

1. [コンテンツワークスペース]  ボタンをクリックして、コンテンツ管理を表示します。
2. [フローライブラリ] タブをクリックします。
3. 必要なフローを選択します。

4. [グラフを開く] ボタン  をクリックして、フローを表すフローマップを表示します。

フローマップの拡大縮小

フローマップを表示する場合、フロー全体がウィンドウ内に収まるようにズームレベルが自動的に調整されます。ただし、ズームレベルは変更することができます。

1. 選択したフローのフローマップを表示します。
2. 次のようにズームレベルを調整します。
 - [拡大]  ボタンをクリックして、ズームを拡大します。
 - [縮小]  ボタンをクリックして、ズームを縮小します。
 - [リセット]  ボタンをクリックすると、表示がデフォルトのサイズと位置にリセットされます。

フローマップのパン

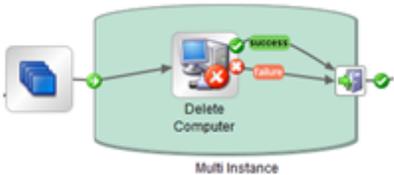
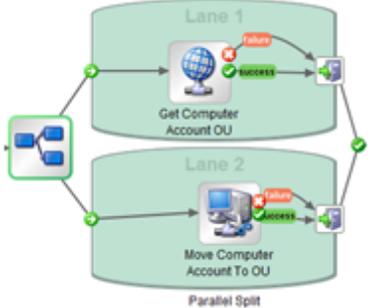
1. 選択したフローのフローマップを表示します。
2. マウスカーソルをフローマップ上に置くと、カーソルが手のアイコンに変わります。
3. マウスカーソルを押してマップをドラッグし、マップ上の特定の場所に表示を移動します。

参照情報

フローマップの要素

GUI アイテム	説明
----------	----

<p>オペレーション</p>  <p>Operation 1</p>	<p>オペレーションは背景がグレーです。</p>
<p>レスポンス</p>  <p>Generate Report From</p>	<p>オペレーションには、「エラー」、「解決済み」、「診断済み」、「操作なし」を表す定義済みのレスポンスアイコンが付いています。</p>
<p>非ブロック</p>  <p>Local Ping</p>	<p>非ブロックステップは、残りのフローをブロックしません。フローの実行時に、非ブロックステップが実行されている間、非ブロックステップの後に配置されているステップが引き続き実行されます。</p> <p>非ブロックステップは、オレンジ色の稲妻付きで表示されます。</p>
<p>サブフロー</p>  <p>Test Computer Account</p>	<p>サブフローとは、フロー内フローです。</p> <p>サブフローは、背景が青色で表示されます。</p>
<p>レスポンスステップ</p>  <p>Error: failure Resolved: success Diagnosed: diagnosed No Action Taken:</p>	<p>レスポンスステップは、フローの終点です。</p>
<p>トランジション</p> 	<p>ステップ間のトランジションには、レスポンスステップと同じ色で色分けされたラベルが表示されます。</p>
<p>ゲートトランジション</p> 	<p>ゲート制御式トランジションは、次のステップへのアクセスを、特定の役割が割り当てられているユーザーに限定します。</p> <p>ゲートトランジションは、赤い矢印で表示されます。</p>
<p>ハンドオフトランジション</p> 	<p>ハンドオフトランジションとは、現在のユーザーがフロー実行を別のユーザーにハンドオフすることを推奨するメッセージが表示されるものです。</p> <p>ハンドオフトランジションは、白抜きの矢印で表示されます。</p>

<p>複数のインスタンスステップ</p> 	<p>複数のインスタンスステップは、複数のターゲットで複数回実行できます。</p> <p>HP OO 10.x では、複数のインスタンスステップは複数のインスタンス分岐内に存在します。</p>
<p>並列分岐ステップ</p> 	<p>並列分岐ステップは、同時に実行される一連の連続したステップです。</p> <p>各連続ステップは、フロー図内にレーンとして視覚的に表されます。</p>

フローマップのツールバー



GUI アイテム	説明
拡大 	[拡大] ボタンをクリックして、ズームを拡大します。
縮小 	[縮小] ボタンをクリックして、ズームを縮小します。
[リセット]  ボタン	[リセット] をクリックして、表示をデフォルトのサイズと位置にリセットします。

コンテンツパックのテストとトラブルシューティング

 このステップでは、運用管理者がステージングサーバーのフローをテストおよびトラブルシューティングします。

実行する操作

ステージングサーバー上のコンテンツパックのテスト

1. [コンテンツワークスペース]  ボタンをクリックして、コンテンツ管理を表示します。

2. [フローライブラリ] タブをクリックします。
3. テストするフローを選択して、[実行] ボタンをクリックします。
4. フロー実行が想定どおりに行われるかどうかをチェックします。
5. [実行] タブをクリックして、フロー実行の進捗状況を監視します。詳細については、「[フロー実行の追跡と管理](#)」(152ページ)を参照してください。
6. 各行の末尾にある[ドリルダウン]  ボタンをクリックして、選択した実行の詳細情報を表示します。詳細については、「[フロー実行のテストとトラブルシューティング](#)」(167ページ)を参照してください。
7. フローをさらにテストするには、同じまたは別のパラメーターを使用して再度実行します。

フローの実行と監視

	運用管理者とエンドユーザーは、フローの実行と監視を担当します。
---	---------------------------------

フローの実行と監視 – 概要	125
フローの実行	126
フロー実行のスケジューリング	134
フロー実行の追跡と管理	152
フロー実行の表示の調整	160
フロー実行のテストとトラブルシューティング	167

フローの実行と監視 – 概要

コンテンツパックをデプロイしたら、運用管理者またはエンドユーザーは、フローを実行し、フロー実行を監視できます。



これはワークフローの簡単な概要であり、ここに記載していない多くのオプションがあることに注意してください。任意のステップの詳細については、リンクを使用してオプションの詳細を確認してください。

ステップ 1: 実行するフローの検索

 運用管理者/エンドユーザーは、[フローライブラリ] または [実行エクスプローラー] でフローを見つけます。[コンテンツワークスペース] > [フローライブラリ] モジュールまたは [実行管理ワークスペース] > [実行エクスプローラー] モジュールに移動します。「[フローの実行](#)」(126ページ) または「[フローライブラリの管理](#)」(113ページ) を参照してください。

ステップ 2: フローの実行

 運用管理者/エンドユーザーはフローを実行します。「[フローの実行](#)」(126ページ) を参照してください。

 または、運用管理者/エンドユーザーは、フローが後で実行されるようにスケジュールを設定します。「[フロー実行のスケジュールリング](#)」(134ページ)を参照してください。

ステップ 3: フロー実行の監視

 運用管理者/エンドユーザーは [実行エクスプローラー] でフロー実行を追跡します。「[フロー実行の追跡と管理](#)」(152ページ)を参照してください。

 必要に応じて、運用管理者/エンドユーザーは、フロー実行の操作 (フロー実行の一時停止、再開、キャンセルなど) を実行します。「[フロー実行の追跡と管理](#)」(152ページ)を参照してください。

ステップ 4: フロー実行のトラブルシューティング

 必要に応じて、運用管理者は実行に関する問題を調査します。「[フロー実行のテストとトラブルシューティング](#)」(167ページ)を参照してください。

フローの実行

 Central では、次の異なる場所からフローを実行できます。

- 実行エクスプローラー
- フローライブラリ

フロー実行の一時停止、再開、またはキャンセル方法については、「[フロー実行の追跡と管理](#)」(152ページ)を参照してください。

実行する操作

[実行エクスプローラー] からのフローの実行

1. [実行管理]  ボタンをクリックして、実行管理ワークスペースを表示します。
2. [実行エクスプローラー] タブをクリックします。
3. 右上隅にある [実行]  ボタンをクリックします。
4. [フローの選択] ダイアログボックスで、必要なフローを参照して見つけます。



5. (オプション) 必要なフローを見つけるには、フローパスの一部またはすべてを [フィルター条件] テキストボックスに入力します。

たとえば "network" と入力すると、"network" という文字が含まれるフローまたは、"network" という文字が含まれるフォルダーにあるパスが表示されます。

注: 検索では大文字と小文字は区別されません。

6. 実行するフローを選択して、[OK] をクリックします。
7. [実行名] ボックスに、実行の名前を入力します。

デフォルトでは、実行名はフロー名ですが、変更可能です。特定の実行を識別できるような名前を実行に付ける必要がある場合があります。たとえば、同じフローを複数回、それぞれ別の入力を使用して実行する場合などです。実行に名前を付けると、入力を基に実行を識別しやすくなります。

8. [実行フロー] ダイアログボックスで、実行に対して必要な入力を行います。

実行フロー
?
×

フロー: *

実行名:

host: *

domain:

9. [実行] をクリックします。

[フローライブラリ] からのフローの実行



1. [コンテンツワークスペース] ボタンをクリックして、コンテンツ管理を表示します。
2. [フローライブラリ] タブをクリックします。
3. フローライブラリ内のフローを参照します。
4. (オプション) 必要なフローを見つけるには、パスの一部またはすべてを [フィルター条件] テキストボックスに入力します。

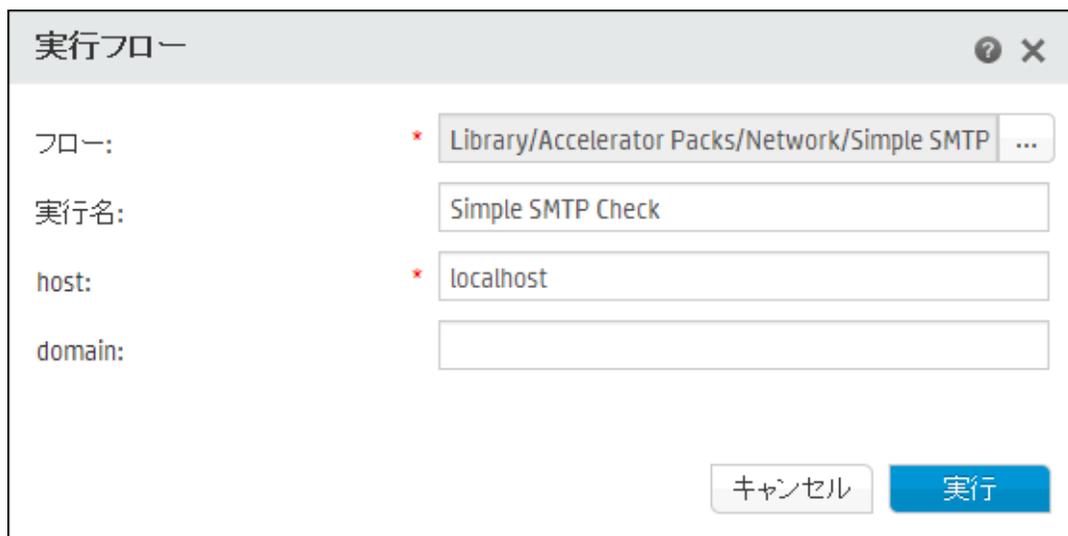
たとえば "network" と入力すると、"network" という文字が含まれるフローまたは、"network" という文字が含まれるフォルダーにあるパスが表示されます。

注: 検索では大文字と小文字は区別されません。

5. 実行するフローを選択して、[実行] ▶ ボタンをクリックします。
6. [実行フロー] ダイアログボックスに、このフロー実行の名前を入力します。

デフォルトでは、実行名はフロー名ですが、変更可能です。特定の実行を識別できるような名前を実行に付ける必要がある場合があります。たとえば、同じフローを複数回、それぞれ別の入力を使用して実行する場合などです。実行に名前を付けると、入力を基に実行を識別しやすくなります。

7. [実行フロー] ダイアログボックスで、実行に対して必要な入力を行います。



実行フロー

フロー: * Library/Accelerator Packs/Network/Simple SMTP ...

実行名: Simple SMTP Check

host: * localhost

domain:

キャンセル 実行

8. [実行] をクリックします。

インタラクティブフローの実行

1. [フローライブラリ] または [実行 エクスプローラー] からインタラクティブフローを実行します。
2. 実行がインタラクティブポイント ([入力が必要]、[ハンドオフ]、[メッセージの表示] など) に到達すると、そのステータスは [一時停止 - 操作が必要] に変わります。
3. [実行 エクスプローラー] で実行を選択し、行の末尾にある [ドリルダウン] > ボタンをクリックして、[実行情報] ウィンドウを表示します。
4. ◀ ボタンをクリックして、プロンプトメッセージを展開します。

» 入力が必要 - Ping

targetHost: * localhost

ターゲットホストの値を入力します

再開

注: [入力が必要] ダイアログボックスの左側にある  ボタンをクリックすると、再度非表示にできます。

5. メッセージを読み、その指示に従って実行を再開します。つまり、必要な入力やハンドオフなどを行い、[再開]をクリックします。

さまざまなステータスについては、「[フロー実行の追跡と管理](#)」(152ページ)を参照してください。

ゲート制御式トランジションがあるフローの実行

ゲート制御式トランジションは、次のステップへのアクセスを、特定の役割が割り当てられているユーザーに限定します。

注: ゲート制御式トランジションフローは、**他ユーザーの実行の管理**アクセス許可があるユーザーによってのみ再開できます。

1. [フローライブラリ]または[実行エクスプローラー]からフローを実行します。
2. フロー実行がゲート制御式トランジションに到達したときに、必要なアクセス許可を持つ役割がユーザーに割り当てられていない場合、フロー実行は一時停止されます。実行ステータスには、**[一時停止 - 操作が必要]**と表示されます。

3. 行の末尾にある **[ドリルダウン]**  ボタンをクリックして、実行の詳細情報を表示します。
4.  ボタンをクリックして、プロンプトメッセージを展開します。
5. プロンプトメッセージで、**[別のユーザーにハンドオフ (この実行を電子メールで送信)]** リンクをクリックして、フロー実行を完了する必要があるユーザーに送信する電子メールメッセージを作成します。
6. 電子メールメッセージが開きます。この電子メールメッセージには、フロー実行がハンドオフされるユーザーへのメッセージとフロー実行へのリンクが記載されています。このユーザーの電子メールアドレスを入力し、メッセージを送信します。

ハンドオフランジションがあるフローの実行

ハンドオフランジションとは、現在のユーザーがフロー実行を別のユーザーにハンドオフすることを推奨するメッセージが表示されるものです。ゲート制御式ランジションとは異なり、最初のユーザーに、フロー実行を別のユーザーにハンドオフせずに再開できるオプションがあります。

1. [フローライブラリ] または [実行エクスプローラー] からフローを実行します。
2. フロー実行がハンドオフランジションに到達すると、フロー実行は一時停止されます。実行ステータスには、**[一時停止 - 操作が必要]** と表示されます。
3. 行の末尾にある **[ドリルダウン]**  ボタンをクリックして、実行の詳細情報を表示します。
4.  ボタンをクリックして、プロンプトメッセージを展開します。
5. 次の2つのオプションがあります。
 - フロー実行を別のユーザーにハンドオフするには、**[別のユーザーにハンドオフ (この実行を電子メール送信)]** をクリックします。電子メールメッセージが開きます。この電子メールメッセージには、フロー実行がハンドオフされるユーザーへのメッセージとフロー実行へのリンクが記載されています。このユーザーの電子メールアドレスを入力し、メッセージを送信します。
 - **[再開]** をクリックして、ハンドオフせずにフローを続行します。

[一時停止 - グループにワーカーが存在しません] ステータスのフローの実行

ワーカーにマッピングされていないワーカーグループがある場合、フローのステータスは **[一時停止 - グループにワーカーが存在しません]** になります。実行を再開する前に、ワーカーグループを実際のワーカーにマップする必要があります。詳細については、「[ワーカーグループエイリアスのセットアップ](#)」(102 ページ) を参照してください。

1. [フローライブラリ] または [実行エクスプローラー] からフローを実行します。
2. フロー実行は、ワーカーが存在しないワーカーグループに関連するポイントに到達すると、一時停止します。実行ステータスには、**[一時停止 - グループにワーカーが存在しません]** と表示されません。

3. 行の末尾にある [ドリルダウン]  ボタンをクリックして、実行の詳細情報を表示します。
4.  ボタンをクリックして、プロンプトメッセージを展開します。
5. ワーカーグループを関連するワーカーにマップします。詳細については、「[ワーカーグループエイリアスのセットアップ](#)」(102ページ)を参照してください。
6. 一時停止メッセージに戻り、[再開] をクリックします。

外部からのフローの実行

リンクを Web サイトのフローに埋め込んで、その Web サイトからフローを実行することができます。ユーザーが Web サイトでこのリンクをクリックすると、トリガーダイアログボックスが開き、フローを実行できるようになります。入力が必要な場合は、ダイアログボックスに入力が組み込まれます。

注: 実行リンクを、入力を渡したりフロー実行の名前を変更するために編集できます。



1. [コンテンツワークスペース]  ボタンをクリックして、コンテンツワークスペースを表示します。
2. [フローライブラリ] タブをクリックします。
3. フローをクリックして、その詳細を右側にある [情報] ペインに表示します。
4. [リンクの実行] セクションのテキストをコピーし、このリンクを Web サイトに埋め込みます。

リンクの実行: <http://16.59.63.164:8293/oo/trigger.html#deb358b4-8bee-4e27-92d4-af01e6e62c7e>

5. 必要に応じて、input_ および runName 接頭辞を追加して実行リンクを編集します。実行リンクを取得して、入力を渡したりフロー実行の名前を変更することができます。

形式は input_<inputName>=<inputValue> and runName=<runNameValue> です。これらの値は、? から始まり、& で連結させます。

例:

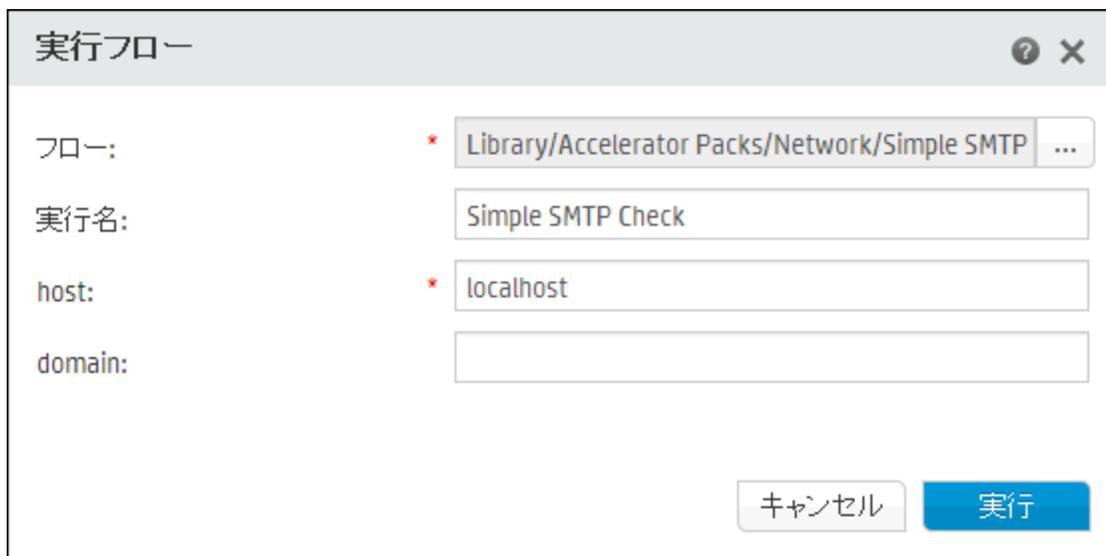
```
https://<your fqdn to Central>:<port #>/oo/trigger.html#7a1fc3c7-1c5b-4868-a1c7-2932d878897e?input_host=someHost&input_username=someUsername
```

```
https://<your fqdn to Central>:<port #>/oo/trigger.html#7a1fc3c7-1c5b-4868-a1c7-2932d878897e?runName=someName
```

注: 実行リンクをクリックすると表示される内容をテストするには、[リンクの実行] セクションのリンクをクリックして、トリガーダイアログボックスを開きます。

参照情報

[実行フロー] ダイアログボックス



GUI アイテム	説明
フロー	フローへのパスを表示します。
実行名	[実行名] ボックスに、実行の名前を入力します。 名前は元のフローと同じである必要はありません。特定の実行を識別できるような名前を実行に付ける必要がある場合があります。たとえば、同じフローを複数回、それぞれ別の入力を使用して実行する場合などです。実行に名前を付けると、入力を基に実行を識別しやすくなります。
<入力フィールド>	必要に応じて入力を行います。入力フィールドの数とそのラベルは、選択したフローで必要な入力によって異なります。
実行	クリックしてフローを実行します。

フロー実行のスケジューリング

  スケジュールを使用すると、フローの実行時点を制御できます。特定のフローに対して実行するスケジュールを指定できます。繰り返す必要があるタスクに対して、定期的なスケジュールをセットアップすることもできます。

たとえば、多数のサーバーがオンラインであるかどうかを定期的にチェックする必要があるとします。この場合、IP アドレスをチェックするフローを定義し、そのフローを実行するスケジュールを作成できます。

スケジュールは [スケジューラー] タブに表示されます。スケジュールの表示は、役割に割り当てられているアクセス許可に依存します。

- **スケジュールの表示** アクセス許可を持つ役割が割り当てられている場合、HP OO スケジュールとその詳細を表示できます。
- **スケジュールの管理** アクセス許可を持つ役割が割り当てられている場合、スケジュールを表示および編集できます。

エキスプローラーの実行 スケジューラー

フロー名で
フィルター

状態	スケジュール名	フロー名	次の実行 ↕	前の実行	ユーザー
<input type="checkbox"/> 	Simple SMTP Check	Simple SMTP Check	2013年9月14日午後9時 50分 土曜日		admin
<input checked="" type="checkbox"/> 	Restart Windows Server	Restart Windows Server	2013年9月14日午後11 時46分 土曜日		admin
<input type="checkbox"/> 	Windows Health Check	Windows Health Check	2013年9月16日午後10 時49分 月曜日		admin

注: Central スケジューラーは、SAML 認証を使用している場合には動作しません。

スケジュール所有者

それぞれのスケジュールには所有者があります。所有者はスケジュールを作成したユーザーです。所有者の名前は、[スケジューラー] と [実行エキスプローラー] の [ユーザー] 列に表示されます。

- [スケジューラー] タブでは、[ユーザー] 列がスケジュール所有者を示します。
- [実行エキスプローラー] タブでは、[ユーザー] 列はこのフロー実行の所有者 (スケジュールされた実

行を行うユーザー)を示します。

実行エクスプローラー スケジューラー

|| ▶ ⏪ ⏩ 🔍 ▶ 実行

実行名	実行 ID	ステータス	開始時刻	ユーザー	期間
How do I- Format with HTML	100300138	🛑 キャンセル済み	午後4時22分	anonymousUser	19分 24秒
How do I- Format with HTML	100300130	⏸ 一時停止 - 操作が必要	午後4時22分	anonymousUser	20分 16秒
Displayed URL Test	100300001	✅ 完了 - 解決済み	午後1時22分	anonymousUser	1分 50秒

別のユーザーがスケジュールを更新すると(繰り返し、名前、タイムゾーンなど)、スケジュール所有者がこのユーザーに変わります。このユーザーは、[スケジューラー] ではスケジュール所有者として、[実行エクスプローラー] ではフロー実行者として表示されます。

注: 新しい所有者は、変更後に開始した実行に対してのみ表示されます。変更前に開始した実行の場合、元の所有者が[ユーザー]列に表示されます。

スケジュールが匿名ユーザーとしてログインしているユーザーによって作成または更新されると、[ユーザー]列には N/A と表示されます。

注: スケジュールされたフローの実行アクセス許可を持たないユーザーがスケジュールを更新すると、このフローは実行されません。

注: LDAP 構成が存在し、構成された LDAP サーバーが応答しない場合、これはすべての種類のスケジュールに影響します。これには、LDAP ユーザーによって実行されるスケジュールと内部ユーザーによって実行されるスケジュールの両方が含まれます。

実行する操作

既存のスケジュールの表示

[スケジューラー] タブを表示するには、**スケジュールの表示** アクセス許可を持つ役割が割り当てられているユーザーアカウントでログインする必要があります。



1. **[実行管理]** ボタンをクリックして、実行管理ワークスペースを表示します。
2. **[スケジューラー]** タブをクリックします。表に、次の情報を含む現在のすべてのスケジュールが表示されます。
 - **状態:** スケジュールが有効 (✅) または無効 (❌) になっているかどうかを表示します。
 - **スケジュール名:** このスケジュールに指定された名前を表示します。この値は、[スケジュールの編集] ダイアログボックスで編集できます。

- **フロー名**: スケジュールが関係するフローの名前を表示します。この値はフローから取得され、スケジュールでは変更できません。
- **次の実行**: 次の実行の開始がスケジュールされている日時を表示します。日時はユーザーのタイムゾーンで表示されます。
- **前の実行**: 前の実行が開始された日時を表示します (存在する場合)。
- **ユーザー**: このスケジュールを作成または変更したユーザーの名前を表示します。

スケジュールの詳細の表示

[スケジュールの詳細] ダイアログボックスでは、ドリルダウンすると、スケジュールの詳細を表示できます。この機能は、**スケジュールの表示** アクセス許可はあるが、スケジュールを編集するアクセス許可がないユーザーにとって便利です。

詳細の中には、[スケジューラー] タブの表に表示されない情報 (繰り返しパターン、繰り返し範囲、スケジュールが実行されるタイムゾーンなど) が含まれています。

スケジュールの詳細を表示するには、次の手順を実行します。



1. **[実行管理]** ボタンをクリックして、実行管理ワークスペースを表示します。
2. **[スケジューラー]** タブをクリックします。
3. 表示するスケジュールの横にあるチェックボックスを選択し、**[スケジューラー]** ツールバーの **[詳細]**  ボタンをクリックします。選択したスケジュールの詳細が、[スケジュールの詳細] ダイアログボックスに表示されます。

注: **[詳細]** ボタンを使用できるのは、1つのスケジュールを選択した場合のみです。

4. スケジュールの詳細の表示が完了したら、**[OK]** をクリックします。

スケジュールの編集

スケジュールを編集するには、**スケジュールの管理** アクセス許可を持つ役割が割り当てられているユーザーアカウントでログインする必要があります。

スケジュールを編集するには、次の手順を実行します。



1. **[実行管理]** ボタンをクリックして、実行管理ワークスペースを表示します。
2. **[スケジューラー]** タブをクリックします。
3. 編集するスケジュールの横にあるチェックボックスを選択し、**[スケジューラー]** ツールバーの **[編集]**  ボタンをクリックします。

4. [スケジュールの編集] ダイアログボックスでスケジュールに対して必要な変更を行い、[保存] をクリックします。

スケジュールのクローン作成

[スケジューラー] タブに表示されるスケジュールと同じコピーを作成できます。[スケジュールのクローン] ダイアログボックスでは、このスケジュールに対して必要な変更を行うことができます。

スケジュールのクローンを作成するには、次の手順を実行します。



1. [実行管理] ボタンをクリックして、実行管理ワークスペースを表示します。
2. [スケジューラー] タブをクリックします。
3. クローンを作成するスケジュールの横にあるチェックボックスを選択し、[スケジューラー] ツールバーの[クローン] ボタンをクリックします。

注: [クローン] ボタンが有効になるのは、1つのスケジュールを選択した場合のみです。

[スケジュールのクローン] ダイアログボックスが開きます。ダイアログボックスのすべてのフィールドには、選択したスケジュールの値が入力されます。

4. 必要に応じて、[スケジュールのクローン] ダイアログボックスのスケジュールの詳細を編集します。クローンに別の名前を指定することもできます。
5. [保存] をクリックします。

スケジュールの削除

1つまたは複数のスケジュールを削除できます。

スケジュールを削除するには、次の手順を実行します。



1. [実行管理ワークスペース] ボタンをクリックして、実行ワークスペースを表示します。
2. [スケジューラー] タブをクリックします。
3. 削除するスケジュールの横にあるチェックボックスを選択し、[スケジューラー] ツールバーの[削除] ボタンをクリックします。
4. 確認ダイアログボックスで、[はい] をクリックします。

選択したスケジュールが[スケジューラー] タブから削除されます。

スケジュールの有効化

デフォルトでは、新しいスケジュールを作成すると、そのスケジュールは有効になります。スケジュールが

無効になっている場合、スケジュールを実行する前に有効にする必要があります。1つまたは複数のスケジュールを有効にできます。

フロー実行のスケジュールを有効にするには、次の手順を実行します。



1. **[実行管理]** ボタンをクリックして、実行管理ワークスペースを表示します。
2. **[スケジューラー]** タブで、無効から有効に変更するスケジュールの横にあるチェックボックスを選択します。
3. **[スケジューラー]** ツールバーで、**[有効にする]**  をクリックします。

注: **[有効にする]** ボタンを使用できるのは、少なくとも1つの無効なスケジュールを選択した場合のみです。

4. 確認ダイアログボックスで、**[はい]** をクリックします。

このスケジュールの**[状態]**列のアイコンが**[有効]**に変わります。

スケジュールの無効化

1つまたは複数のスケジュールを無効にできます。無効にしたスケジュールは**[スケジューラー]**タブに残りますが、有効にするまで実行できません。

フロー実行のスケジュールを無効にするには、次の手順を実行します。



1. **[実行管理]** ボタンをクリックして、実行管理ワークスペースを表示します。
2. **[スケジューラー]** タブで、有効から無効に変更するスケジュールの横にあるチェックボックスを選択します。
3. **[スケジューラー]** ツールバーで、**[無効にする]**  をクリックします。

注: **[無効にする]** ボタンを使用できるのは、少なくとも1つの有効なスケジュールを選択した場合のみです。

4. 確認ダイアログボックスで、**[はい]** をクリックします。

このスケジュールの**[状態]**列のアイコンが**[無効]**に変わります。

スケジュールの表示のフィルタリング

[スケジューラー]タブに表示されるスケジュールは、フィルタリングできます。**[スケジューラー]**タブに表示されるスケジュールが多数ある場合、これでスケジュールをすばやく検索できます。たとえば、接続性に関連するフローのスケジュールを検索している場合、フィルターに使用する語として「接続」と入力し

ます。

注: フィルターの大文字と小文字は区別されません。



1. [実行管理] ボタンをクリックして、実行管理ワークスペースを表示します。
2. [スケジューラー] タブをクリックします。
3. [フロー名でフィルター] ボックスに、検索するスケジュールで使用されているフローの名前を入力します。正確な名前が不明な場合は、名前の一部を入力します。

名前にこのテキストを含むフローのスケジュールのみが、[スケジューラー] タブに表示されます。

スケジュールの表示の更新

別のユーザーが別のクライアントでスケジュールを作成、削除、有効または無効にした場合、このスケジュールはページを更新するまで、[スケジューラー] タブに表示されません。

スケジュールの表示を更新するには、次の手順を実行します。



1. [実行管理] ボタンをクリックして、実行管理ワークスペースを表示します。
2. [スケジューラー] タブをクリックします。
3. [スケジューラー] ツールバーで、[リフレッシュ]  をクリックします。

注: ブラウザーの更新コマンド (たとえば、F5 や Ctrl+R などのキーの組み合わせ) を使用してページを更新することもできますが、この場合 ページ全体がロードされます。[リフレッシュ] ボタンをクリックした場合、スケジュールデータの表示だけが更新されるため、高速です。

スケジュールの表示のソート

[スケジューラー] タブに複数のスケジュールが表示される場合、任意の列見出しに従ってソートすることができます。



1. [実行管理] ボタンをクリックして、実行管理ワークスペースを表示します。
2. [スケジューラー] タブをクリックします。
3. スケジュールのソートに使用する列見出しをクリックします。

デフォルトでは、スケジュールは[次の実行]列の昇順でソートされます。ソートに使用された列見出しの横に、昇順アイコン  が表示されます。

4. 順序を逆にしてスケジュールを降順にソートする場合は、列見出しを再度クリックします。

スケジュールが降順にソートされ、列見出しの横に降順アイコン  が表示されます。

スケジュールの移動

[スケジューラー] タブの複数のページにスケジュールが表示される場合、ページ移動バーを使用してページ間を移動できます。



1. [実行管理] ボタンをクリックして、実行管理ワークスペースを表示します。
2. [スケジューラー] タブをクリックします。



3. ページ移動バー  を使用して、ページ間を移動します。中央のボックスに特定のページの番号を入力するか、ボタンをクリックして以下のページに移動します。
 - 最初のページ
 - 前のページ
 - 次のページ
 - 最後のページ

スケジュールの作成

スケジュールを作成するには、**スケジュールの表示**と**スケジュールの管理**のアクセス許可を持つ役割が割り当てられているユーザーアカウントでログインする必要があります。

1. 新しいスケジュールは、[スケジューラー] または [フローライブラリ] から作成できます。
 - [フローライブラリ] からスケジュールを作成するには、次の手順を実行します。



- i. [コンテンツワークスペース] ボタンをクリックして、コンテンツ管理を表示します。
- ii. [フローライブラリ] タブをクリックします。
- iii. [フローライブラリ] からフローを選択します。
- iv. [スケジュール]  ボタンをクリックします。[スケジュールの作成] ダイアログボックスが開き

ます。

v. 参照ボタン  をクリックしてスケジュールを作成するフローを参照し、選択します。

- [スケジューラー] からスケジュールを作成するには、次の手順を実行します。



i. [実行管理] ボタンをクリックして、実行管理ワークスペースを表示します。

ii. [スケジューラー] タブをクリックします。

iii. [スケジューラー] ツールバーで、[作成]  ボタンをクリックします。

iv. スケジュールを作成するフローを選択して、[OK] をクリックします。[スケジュールの作成] ダイアログボックスが開きます。

2. [スケジュール名] ボックスに、このスケジュールのわかりやすい名前を入力します。フロー名がデフォルトで入っていて、別の名前にしたい場合、同じフローを使って複数のスケジュールを作成することができます。

フロー	
フローパス:	* <input type="text" value="Library/How Do I flows/How do I- Create a parallel flow.x"/> ...
スケジュール名:	* <input type="text" value="How do I- Create a parallel flow"/>
ユーザー:	<input type="text" value="利用できるデータはありません"/>
<input type="checkbox"/> プロンプトに空の値を使用	

3. 入力のプロンプトを省略する場合は、[プロンプトに空の値を使用] チェックボックスをオンにします。値が割り当てられていないプロンプトの場合、空白が使用され、スケジュールされたフローは値の入力を求めて停止せずに実行されます。

ただし、これらのフローのいずれかで入力が必要な場合は、そのフローは失敗します。

このオプションは、HP OO 9.x から 10.x にアップグレードした後はデフォルトで選択されています。すべてのスケジュールが HP OO 9.x で動作するよう、前のバージョンとの互換性があります。

このチェックボックスを選択しなければ、実行は停止し、必須入力でない場合も入力が求められます。

4. [繰り返しパターン] セクションで、スケジュールの繰り返し頻度のいずれか(毎日、毎週、毎月)を選択します。

- 毎日: フローを毎日実行するには、[毎日] および次のいずれかを選択します。

繰り返しパターン

毎日 日付

毎週 毎日

毎月 毎日 (平日)

毎年

- **日付**: フローを毎日一定の間隔で実行するには、[日付]を選択して、値を入力し、[分]または[時間]を選択します。

注: [日付]を選択した場合、間隔フィールドは空のままにできず、値は1以上にする必要があります。

- **毎日**: フローを毎日1回実行する場合に選択します。

注: フロー実行は、[繰り返し範囲]セクションの[開始時刻]フィールドに設定されている時間に開始されます。

- **毎日 (平日)**: フローを1日1回、平日のみ実行する場合に選択します。

注: 週の稼働日が月曜日～金曜日でない場合は、代わりに[毎週]オプションを使用して稼働日を選択します。

- **毎週**: フローを毎週実行するには、[毎週]を選択して、フローを実行する曜日を選択します。

繰り返しパターン

毎日 日 月 火 水 木

毎週 金 土

毎月

毎年

注: [毎週] を選択する場合、少なくとも 1 つの曜日を選択する必要があります。

- **毎月:** フローを毎月実行するには、[毎月] および次のいずれかを選択します。

繰り返しパターン

毎日 日付 1 間隔 1 か月
 毎週 曜日 第 1 間隔 曜日 3 か月
 毎月
 毎年

毎日
 日付
 毎週
 曜日
 毎月
 毎年

間隔: 1
 曜日: 曜日
 間隔: 3
 か月: 3

- フローを毎月 特定の日に実行するには、[日] を選択して、日付を選択します。たとえば、フローを毎月 15 日に実行するには、[15] を選択します。
- フローを毎月 1 回、特定の曜日に実行するには、曜日およびその曜日が月の第 1 週、第 2 週、第 3 週、第 4 週、最終週かを選択します。たとえば、毎月第 3 金曜日にスケジュールを実行するには、[第 3]、[金曜日]、[1] か月の順に選択します。
- フローを数か月の間隔で実行するには、月数を選択します。たとえば、四半期に 1 回、四半期の最初の月曜日にスケジュールを実行するには、[第 1]、[月曜日]、[3] か月の順に選択します。

たとえば、2013 年 4 月 1 日に開始し、2013 年 12 月 20 日に終了するスケジュールで、繰り返しパターンが 2 か月ごとの 3 日の場合、フローが実行されるのは、6 月 3 日、8 月 3 日、10 月 3 日、12 月 3 日になります。

- フローを月の最終日に実行するには、特定の曜日でなく、[最終] を選択して、[日] を選択します。

- **毎年:** フローを毎年 1 回実行するには、[毎年] および次のいずれかを選択します。

繰り返しパターン

毎日 日付 1 月 1
 毎週 曜日 第 2 月曜日 月 8 月
 毎月
 毎年

毎日
 日付
 毎週
 曜日
 毎月
 毎年

1 月 1
 第 2 月曜日 月 8 月

- フローを毎年 特定の日に実行するには、[日付] を選択して、月日を選択します。たとえば、毎年 7 月 4 日です。

- フローを毎年 1 回、特定の月日に実行するには、[曜日] を選択してから月を選択し、曜日およびその曜日が月の第 1 週、第 2 週、第 3 週、第 4 週、最終週かを選択します。たとえば、毎年 11 月の第 2 月曜日です。

5. [繰り返し範囲] セクションの[開始日] ボックスに、フロースケジュールを開始する日付を入力します。

注: 日付が過去のスケジュールのコンテンツがアップグレードされると、開始日は現在の日付に変更されます。

繰り返し範囲			
開始日:	<input type="text" value="2013/09/12"/>	<input checked="" type="radio"/> 終了日なし	
開始時刻:	<input type="text" value="00"/> : <input type="text" value="00"/>	<input checked="" type="radio"/> 実行回数	<input type="text" value="10"/> <input type="button" value="回"/>
タイムゾーン:	<input type="text" value="(UTC+09:00) アジア/東京"/>	<input type="radio"/> 終了日	<input type="text" value="2013/09/13"/>

注: 日付の形式は、クライアントブラウザのロケールに従って表示されます。

6. [開始時刻] ボックスに、フロースケジュールを開始する時刻を時間と分で入力します。
7. [タイムゾーン] リストから、自分のいる場所のタイムゾーンを選択します。

注: 世界中のタイムゾーンは、世界協定時刻 (UTC) からのプラスまたはマイナスのオフセット値で表されます。スケジュールを作成すると、デフォルトで現在使用可能なアルファベット順のリストからタイムゾーンが選択されます。HP OO では、最初のタイムゾーンは、クライアントのオフセット値 (該当する場合は、夏時間で計算される) と等しいタイムゾーンがリストから選択されます。

このタイムゾーンは、地理的に正しくない場合があることに注意してください。たとえば、現在の場所のタイムゾーンが UTC-09:00 である場合、デフォルトのタイムゾーンは、**アメリカ/アンカレッジ**になります。必要に応じて、[タイムゾーン] リストから地理的に正しい場所を選択することもできます。

(UTC-09:00) アメリカ/アンカレッジ
 (UTC-09:00) アメリカ/ジュノー
 (UTC-09:00) アメリカ/ノーム
 (UTC-09:00) アメリカ/シトカ
 (UTC-09:00) アメリカ/ヤクタット
 (UTC-09:00) 太平洋/ガンビエ諸島

8. スケジュールを終了する時点を選択します。
 - スケジュールの終了日を設定しない場合は、[終了日なし]を選択します。
 - スケジュールの実行回数を特定の数に制限するには、[実行回数]を選択して、それ以降スケジュールを停止する実行回数を入力します。このオプションは、時間数または分数の間隔で実行するように設定された毎日のスケジュールに対してのみ使用できます。
 - スケジュールを特定の日付で終了するには、[終了日]を選択して、それ以降スケジュールを停止する日付を入力します。
9. フローに入力が必要な場合、右側にある[入力]セクションに入力します。入力ボックスの横に赤色の星が表示される場合、入力が必要で、入力値を指定するまで[保存]ボタンは有効になりません。

入力

host: * XXXX

domain:

10. フロー入力ではない追加入力を行う場合は、[入力]セクションの下部の[入力の追加]をクリックして名前と入力値を入力します。

入力

host: *

domain:

名前 値 ×

11. [保存]をクリックします。

注: [保存] ボタンが有効になっていない場合は、必須の入力が指定されていないか、ダイアログボックスのいずれかのフィールドに誤りがあります。たとえば、2月31日などの存在しない日付が入力されているか、毎週の繰り返しパターンで曜日が選択されていない場合、[保存] ボタンは有効になりません。

参照情報

[スケジューラー] タブ

エクスプローラーの実行 スケジューラー

フロー名で
フィルター

状態	スケジュール名	フロー名	次の実行 ↕	前の実行	ユーザー
<input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/>	Simple SMTP Check	Simple SMTP Check	2013年9月14日午後9時 50分 土曜日		admin
<input checked="" type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/>	Restart Windows Server	Restart Windows Server	2013年9月14日午後11 時46分 土曜日		admin
<input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/>	Windows Health Check	Windows Health Check	2013年9月16日午後10 時49分 月曜日		admin

GUI アイテム	説明
[スケジュール]  ボタン	[スケジュールの作成] ダイアログボックスが開き、新しいスケジュールを追加できます。
[編集]  ボタン	[スケジュールの編集] ダイアログボックスが開き、選択したスケジュールを編集できます。[編集] ボタンを使用できるのは、少なくとも1つのスケジュールを選択した場合のみです。
[削除]  ボタン	選択したスケジュールを削除します。[削除] ボタンを使用できるのは、少なくとも1つのスケジュールを選択した場合のみです。
[有効にする]  ボタン	選択したスケジュールを有効にします。[有効にする] ボタンを使用できるのは、少なくとも1つの無効なスケジュールを選択した場合のみです。
[無効にする]  ボタン	選択したスケジュールを無効にします。[無効にする] ボタンを使用できるのは、少なくとも1つの有効なスケジュールを選択した場合のみです。
[クローン]  ボタン	選択したスケジュールと同じコピーを作成します。[クローン] ボタンが有効になるのは、1つのスケジュールを選択した場合のみです。
[詳細]  ボタン	選択したスケジュールの詳細を表示します。[詳細] ボタンが有効になるのは、1つのスケジュールを選択した場合のみです。
[リフレッシュ]  ボタン	スケジュールの表示を更新します。
フロー名でフィルター	[スケジューラー] タブに表示されるスケジュールをフィルタリングし、[フロー名] ボックスに入力された名前を持つスケジュールのみを表示します。

状態	スケジュールが有効  または無効  になっているかどうかを表示します。
スケジュール名	スケジュールに指定された名前を表示します。
フロー名	スケジュールで実行されるフローの名前を表示します。
次の実行	次の実行がスケジュールされている時刻を表示します。
前の実行	スケジュール内の前回の実行が開始された時刻を表示します。
ユーザー	スケジュールを作成または変更したユーザーの名前を表示します。 スケジュールが匿名ユーザーとしてログインしているユーザーによって作成または更新されると、[ユーザー] 列には N/A と表示されます。
昇順アイコン 	スケジュールが昇順にソートされ、ソートに使用された列見出しの横に昇順アイコン  が表示されます。
降順アイコン 	スケジュールが降順にソートされ、ソートに使用された列見出しの横に降順アイコン  が表示されます。
ページ移動バー	 <p>スケジュールのすべてが1つのページに収まらない場合は、ページ移動バーを使用してページ間を移動します。中央のボックスに特定のページの番号を入力するか、ボタンをクリックして以下のページに移動します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 最初のページ • 前のページ • 次のページ • 最後のページ

[スケジュールの作成] ダイアログボックス

フロー

フローパス: * ...

スケジュール名: *

ユーザー:

プロンプトに空の値を使用

GUI アイテム	説明
フローパス	フローがある場所へのパスを表示します。
スケジュール名	このスケジュールのわかりやすい名前を入力します。
プロンプトに空の値を使用	<p>入力のプロンプトを省略する場合は、このチェックボックスをオンにします。たとえば、スケジュールが自分がいなくても実行できるようにする場合、プロンプトを表示せずに入力することができます。ただし、そのフローで入力が必要な場合は、そのフローは失敗します。</p> <p>このオプションは、HP OO 9.x から 10.x にアップグレードした後はデフォルトで選択されています。すべてのスケジュールが HP OO 9.x で動作するよう、前のバージョンとの互換性があります。</p>
[繰り返しパターン] セクション	<p>[繰り返しパターン] セクションでは、スケジュールを繰り返す頻度を定義します。</p> <p>[繰り返しパターン] セクションは、[毎日]、[毎週]、[毎月]、または [毎年] を選択するかによって変わります。</p>
<div style="border: 1px solid #ccc; padding: 10px;"> <p>繰り返しパターン</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: flex-start;"> <div style="display: flex; flex-wrap: wrap;"> <div style="width: 45%;"><input checked="" type="radio"/> 毎日</div> <div style="width: 45%;"><input checked="" type="radio"/> 日付</div> </div> <div style="border: 1px solid #ccc; width: 60px; text-align: center; margin: 0 10px;">1</div> <div style="width: 45%;"><input type="radio"/> 毎週</div> <div style="width: 45%;"><input type="radio"/> 毎日</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: flex-start; margin-top: 5px;"> <div style="width: 45%;"><input type="radio"/> 毎月</div> <div style="width: 45%;"><input type="radio"/> 毎日 (平日)</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: flex-start; margin-top: 5px;"> <div style="width: 45%;"><input type="radio"/> 毎年</div> <div style="width: 45%;"><input type="radio"/> 毎日 (平日)</div> </div> <div style="margin-left: auto; margin-right: 0;"> <div style="border: 1px solid #ccc; padding: 2px 5px; display: inline-block;">時間</div> <div style="font-size: 0.8em; margin-left: 5px;">▼</div> </div> </div>	
毎日 - <n> 分/時間ごと	<p>フローを毎日一定の間隔で実行するには、[毎日] を選択し、[日付] を選択して、値を入力し、[分] または [時間] を選択します。</p> <div style="background-color: #f0f0f0; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>注: [日付] を選択した場合、間隔フィールドは空のままにできず、値は 1 以上にする必要があります。</p> </div>

<p>毎日 - 毎日</p>	<p>フローを1日1回、すべての曜日に実行するには、[毎日]を選択して、[毎日]を選択します。</p> <p>注: フロー実行は、[繰り返し範囲] セクションの[開始時刻] フィールドに設定されている時間に開始されます。</p>
<p>毎日 - 毎日 (平日)</p>	<p>フローを毎日 (平日) 実行するには、[毎日]を選択して、[毎日 (平日)]を選択します。</p> <p>注: 週の稼働日が月曜日～金曜日でない場合は、代わりに[毎週] オプションを使用して稼働日を選択します。</p>

繰り返しパターン

- 毎日 日 月 火 水 木
 毎週 金 土
 毎月
 毎年

<p>毎週</p>	<p>フローを毎週実行するには、[毎週]を選択して、フローを実行する曜日を選択します。</p> <p>注: [毎週]を選択する場合、少なくとも1つの曜日を選択する必要があります。</p>
------------------	--

繰り返しパターン

- 毎日 日付 1 間隔 1 か月
 毎週 曜日 第1 間隔 曜日 間隔 3 か月
 毎月
 毎年
- 毎日 日付 1 間隔 1 か月
 毎週 曜日 第1 間隔 曜日 間隔 3 か月
 毎月
 毎年

<p>毎月 - 毎月 <n> 日</p>	<p>フローを毎月 特定の日に実行するには、[毎月] を選択して、[日] を選択し、日付を選択します。たとえば、フローを毎月 15 日に実行するには、[15] を選択します。</p>
<p>毎月 - <n> か月に 1 回、<第 n> <曜日></p>	<p>フローを毎月 1 回、特定の曜日に実行するには、曜日およびその曜日が月の第 1 週、第 2 週、第 3 週、第 4 週、最終週かを選択します。たとえば、毎月第 3 金曜日にスケジュールを実行するには、[第 3]、[金曜日]、[1] か月の順に選択します。</p> <p>フローを数か月の間隔で実行するには、月数を選択します。たとえば、四半期に 1 回、四半期の最初の月曜日にスケジュールを実行するには、[第 1]、[月曜日]、[3] か月の順に選択します。</p> <p>フローを月の最終日に実行するには、特定の曜日でなく、[最終] を選択して、[日] を選択します。</p>

繰り返しパターン

毎日 日付 1月 1

毎週 曜日 第 2 月曜日 月 8月

毎月

毎年

<p>毎年 - 毎年 <月> <日></p>	<p>フローを各年の特定の日に実行するには、[毎年] を選択して、[日付] を選択し、月日を選択します。たとえば、毎年 7 月 4 日です。</p>
<p>毎年 - <月> の <第 n> <曜日></p>	<p>フローを毎年 1 回、特定の月日に実行するには、[毎年] を選択してから、月を選択し、曜日およびその曜日が月の第 1 週、第 2 週、第 3 週、第 4 週、最終週かを選択します。たとえば、毎年 11 月の第 2 金曜日です。</p>
<p>[繰り返し範囲] セクション</p>	<p>[繰り返し範囲] セクションでは、スケジュールの開始時点と終了時点を定義します。</p>

繰り返し範囲

開始日: 2013/09/12 終了日なし

開始時刻: 00 : 00 実行回数 10 回

タイムゾーン: (UTC+09:00) アジア/東京 終了日 2013/09/13

開始日	<p>スケジュールを開始する日付を入力します。</p> <p>注: 日付が過去のスケジュールのコンテンツがアップグレードされると、開始日は現在の日付に変更されません。</p>
開始時刻	スケジュールを開始する時刻を入力します。
終了日なし	スケジュールを継続的に実行するかどうかを選択します。
実行回数 <n>	<p>スケジュールの実行回数を特定の数に制限するには、[実行回数]を選択して、それ以降スケジュールを停止する実行回数を入力します。このオプションは、時間数または分数の間隔で実行するように設定された毎日のスケジュールに対してのみ使用できます。</p>
終了日 <日付>	<p>スケジュールを特定の日付で終了するには、[終了日]を選択して、それ以降スケジュールを停止する日付を入力します。</p>
タイムゾーン	<p>[タイムゾーン] リストから、自分のいる場所のタイムゾーンを選択します。</p> <p>注: 世界中のタイムゾーンは、世界協定時刻 (UTC) からのプラスまたはマイナスのオフセット値で表されます。スケジュールを作成すると、デフォルトで現在使用可能なアルファベット順のリストからタイムゾーンが選択されます。HP OO では、最初のタイムゾーンは、クライアントのオフセット値 (該当する場合は、夏時間で計算される) と等しいタイムゾーンがリストから選択されます。</p> <p>このタイムゾーンは、地理的に正しくない場合があることに注意してください。たとえば、現在の場所のタイムゾーンが UTC-09:00 である場合、デフォルトのタイムゾーンは、アメリカ/アンカレッジになります。必要に応じて、[タイムゾーン] リストから地理的に正しい場所を選択することもできます。</p> <ul style="list-style-type: none"> (UTC-09:00) アメリカ/アンカレッジ (UTC-09:00) アメリカ/ジュノー (UTC-09:00) アメリカ/ノーム (UTC-09:00) アメリカ/シトカ (UTC-09:00) アメリカ/ヤクタット (UTC-09:00) 太平洋/ガンビエ諸島

<div style="border: 1px solid #ccc; padding: 5px;"> <p>入力</p> <p>host: * <input type="text" value="XXXX"/></p> <p>domain: <input type="text"/></p> </div>	
入力	フローに入力が必要な場合、[入力] セクションに入力します。このセクションの表示は、入力が必要かどうかに応じて変わります。
保存	クリックしてスケジュールを保存します。

フロー実行の追跡と管理

 フローの実行中、[実行エクスペローラー] タブで実行を追跡し、その進捗状況を監視できます。表に、自分の実行とほかのユーザーの実行の基本的な監視情報が表示されます。

[実行エクスペローラー] は自動更新されます。新規実行が開始されたり実行ステータス、経過時間、およびユーザーが更新されると、表示が更新されます。

[実行エクスペローラー] を使用すると、実行中のフローが複数ある場合に、フロー実行を管理できます。これらのフロー実行に対して、一時停止、再開、再割り当て、キャンセルなどの操作を実行できます。

実行の表示は、ユーザーに割り当てられているコンテンツアクセス許可に依存します。表示するアクセス許可があるフローの実行のみを表示できます。

フロー実行に関して実行できる操作は、次のようにユーザーの役割に割り当てられているアクセス許可に依存します。

- **他ユーザーの実行の管理** アクセス許可を持つ役割が割り当てられている場合は、すべてのユーザーがトリガーした実行に対して操作を実行できます。
- 割り当てられている役割にこのアクセス許可がない場合は、自分がトリガーした実行に対して操作を実行できます。

実行エクスペローラー スケジューラー

|| ▶ ⏪ ⏩ 🔍
▶ 実行

実行名	実行 ID	ステータス	開始時刻	ユーザー	期間
How do I-Format with HTML	100300138	■ キャンセル済み	午後4時22分	anonymousUser	19分 24秒
How do I-Format with HTML	100300130	 一時停止 - 操作が必要	午後4時22分	anonymousUser	20分 16秒
Displayed URL Test	100300001	✓ 完了 - 解決済み	午後1時22分	anonymousUser	1分 50秒

フロー実行が見つからない場合、実行エクスプローラーの機能をフィルターして、目的のフロー実行を見つけることができます。フィルタリングの詳細については、「[フロー実行の表示の調整](#)」(160ページ)を参照してください。

実行する操作

フロー実行に関する基本情報の表示



1. [実行管理] ボタンをクリックして、実行管理ワークスペースを表示します。
2. [実行エクスプローラー] タブをクリックします。
3. [実行] 表に、各実行の基本情報が表示されます。

フロー実行に関する詳細情報の表示

1. [実行エクスプローラー] タブをクリックします。
2. 詳細を確認するフロー実行を選択します。
3. 各行の末尾にある [ドリルダウン] ボタンをクリックして、選択した実行の詳細情報を表示します。

注: 代わりに行をダブルクリックしてドリルダウンし、この情報を表示することもできます。

詳細については、「[フロー実行のテストとトラブルシューティング](#)」(167ページ)を参照してください。

注: [ドリルダウン] ボタンは、表の行を選択した場合にのみ表示されます。

フロー実行の一時停止



1. [実行管理] ボタンをクリックして、実行管理ワークスペースを表示します。
2. [実行エクスプローラー] タブをクリックします。
3. 現在実行中のフローを選択します。
4. [実行エクスプローラー] ツールバーの [一時停止] ボタンをクリックします。

実行ステータスが [一時停止の保留中]、[一時停止] の順に変わります。

一時停止されたフロー実行の再開

ステータスが [一時停止 - ユーザーによる一時停止] である実行を再開できます。他ユーザーの実行

の管理アクセス許可を持つ役割が割り当てられている場合、他のユーザーが一時停止した実行を再開できます。このアクセス許可がない場合は、自分が一時停止した実行を再開できます。

1. [実行管理ワークスペース] > [実行エクスプローラー] タブをクリックします。
2. 一時停止されたフローを選択します。
 - [実行エクスプローラー] ツールバーで [再開] ▶ ボタンが使用できる場合、そのボタンをクリックして、実行を再開します。
 - [実行エクスプローラー] ツールバーで [再開] ▶ ボタンが使用できない場合は、実行を完了するために、システムとやりとりする必要があります。
 - i. 行の末尾にある [ドリルダウン] ▶ ボタンをクリックして、実行の詳細情報を表示します。
 - ii. ◀ ボタンをクリックして、プロンプトメッセージを展開します。
 - iii. 必要な情報を入力します。
 - iv. [再開] ▶ をクリックします。

フロー実行のキャンセル

1. [実行管理ワークスペース] > [実行エクスプローラー] タブをクリックします。
2. 現在実行中のフローを選択します。
3. [実行エクスプローラー] ツールバーの [キャンセル] ⊖ ボタンをクリックします。
4. 確認ダイアログボックスで、[はい] をクリックして、フロー実行のキャンセルを確認します。

フロー実行の所有権の再割り当て

それぞれの実行には所有者があります。デフォルトでは、これは実行を開始したユーザーですが、実行を別のユーザーに割り当てることで、実行中に所有者を変更できます。

実行の所有者は、[ユーザー] 列に表示されるユーザーです。

再割り当ては、通常、ゲート制御式トランジションの結果、またはハンドオフの結果としてトリガーされます。ゲート制御式トランジションとは、実行に続行するアクセス許可がないため実行が一時停止されるもので、ハンドオフとは、作成者がトランジションに別のユーザーへのハンドオフが必要というマークを付けたものです。ただし、フロー実行の任意の時点でフローを再割り当てすることもできます。フローが実行中の場合は、一時停止されて再割り当てできるようになります。

1. [実行管理ワークスペース] > [実行エクスプローラー] タブをクリックします。
2. 現在実行中または一時停止されているフローを選択します。
3. [再割り当て] ⓘ ボタンをクリックします。

4. [実行の再割り当て] ダイアログボックスに、別のユーザーのユーザー名とユーザーが属するドメインを入力します。
5. [再割り当て] をクリックします。

注: 実行を存在しないユーザーに再割り当てすると、再割り当ては失敗します。

注: ステータスが[一時停止 - 操作が必要] のフローを再割り当てする場合、割り当てられたユーザーは[実行エクスプローラー] でそのフローを再開することはできません。実行までドリルダウンして、そこから再開する必要があります。

フロー実行のハンドオフ

一部のフローにはゲート制御式トランジションが含まれているため、現在のユーザーは実行を別のユーザーにハンドオフする必要があります。実行が一時停止すると、現在のユーザーはダイアログボックスを使用して電子メールを別のユーザーに送信し、実行の続行を依頼できます。

1. [実行管理ワークスペース] > [実行エクスプローラー] タブをクリックします。
2. ゲート制御式トランジションで現在一時停止されている実行を選択します。
3. 行の末尾にある [ドリルダウン]  ボタンをクリックして、選択した実行の詳細情報を表示します。
4.  ボタンをクリックして、プロンプトメッセージを展開します。
5. プロンプトメッセージで、[別のユーザーにハンドオフ (この実行を電子メールで送信)] リンクをクリックして、フロー実行を完了する必要があるユーザーに送信する電子メールメッセージを作成します。



- 電子メールメッセージが開きます。この電子メールメッセージには、フロー実行がハンドオフされるユーザーへのメッセージとフロー実行へのリンクが記載されています。このユーザーの電子メールアドレスを入力し、メッセージを送信します。

[実行エクスプローラー]での実行の更新

[リフレッシュ]  ボタンで、実行エクスプローラーに現在表示されている内容を、実行リストかドリルダウンかに関わらず更新します。ドリルダウンについては、「[フロー実行のテストとトラブルシューティング](#)」(167ページ)を参照してください。

- [実行エクスプローラー] ツールバーの [リフレッシュ]  ボタンをクリックします。

注: キーボードのF1を押してもページを更新できますが、ページ全体がロードされます。[リフレッシュ] ボタンをクリックした場合、データ表示だけが更新されるため、はるかに高速です。

参照情報

実行エクスペローラー

実行エクスペローラー スケジューラー

|| ▶ ⏪ ⏩ ⌂ 🔍 ▶ 実行

実行名	実行 ID	ステータス	開始時刻	ユーザー	期間
How do I- Format with HTML	100300138	❌ キャンセル済み	午後4時22分	anonymousUser	19分 24秒
How do I- Format with HTML	100300130	⏸ 一時停止 - 操作が必要	午後4時22分	anonymousUser	20分 16秒
Displayed URL Test	100300001	✅ 完了 - 解決済み	午後1時22分	anonymousUser	1分 50秒

GUI アイテム	説明
[一時停止] ボタン	クリックして選択した実行を一時停止します。実行は再開されるまで停止します。
[再開] ▶▶ ボタン	<p>クリックして選択した実行を再開します。このボタンは、一時停止している実行に対してのみ使用できます。</p> <p>注: ステータスが[一時停止 - 操作が必要]のフローを再割り当てする場合、割り当てられたユーザーは[実行エクスペローラー]の[再開] ▶▶ ボタンでそのフローを再開することはできません。実行までドリルダウンして、そこから再開する必要があります。</p>
[キャンセル] ⊖ ボタン	クリックして選択した実行をキャンセルします。
[リフレッシュ] 🔄 ボタン	クリックして、[実行エクスペローラー]に表示されている実行を更新します。
[再割り当て] 👤 ボタン	<p>クリックしてフローを別のユーザーに割り当てなおします。</p> <p>注: ステータスが[一時停止 - 操作が必要]のフローを再割り当てする場合、割り当てられたユーザーは[実行エクスペローラー]の[再開] ▶▶ ボタンでそのフローを再開することはできません。実行までドリルダウンして、そこから再開する必要があります。</p>
[フィルターのクリア] 🗑 ボタン	クリックしてフィルターをクリアし、すべてのフローを表示します。
[フローの実行] ▶▶ 実行 ボタン	クリックしてフローを実行します。

実行名	実行中のフローの名前を表示します。
------------	-------------------

<p>ステータス</p>	<p>フロー実行の現在のステータスを表示します。オプションには、以下が含まれます。</p> <p> 完了 - 解決済み</p> <p> 完了 - エラー</p> <p> 完了 - 操作なし</p> <p> 完了 - 診断済み</p> <p> 完了できませんでした: 実行管理例外のため</p> <p> キャンセル済み</p> <p> 実行中</p> <p> 一時停止 - ユーザーによる一時停止</p> <p> 一時停止 - 操作が必要: 実行は、操作が完了するまで続行されません。たとえば、不足している情報を入力したり、次のステップを実行するアクセス許可があるユーザーに変更したりします。</p> <p> 一時停止 - グループにワーカーが存在しません: ワーカーにマッピングされていないワーカーグループがあります。実行を再開する前に、ワーカーグループを実際のワーカーにマップしてください。「ワーカーグループエイリアスのセットアップ」(102ページ)を参照してください。</p> <p> 一時停止の保留中: ユーザーが実行の一時停止を求めましたが、実行はまだ一時停止されていません。</p>
--------------	--

	 キャンセルの保留中 :ユーザーが実行のキャンセルを求めましたが、実行はまだキャンセルされていません。
ユーザー	<p>実行の現在の所有者を表示します。これは、実行をトリガーしたユーザー、実行を最後に変更したユーザー、または実行が再割り当てされたユーザーである可能性があります。</p> <p>この最後のユーザーが匿名ユーザーとしてログインしている場合、[ユーザー] 列には anonymousUser と表示されます。</p> <p>フローが Studio Debugger でトリガーされた場合、[ユーザー] 列には studio-debugger と表示されます。</p>
開始時刻	実行が開始された時刻を表示します。
期間	実行が実行されている期間を表示します。この値を更新するには、F5 を押します。
[ドリルダウン] > ボタン	クリックしてドリルダウンし、フロー実行の詳細情報を表示します。

フロー実行の表示の調整

👤 フィルターの調整

[実行エクスプローラー] で、1つのページに最大 200 のフロー実行を表示できます。同時に実行するフローがたくさんある場合、フィルターを使って目的のフローを探すことをお勧めします。

フィルターを使って、名前に特定の言葉を含む実行、特定のステータスの実行、特定のユーザーが開始した実行、指定した時間範囲に開始した実行を表示できます。

複数のフィルターを同時に適用できます。たとえば、名前に "Ping" という語を含む、6月1日に開始された失敗した実行のみを表示するように、[実行エクスプローラー] をフィルタリングすることができます。

フィルターを適用するには、[実行エクスプローラー] ツールバーのフィルターボックスでテキストを選択または入力します。フィルター条件を入力すると、フィルターが適用されます。フィルターを適用するためのボタンをクリックする必要はありません。

API 経由で実行をフィルタリングすることもできます。詳細については、『HP OO API Guide』を参照してください。

列幅と位置の調整

列の幅と位置を調整することもできます。

これらの設定 (列幅、列順、適用するフィルター) への変更は、ブラウザーのローカルキャッシュに保存されます。

注: 列に対して行った変更は、ログインしているユーザーに関わらず、このマシンのすべてのユーザーに影響します。

実行エクスペローラー スケジューラー

|| ▶ ⏪ ⏩ 🔍

▶ 実行

実行名	実行 ID	ステータス	開始時刻	ユーザー	期間
Displayed URL Test	100300001	<input type="checkbox"/> すべて <input checked="" type="checkbox"/> 完了 - 解決済み <input type="checkbox"/> 完了 - エラー <input type="checkbox"/> 完了 - 操作なし <input type="checkbox"/> 完了 - 診断済み <input type="checkbox"/> 完了できません... <input type="checkbox"/> 実行中 <input type="checkbox"/> 一時停止済み <input type="checkbox"/> キャンセル済み	午後1時22分	anonymous...	1分 50秒

実行する操作

実行ステータスに基づくフィルター作成



1. **[実行管理]** ボタンをクリックして、実行管理ワークスペースを表示します。
2. **[実行エクスペローラー]** タブをクリックします。
3. **ステータスリスト** から、フィルターに使用するステータスを選択します。複数のステータスを選択することができます。

[実行エクスペローラー] には、選択したステータスのいずれかを含む実行のみが表示されます。

注: フィルターのステータスを選択すると、このステータスの名前が**ステータスリスト**のタイトルとして表示されます。

ステータス

完了 - 解決済み

開始時刻に基づくフィルター作成

開始時刻	ユーザー	期間																																																																																																										
[2014年6月10日午前9時0分] -> [2014年6月13日午後5時0分] ▼	<input type="text"/>																																																																																																											
<input type="radio"/> 前日 <input type="radio"/> 過去 7 日 <input type="radio"/> 過去 30 日 <input checked="" type="radio"/> カスタム範囲																																																																																																												
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>◀ 6月 2014 ▶</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>日</th><th>月</th><th>火</th><th>水</th><th>木</th><th>金</th><th>土</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td><td>6</td><td>7</td></tr> <tr><td>8</td><td>9</td><td>10</td><td>11</td><td>12</td><td>13</td><td>14</td></tr> <tr><td>15</td><td>16</td><td>17</td><td>18</td><td>19</td><td>20</td><td>21</td></tr> <tr><td>22</td><td>23</td><td>24</td><td>25</td><td>26</td><td>27</td><td>28</td></tr> <tr><td>29</td><td>30</td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td></tr> </tbody> </table> </div> <div style="text-align: center;"> <p>▲</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>09:00</th><th>09:30</th><th>10:00</th><th>10:30</th><th>11:00</th><th>11:30</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>09:00</td><td>09:30</td><td>10:00</td><td>10:30</td><td>11:00</td><td>11:30</td></tr> </tbody> </table> <p>▼</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>◀ 6月 2014 ▶</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>日</th><th>月</th><th>火</th><th>水</th><th>木</th><th>金</th><th>土</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td><td>6</td><td>7</td></tr> <tr><td>8</td><td>9</td><td>10</td><td>11</td><td>12</td><td>13</td><td>14</td></tr> <tr><td>15</td><td>16</td><td>17</td><td>18</td><td>19</td><td>20</td><td>21</td></tr> <tr><td>22</td><td>23</td><td>24</td><td>25</td><td>26</td><td>27</td><td>28</td></tr> <tr><td>29</td><td>30</td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td></tr> </tbody> </table> </div> <div style="text-align: center;"> <p>▲</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>17:00</th><th>18:00</th><th>18:30</th><th>19:00</th><th>19:30</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>17:00</td><td>18:00</td><td>18:30</td><td>19:00</td><td>19:30</td></tr> </tbody> </table> <p>▼</p> </div> </div>			日	月	火	水	木	金	土	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	1	2	3	4	5	09:00	09:30	10:00	10:30	11:00	11:30	09:00	09:30	10:00	10:30	11:00	11:30	日	月	火	水	木	金	土	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	1	2	3	4	5	17:00	18:00	18:30	19:00	19:30	17:00	18:00	18:30	19:00	19:30
日	月	火	水	木	金	土																																																																																																						
1	2	3	4	5	6	7																																																																																																						
8	9	10	11	12	13	14																																																																																																						
15	16	17	18	19	20	21																																																																																																						
22	23	24	25	26	27	28																																																																																																						
29	30	1	2	3	4	5																																																																																																						
09:00	09:30	10:00	10:30	11:00	11:30																																																																																																							
09:00	09:30	10:00	10:30	11:00	11:30																																																																																																							
日	月	火	水	木	金	土																																																																																																						
1	2	3	4	5	6	7																																																																																																						
8	9	10	11	12	13	14																																																																																																						
15	16	17	18	19	20	21																																																																																																						
22	23	24	25	26	27	28																																																																																																						
29	30	1	2	3	4	5																																																																																																						
17:00	18:00	18:30	19:00	19:30																																																																																																								
17:00	18:00	18:30	19:00	19:30																																																																																																								



1. **[実行管理]** ボタンをクリックして、実行管理ワークスペースを表示します。
2. **[実行エクスプローラー]** タブをクリックします。
3. **[実行エクスプローラー]** ツールバーで、**[開始時刻]** の横の矢印 ▼ を選択します。
4. 次のいずれかを選択します。
 - **[前日]** – 過去 24 時間以内に開始された実行のみを表示します。
 - **[過去 7 日]** – 先週開始された実行のみを表示します。
 - **[過去 30 日]** – 過去 30 日に開始された実行のみを表示します。
 - **[カスタム範囲]** を選択して、フィルターする時刻の範囲の開始時刻と終了時刻を選択します。日付と時刻の両方を選択できます。左側のカレンダーで時刻範囲の開始日時を指定し、右側のカレンダーで時刻範囲の終了日時を指定します。

たとえば、2013 年 8 月 20 日月曜日の午前 9 時から 10 時の間に開始された実行のみを表示することができます。

ユーザー名に基づくフィルター作成

フィルターは大文字/小文字を区別しないため、大文字で入力しても小文字で入力しても構いません。



1. [実行管理] ボタンをクリックして、実行管理ワークスペースを表示します。
2. [実行エクスプローラー] タブをクリックします。
3. [ユーザー] テキストボックスに、ユーザー名の一部または全部を入力します。

[実行エクスプローラー]には、指定したユーザーが開始した実行のみが表示されます。たとえば、自分のユーザー名を入力すると、自分が実行したフロー実行のみが表示されます。

実行名に基づくフィルターを作成

フィルターは大文字/小文字を区別しないため、大文字で入力しても小文字で入力しても構いません。



1. [実行管理] ボタンをクリックして、実行管理ワークスペースを表示します。
2. [実行エクスプローラー] タブをクリックします。
3. [実行名] テキストボックスに、実行名の一部または全部を入力します。

[実行エクスプローラー]には、名前がこのテキストを含む実行のみが表示されます。たとえば、“network”と入力すると、“network”という言葉が含まれるフィルターされたフィールドがある行すべてが返されます。

実行 ID に基づくフィルターを作成



1. [実行管理] ボタンをクリックして、実行管理ワークスペースを表示します。
2. [実行エクスプローラー] タブをクリックします。
3. [実行 ID] テキストボックスに、実行 ID の一部または全部を入力します。

[実行エクスプローラー]には、選択した実行 ID の実行のみが表示されます。

フィルターの削除



1. [実行管理] ボタンをクリックして、実行管理ワークスペースを表示します。
2. [実行エクスプローラー] タブをクリックします。
3. 個々のフィルターをクリアするには、該当するフィルターのテキストボックスをクリアします。

- すべてのフィルターをクリアするには、[フィルターのカリア]  ボタンをクリックします。
フィルターの適用が解除されます。

列の位置を変更する

- [実行管理ワークスペース] ボタンをクリックして、実行ワークスペースを表示します。
- [実行エクスプローラー] タブをクリックします。
- [実行エクスプローラー] ツールバーで、列名を左または右にドラッグして、[実行エクスプローラー] での列の位置を調整します。

列の幅を調整する



- [実行管理]  ボタンをクリックして、実行管理ワークスペースを表示します。
- [実行エクスプローラー] タブをクリックします。
- [実行エクスプローラー] ツールバーで、列名の端をドラッグして、幅を調整します。

参照情報

[実行エクスプローラー] ツールバー - フィルターのオプション

実行エクスプローラー スケジューラー

|| ▶ ⏪ ⏩ 🔍

 実行

実行名	実行ID	ステータス	開始時刻	ユーザー	期間
Displayed URL Test	100300001	<input type="checkbox"/> すべて <input checked="" type="checkbox"/> 完了 - 解決済み <input type="checkbox"/> 完了 - エラー <input type="checkbox"/> 完了 - 操作なし <input checked="" type="checkbox"/> 完了 - 診断済み <input type="checkbox"/> 完了できません... <input type="checkbox"/> 実行中 <input type="checkbox"/> 一時停止済み <input type="checkbox"/> キャンセル済み	午後1時22分	anonymous...	1分 50秒

開始時刻	ユーザー	期間																																																																																																
[2014年6月10日午前9時0分] -> [2014年6月13日午後5時0分] ▼	<input type="text"/>																																																																																																	
<input type="radio"/> 前日 <input type="radio"/> 過去 7 日 <input type="radio"/> 過去 30 日 <input checked="" type="radio"/> カスタム範囲																																																																																																		
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>◀ 6月 2014 ▶</p> <table border="1"> <tr><th>日</th><th>月</th><th>火</th><th>水</th><th>木</th><th>金</th><th>土</th></tr> <tr><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td><td>6</td><td>7</td></tr> <tr><td>8</td><td>9</td><td>10</td><td>11</td><td>12</td><td>13</td><td>14</td></tr> <tr><td>15</td><td>16</td><td>17</td><td>18</td><td>19</td><td>20</td><td>21</td></tr> <tr><td>22</td><td>23</td><td>24</td><td>25</td><td>26</td><td>27</td><td>28</td></tr> <tr><td>29</td><td>30</td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td></tr> </table> </div> <div style="text-align: center;"> <p>▲ 09:00 ▼</p> <table border="1"> <tr><td>09:00</td></tr> <tr><td>09:30</td></tr> <tr><td>10:00</td></tr> <tr><td>10:30</td></tr> <tr><td>11:00</td></tr> <tr><td>11:30</td></tr> </table> </div> <div style="text-align: center;"> <p>◀ 6月 2014 ▶</p> <table border="1"> <tr><th>日</th><th>月</th><th>火</th><th>水</th><th>木</th><th>金</th><th>土</th></tr> <tr><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td><td>6</td><td>7</td></tr> <tr><td>8</td><td>9</td><td>10</td><td>11</td><td>12</td><td>13</td><td>14</td></tr> <tr><td>15</td><td>16</td><td>17</td><td>18</td><td>19</td><td>20</td><td>21</td></tr> <tr><td>22</td><td>23</td><td>24</td><td>25</td><td>26</td><td>27</td><td>28</td></tr> <tr><td>29</td><td>30</td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td></tr> </table> </div> <div style="text-align: center;"> <p>▲ 17:00 ▼</p> <table border="1"> <tr><td>17:00</td></tr> <tr><td>17:30</td></tr> <tr><td>18:00</td></tr> <tr><td>18:30</td></tr> <tr><td>19:00</td></tr> <tr><td>19:30</td></tr> </table> </div> </div>			日	月	火	水	木	金	土	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	1	2	3	4	5	09:00	09:30	10:00	10:30	11:00	11:30	日	月	火	水	木	金	土	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	1	2	3	4	5	17:00	17:30	18:00	18:30	19:00	19:30
日	月	火	水	木	金	土																																																																																												
1	2	3	4	5	6	7																																																																																												
8	9	10	11	12	13	14																																																																																												
15	16	17	18	19	20	21																																																																																												
22	23	24	25	26	27	28																																																																																												
29	30	1	2	3	4	5																																																																																												
09:00																																																																																																		
09:30																																																																																																		
10:00																																																																																																		
10:30																																																																																																		
11:00																																																																																																		
11:30																																																																																																		
日	月	火	水	木	金	土																																																																																												
1	2	3	4	5	6	7																																																																																												
8	9	10	11	12	13	14																																																																																												
15	16	17	18	19	20	21																																																																																												
22	23	24	25	26	27	28																																																																																												
29	30	1	2	3	4	5																																																																																												
17:00																																																																																																		
17:30																																																																																																		
18:00																																																																																																		
18:30																																																																																																		
19:00																																																																																																		
19:30																																																																																																		

GUI アイテム	説明
フィルター条件: ステータス	ステータスリストから、フィルターに使用する1つまたは複数のステータスを選択します。
フィルター条件: ユーザー	ユーザー名の一部または全部を入力します。
フィルター条件: 開始時刻	<p>[開始時刻]の横にある矢印 ▼ を選択して、実行が開始された日時を基にフィルターします。</p> <p>次のいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [前日] – 過去 24 時間以内に開始された実行のみを表示します。 • [過去 7 日] – 先週開始された実行のみを表示します。 • [過去 30 日] – 過去 30 日に開始された実行のみを表示します。 • [カスタム範囲] を選択して、フィルターする時刻の範囲の開始時刻と終了時刻を選択します。日付と時刻の両方を選択できます。左側のカレンダーで時刻範囲の開始日時を指定し、右側のカレンダーで時刻範囲の終了日時を指定します。 <p>たとえば、2013 年 8 月 20 日月曜日の午前 9 時から 10 時の間に開始された実行のみを表示することができます。</p>
フィルター条件: 実行名	実行名の一部または全部を入力します。
フィルター条件: 実行 ID	実行 ID の一部または全部を入力します。

[フィルターのクリア] ボタン	クリックしてフィルターをクリアし、すべてのフローを表示します。
------------------------	---------------------------------

フロー実行のテストとトラブルシューティング

 フロー実行をトリガーしたら、実行をドリルダウンして、進捗状況を詳細に調べることができます。これは、フロー実行が失敗した場合に特に役に立ちます。

実行エクスプローラーの行の末尾にある [ドリルダウン]  ボタンをクリックすると、選択した実行の詳細情報が表示されます。

注: 代わりに行をダブルクリックしてドリルダウンし、この情報を表示することもできます。

[実行ツリー] には左から実行ステップとトランジションメッセージが表示されます。[実行ツリー] には、現在実行中のステップが強調表示され、実行の進捗状況に関する情報が表示されます。フローが失敗した場合、失敗が発生したステップが表示されます。ステップとトランジションメッセージは、実行の進行につれて自動的に更新されます。フローを実行中にステップをクリックすると、自動更新が一時停止します。再開するには、[リフレッシュの再開]  ボタンをクリックする必要があります。



The screenshot shows the '実行エクスプローラー' (Execution Explorer) and 'スケジューラー' (Scheduler) tabs. The main area displays a flow titled 'How do I - Create a parallel flow'. A dropdown menu is open, showing 'フローグラフ' (Flow Graph) and 'ステップの詳細' (Step Details). The 'ステップの詳細' tab is selected, showing details for 'Lane [1]':

ステップ ID:	6be9f75c-96fb-4aff-8ab4-bb5d23271e41
開始時刻:	午後4時57分
終了時刻:	午後4時57分
レスポンス:	N/A
期間:	0.089 秒
プライマリ結果:	N/A
結果:	

さまざまな種類の情報を表示できる、折りたたみ可能な次のような複数のビューがあります。

- **フローに関する情報**—UUID、フロー名、パス、説明、フロー入力、フロー出力など。

[実行エクスプローラー] のドリルダウンビューツールバーの [下] 矢印  をクリックします。

- **フローの中で選択したステップに関する情報**—開始時間、終了時間、ステップ結果、期間、入力、結果、ワーカーグループ、ステップを実行したワーカーの ID など。[ステップの詳細] タブをクリックします。



The image shows two tabs: 'フローグラフ' (Flow Graph) and 'ステップの詳細' (Step Details). The 'ステップの詳細' tab is highlighted with a red box, indicating it is the selected view.

[ステップの詳細] タブに、現在実行中のステップに関する詳細が表示されます。実行エクスプローラーでステップを選択すると、[ステップの詳細] タブに選択したステップに関する詳細が表示されます。

注: [フロー情報] ペインの左端のスライダーをドラッグすると、ペインの幅を調整できます。

- **フローのグラフィカルビュー。** 現在実行中のステップが強調表示されます。[フローグラフ] タブをクリックします。



[フローグラフ] には現在実行中のフローが強調表示されます。[実行ツリー] でステップを選択すると、[フローグラフ] に選択したステップが強調表示されます。

注: フローグラフの表示方法を、画面をドラッグして非表示のアイテムを表示したり、ズームボタンを使用して画像のサイズを調整することで調節できます。

- **実行ログ**—実行全体の情報を示す表 (ステップ、開始時間、期間、入力、結果など)。特定のステップを検索することができます。

[実行ログ]  ボタンをクリックして、[実行ログ] ペインを表示します。

注: 実行にサブフローが含まれている場合、サブフローのステップは実行ログにインデントされて表示されます。

[ツリー]  ボタンをクリックして、[実行ログ] ペインを折りたたみ、[実行ツリー] を表示します。

注: 次のように実行にドリルダウンの詳細がない場合もあります。

- 実行がバージョン 9.x からのコンテンツのアップグレードによって行われる場合。
- 実行の詳細がシステムでクリアされた場合。

実行する操作

フロー実行のステップに関する詳細の表示

1. [実行管理]



ボタンをクリックして、実行管理ワークスペースを表示します。

2. [実行エクスプローラー] タブをクリックします。
3. 詳細を確認するフロー実行を選択します。
4. 行の末尾にある [ドリルダウン]  ボタンをクリックして、選択した実行のドリルダウン情報を表示します。

[実行ツリー] には左から実行ステップとトランジションメッセージが表示されます。[実行ツリー] には、現在実行中のステップが強調表示され、実行の進捗状況に関する情報が表示されます。フローが失敗した場合、失敗が発生したステップが表示されます。

注: ステップとトランジションメッセージは、実行の進行につれて自動的に更新されます。フローを実行中にステップをクリックすると、自動更新が一時停止します。再開するには、[リフレッシュの再開]  ボタンをクリックする必要があります。

5. [実行ツリー] のステップをクリックすると、右側の [実行情報] ペインのステップに関する情報が表示されます。

[実行情報] ペインで、[ステップの詳細] タブをクリックして、現在実行中のステップに関する情報 (開始時間、期間、入力、結果、説明、ワーカーグループ、ステップを実行したワーカーの ID など) を表示します。

実行エクスプローラーでステップを選択すると、[ステップの詳細] タブに選択したステップに関する詳細が表示されます。

実行エクスプローラー
スケジューラー

実行

Displayed URL Test

完了 - 解決済み

ステップ名
トランジションメッセージ

<input type="checkbox"/> Iterate over URL List	リストにはさらに要素が存在し...
<input checked="" type="checkbox"/> Accessible?	success
<input checked="" type="checkbox"/> Passed	success
<input checked="" type="checkbox"/> Iterate over URL List	no more
<input checked="" type="checkbox"/> Check if any URLs Failed	すべての Web ページにアクセ...
Resolved : success	

フローグラフ
ステップの詳細

Accessible?

ステップ ID: 45fc5fc2-43ee-4e5f-a8a0-a8717055c22b

開始時刻: 午後2時8分

終了時刻: 午後2時9分

レスポンス: 解決済み: success

期間: 1.484 秒

入力:

url	http://www.hp.com
username	
password	*****

注: このセクションに表示されるフィールドは、そのステップに入力、結果などが含まれているかどうかによって、ステップごとに異なります。

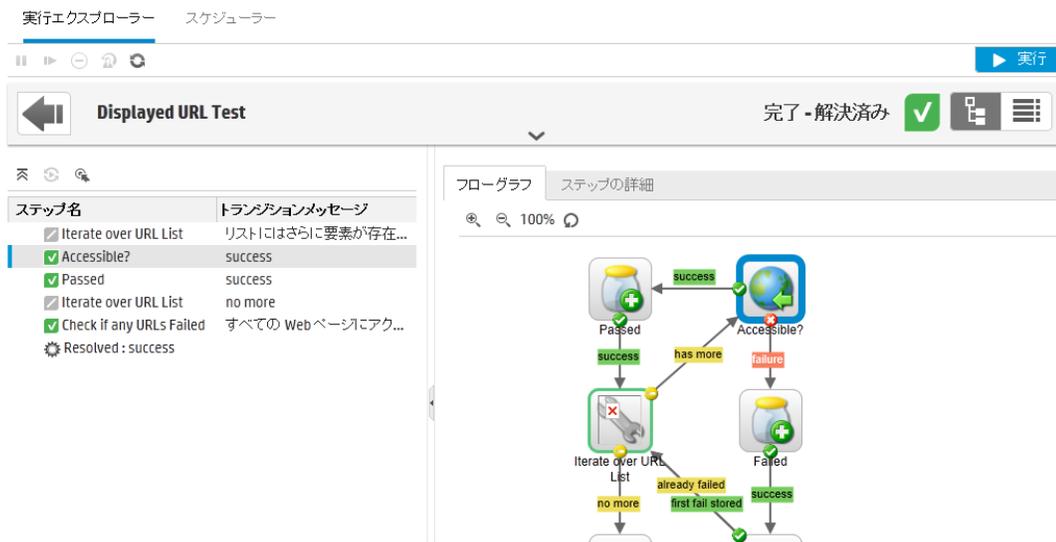
6. [戻る]  ボタンをクリックして、メインの [実行 エクスプローラー] ウィンドウに戻ります。

フロー実行のグラフの表示

フロー実行のグラフを表示し、現在実行している (または選択している) ステップの位置を強調表示できます。

1. [実行管理ワークスペース]  ボタンをクリックして、実行管理を表示し、[実行 エクスプローラー] タブをクリックします。
2. 詳細を確認したいフロー実行を選択し、行の末尾にある [ドリルダウン]  ボタンをクリックします。
3. 左側の [実行 ツリー] のステップをクリックします。
4. 右側の [実行情報] ペインで、[フローグラフ] ペインをクリックしてフローのグラフを表示します。現在実行中のステップが強調表示されます。

[実行 ツリー] でステップを選択すると、[フローグラフ] に選択したステップが強調表示されます。



The screenshot displays the '実行 エクスプローラー' (Execution Explorer) window. At the top, it shows '実行 エクスプローラー' and 'スケジューラー' tabs. Below the tabs, there are control buttons for play, pause, stop, and refresh, along with an '実行' (Execute) button. The main area is titled 'Displayed URL Test' and shows a status of '完了 - 解決済み' (Completed - Resolved) with a green checkmark. On the left, the '実行 ツリー' (Execution Tree) lists steps with their status: 'Iterate over URL List' (no more), 'Accessible?' (success), 'Passed' (success), 'Iterate over URL List' (no more), 'Check if any URLs Failed' (success), and 'Resolved: success'. On the right, the 'フローグラフ' (Flow Graph) shows a flow with nodes like 'Passed', 'Accessible?', and 'Iterate over URL List', with transitions labeled 'success', 'failure', 'has more', 'no more', and 'first fail stored'.

5. フローグラフが表示される方法を次のようにして調整できます。
 - 画面のフローグラフをドラッグして、表示されていない要素を表示します。

- ズームボタンをクリックすると、フローグラフのサイズを調整できます。
- [リセット]  ボタンをクリックすると、表示がデフォルトのサイズと位置にリセットされます。

実行全体の詳細を示す実行ログの表示

実行ログは、実行全体の情報を記載した表 (ステップ、開始時間、期間、入力、結果など) です。この情報は、トラブルシューティング時に実行に関する問題を特定する場合に役立ちます。

実行ログには、パフォーマンス要件に合わせ 1 ページに最大 500 の実行が表示されます。500 ステップを超える実行は複数のページにまたがって表示されます。ページ移動機能を使用して、ページ間を移動できます。



1. **[実行管理]** ボタンをクリックして、実行管理ワークスペースを表示し、**[実行エクスプローラー]** タブをクリックします。
2. 確認したいフロー実行を選択し、行の末尾にある **[ドリルダウン]**  ボタンをクリックします。
3. **[実行ログ]**  ボタンをクリックして、**[実行ログ]** ペインを表示します。実行全体の詳細が表示されます。

実行エクスプローラー スケジューラー

検索 🔍 | 実行 ▶

← Displayed URL Test 完了・解決済み ✓

ステップ番号	名前	開始時刻	期間	入力	未加工結果	トランザクション	ROI	現在のフロー	ユーザー	ワーカ...
1	Iterate o...	午後2時...	0.045 秒	(listname=URL_LIST), (s...	(response=success), (Fai...	リストにはさ...	0	Displayed...	anonym...	cc7fc30...
2	Accessib...	午後2時...	1.484 秒	(url=http://www.hp.co...	(errorMessage=), (retur...	success	0	Displayed...	anonym...	cc7fc30...
3	Passed	午後2時...	0.031 秒	(keyName=Email), (resu...	(FailureMessage=), (res...	success	0	Displayed...	anonym...	cc7fc30...
4	Iterate o...	午後2時...	0.047 秒	(listname=URL_LIST), (s...	(FailureMessage=), (res...	no more	0	Displayed...	anonym...	cc7fc30...
5	Check if...	午後2時...	0.032 秒	(Field_2=\${memory}), (...	(response=success), (Fai...	すべての We...	0	Displayed...	anonym...	cc7fc30...
6	Resolve...	午後2時...	6.146 秒		(returnResult=LocalFail...			Displayed...	anonym...	

注: 実行にサブフローが含まれている場合、該当ステップはインデントされます。

4. 500 ステップを超える実行は複数のページにまたがって表示されます。次の方法でページ間を移動します。
 - 矢印ボタンをクリックする
 - 特定のページ番号を入力する

1-6 / 6 アイテム   ページ 1

5. **[実行ツリー]**  ボタンをクリックして、**[実行ログ]** ペインを折りたたみ、**[実行ツリー]** を表示します。

実行ログのステップの検索

長い実行では、特定のステップが見つげにくいことがあります。**[検索]** ボタンを使用して、表示するステップを検索できます。

注: 実行ログでの検索がサポートされるのは、検索対象フィールドの占有ストレージ領域が 4,000 バイト以内の場合に限られます。日本語と中国語は 1 文字あたり 3 バイトを占有することに注意してください。他の(英語以外の)言語は 1 文字あたり約 1.5 バイトです。また、トランジションの説明では、その説明が利用可能なすべてのロケールで 4,000 バイトが共有されます。

1. **[実行管理]**  ボタンをクリックして、実行管理ワークスペースを表示し、**[実行エクスプローラー]** タブをクリックします。
2. 確認したいフロー実行を選択し、行の末尾にある **[ドリルダウン]**  ボタンをクリックします。
3. **[実行ログ]**  ボタンをクリックして、**[実行ログ]** ペインを表示します。
4. **[検索]** ボタンをクリックして、**[検索]** ダイアログボックスを開きます。

🔍 検索
◀ ▶
🔄 CSV

ステップ番号:	<input type="text"/>	種類:	<input type="text" value="▼"/>
名前:	<input type="text"/>	入力:	<input type="text"/>
未加工結果:	<input type="text"/>	レスポンス:	<input type="text" value="▼"/>
トランジション:	<input type="text"/>	ROI:	<input type="text"/>
現在のフロー:	<input type="text"/>	ユーザー:	<input type="text"/>
ワーカー ID:	<input type="text"/>		

✕ クリア
◀ 前へ 次へ ▶

5. 検索条件を入力して**[次へ]**をクリックすると、検索条件に対応する各ステップが強調表示され

ます。

注: これはフィルターではありません。検索条件に対応するステップが強調表示されますが、すべてのステップが表示されるわけではないため、強調表示されたステップのコンテキストを表示できません。

- 必要に応じて、[検索] ダイアログボックスを閉じ、ツールバーの[次へ] および[前へ] ◀ ▶ 矢印を使用して検索結果間を移動できます。

実行ツリーのステップから実行ログへの移動

[実行ツリー] でステップを選択している間に、[実行ログ] の同じステップにジャンプして、そのステップの詳細情報を表示することができます。



- [実行管理] ボタンをクリックして、実行管理ワークスペースを表示し、[実行エクスプローラー] タブをクリックします。
- 確認したいフロー実行を選択し、行の末尾にある[ドリルダウン] ▶ ボタンをクリックします。
- 左側の[実行ツリー] のステップをクリックします。
- [実行ログビューに移動] 🔍 ボタンをクリックします。

[実行ログ] が表示され、選択したステップが強調表示されます。

[実行ツリー] の折りたたみ

[実行ツリー] が展開されている場合、展開されているステップを折りたたむことができます。



- [実行管理] ボタンをクリックして、実行管理ワークスペースを表示し、[実行エクスプローラー] タブをクリックします。
- 確認したいフロー実行を選択し、行の末尾にある[ドリルダウン] ▶ ボタンをクリックします。
- [実行ツリー] のステップをクリックしてステップを展開し、サブフローとレーンを表示します。
- [すべて折りたたみ] ☰ ボタンをクリックして、[実行ツリー] を折りたたみ、ステップの最上位レベルのみ表示します。

[実行情報] ペインの幅の調整

[実行情報] ペインの端のスライダーを使用してサイズを調整できます。



1. **[実行管理]** ボタンをクリックして、実行管理ワークスペースを表示し、**[実行エクスプローラー]** タブをクリックします。
2. 確認したいフロー実行を選択し、行の末尾にある **[ドリルダウン]** ボタンをクリックします。
3. スライダーの端をドラッグして、**[実行情報]** ペインの幅を調整します。
4. スライダーの開く閉じるボタンを使って、ペインの展開と折りたたみを切り替えます。

フローに関する詳細の表示

フロー UUID、フロー名、パス、説明、フロー入力、フロー出力などの、元のフローに関する詳細を、フロー実行をドリルダウンしている時に表示できます。



1. **[実行管理]** ボタンをクリックして、実行管理ワークスペースを表示し、**[実行エクスプローラー]** タブをクリックします。
2. 確認したいフロー実行を選択し、行の末尾にある **[ドリルダウン]** ボタンをクリックします。
3. フロー実行名の右の **[下]** 矢印 をクリックして、**[フロー情報]** ペインを展開します。

実行エクスプローラー スケジューラー

完了 - 解決済み ✓

Displayed URL Test

開始時刻: 午後2時8分
 期間: 27.282 秒
 ユーザー: N/A
 実行 ID: 100300038

フローの UUID:
 7bf47261-c53a-40ce-99c7-f6909ab2833b

フロー名:
 Displayed URL Test

パス:
 Library/Accelerator
 Packs/Network/Deprecated/Displayed URL
 Test.xml

説明:

フロー入力:

List:
 separator:
 username:
 password:
 subject:
 keyName:

フロー出力:
 Result:

4. ペインのすべてのテキストを表示できない場合、スライダーを使用して、ペインの下部のテキストを表示します。
5. **[上]** 矢印 をクリックして、**[フロー情報]** ペインを折りたたみます。

実行ログを CSV ファイルとしてエクスポート

フロー実行で発生したすべてのステップのログをリストしている実行ログを CSV ファイルにエクスポートできます。これは、問題の原因を特定するために役立ちます。フローの修正が必要な場合、このファイルをフロー作成者に送信すると便利です。



1. **[実行管理]** ボタンをクリックして、実行管理ワークスペースを表示し、**[実行エクスプローラー]** タブをクリックします。

2. 確認したいフロー実行を選択し、行の末尾にある**[ドリルダウン]** ボタンをクリックします。

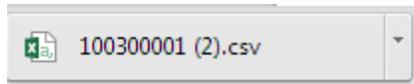


3. **[実行ログ]** ボタンをクリックして、**[実行ログ]** ペインを表示します。

4. **[すべて CSV にエクスポート]** ボタンをクリックします。

CSV ファイルの名前のボタンが、HP OO ウィンドウの一番下に表示されます。このボタンをクリック

すると CSV ファイルが Excel で開きます。

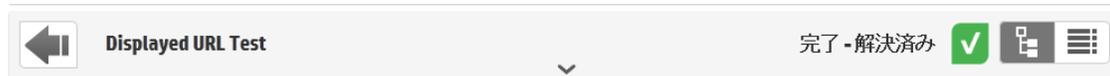


5. フローの変更を依頼する際に、フロー作成者にこの CSV ファイルを送信できます。

参照情報

[実行エクスプローラー]ドリルダウン表示ツールバー

ドリルダウンしてフロー実行の詳細を表示すると、一番上にあるツールバーは変わりませんが、その下に表示される詳細は選択内容に応じて変わります。



GUI アイテム	説明
[戻る] ボタン	 [戻る] ボタンをクリックして、メインの [実行エクスプローラー] ウィンドウに戻ります。
実行名	フロー実行の名前を表示します。
[下] 矢印	クリックして [フロー情報] ペインを表示します。
ステータス	フロー実行のステータスを表示します。

[実行ログ] ボタン 	クリックして、[実行ログ] ペインを表示します。
--	--------------------------

実行ツリー

フロー実行の詳細をドリルダウンして表示すると、[実行ツリー] が左側に表示されます。[実行ツリー] にはフロー実行のすべてのステップとトランジションメッセージが表示されます。

☰
🔄
🔍

ステップ名	トランジションメッセージ
▼ <input checked="" type="checkbox"/> Base URL Timed Get	Web ページがタイムアウトのミ...
<input checked="" type="checkbox"/> Get Current Date and T...	success
<input checked="" type="checkbox"/> Get Page	success
<input checked="" type="checkbox"/> Get Current Date and T...	success
<input checked="" type="checkbox"/> Date and Time Compar...	after
<input checked="" type="checkbox"/> Evaluate Expression	success
<input checked="" type="checkbox"/> Resolved : success	
▼ <input checked="" type="checkbox"/> Link Checker	
<input checked="" type="checkbox"/> Set to "NO"	success

GUI アイテム	説明
ステップ名	フロー実行の各ステップの名前を表示します。各ステップの横に、ステップのステータスを示すアイコンが表示されます。 ステップをクリックして、右側の [フロー情報] ペインに詳細を表示します。
トランジションメッセージ	ステップのトランジションメッセージを表示します (存在する場合)。
[リフレッシュの再開] ボタン	フローを実行中にステップをクリックすると、自動更新が一時停止します。再開するには、[リフレッシュの再開] ボタンをクリックする必要があります。
[実行ログビューに移動] ボタン	[実行ツリー] でステップを選択している間に、[実行ログ] の同じステップにジャンプします。
[すべて折りたたみ] ボタン	[実行ツリー] を折りたたみ、ステップの最上位レベルのみ表示します。

[実行情報] > [ステップの詳細] タブ

クリックして [ステップの詳細] タブに現在実行中のステップに関する詳細を表示します。実行エクスプローラーでステップを選択すると、[ステップの詳細] タブに選択したステップに関する詳細が表示されます。

[ステップの詳細] タブに表示されるフィールドは、さまざまなステップの種類によって異なります。



GUI アイテム	説明
ステップ ID	選択したステップの UUID を表示します。
開始時刻	選択したステップが開始された時刻を表示します。
終了時刻	選択したステップが終了した時刻を表示します。
ステップレスポンス	選択したレスポンスの説明を表示します (存在する場合)。
期間	選択したステップの期間を表示します。
入力	選択したステップの入力を表示します (存在する場合)。
プライマリ結果	選択したステップのプライマリ結果を表示します (存在する場合)。
結果	選択したステップの結果を表示します (存在する場合)。
説明	選択したステップの説明を表示します (存在する場合)。
ワーカーグループ	選択したステップのワーカーグループを表示します (存在する場合)。
ワーカー ID	選択したステップを実行したワーカーの UUID を表示します (存在する場合)。
トランジションメッセージ	選択したステップのトランジション中に表示されるメッセージを表示します (存在する場合)。

[実行情報] > [フローグラフ] タブ

[フローグラフ] タブをクリックして、フローのグラフを表示します。現在実行中のステップが強調表示され

まず、[実行ツリー] でステップを選択すると、[フローグラフ] に選択したステップが強調表示されます。

実行エクスペローラー スケジューラー

完了 - 解決済み

Displayed URL Test

ステップ名	トランジションメッセージ
<input checked="" type="checkbox"/> Iterate over URL List	リストにはさらに要素が存在...
<input checked="" type="checkbox"/> Accessible?	success
<input checked="" type="checkbox"/> Passed	success
<input checked="" type="checkbox"/> Iterate over URL List	no more
<input checked="" type="checkbox"/> Check if any URLs Failed	すべての Web ページにアク...
<input checked="" type="checkbox"/> Resolved : success	

フローグラフ ステップの詳細

GUI アイテム	説明
[拡大] ボタン 	クリックしてフローグラフの表示を拡大します。
[縮小] ボタン 	クリックしてフローグラフの表示を縮小します。
[リセット] ボタン 	クリックして、表示をデフォルトのサイズと位置にリセットします。

実行ログ

[実行ログ] ボタンをクリックして、[実行ログ] ペインを表示します。実行全体の詳細が表示されます。

実行エクスペローラー スケジューラー

完了 - 解決済み

Displayed URL Test

ステップ番号	名前	開始時刻	期間	入力	未加工結果	トランジション	ROI	現在のフロー	ユーザー	ワーカ...
1	Iterate o...	午後2時...	0.045 秒	(listname=URL_LIST), (s...	(response=success), (Fai...	<input checked="" type="checkbox"/> リストにはさ...	0	Displayed...	anonym...	cc7fc30...
2	Accessib...	午後2時...	1.484 秒	(url=http://www.hp.co...	(errorMessage=), (retur...	<input checked="" type="checkbox"/> success	0	Displayed...	anonym...	cc7fc30...
3	Passed	午後2時...	0.031 秒	(keyName=Email), (resu...	(FailureMessage=), (res...	<input checked="" type="checkbox"/> success	0	Displayed...	anonym...	cc7fc30...
4	Iterate o...	午後2時...	0.047 秒	(listname=URL_LIST), (s...	(FailureMessage=), (res...	<input checked="" type="checkbox"/> no more	0	Displayed...	anonym...	cc7fc30...
5	Check if...	午後2時...	0.032 秒	(Field_2=\${memory}), (...	(response=success), (Fai...	<input checked="" type="checkbox"/> すべての We...	0	Displayed...	anonym...	cc7fc30...
6	Resolve...	午後2時...	6.146 秒		(returnResult=LocalFail...			Displayed...	anonym...	

GUI アイテム	説明
検索	クリックして [検索] ダイアログボックスを開き、ステップを検索します。
	検索実行後、[検索] ダイアログボックスを閉じ、ツールバーの矢印を使用して検索結果間を移動できます。
[すべて CSV にエクスポート]  ボタン	クリックして、フロー実行で発生したすべてのイベントをリストしている実行ログを CSV ファイルにエクスポートします。
ステップ番号	各フローのステップ番号を表示します。
アイコン	ステップの種類を表示します。アイコンはオペレーション、サブフロー、リターンステップなどを表します。
名前	ステップ名を表示します。ステップがサブフローの一部の場合、ステップ名がインデント表示されます。
開始時刻	各ステップが開始された時刻を表示します。
期間	各ステップの期間を表示します。
入力	各ステップの入力を表示します (存在する場合)。
未加工結果	各ステップの結果を表示します。
レスポンス	アイコンで各ステップのレスポンスが表示されます。解決済み、エラー、診断済み、操作なしのいずれかです。
トランジション	送信トランジションの説明、または説明がない場合は名前を表示します。
ROI	送信トランジションの ROI を表示します。
現在のフロー	ステップを含むフローの名前を表示します。サブフローがある場合、これにはステップを含むサブフローの名前も表示されます。
ユーザー	ステップが実行された時の実行者を表示します。
ワーカー	実行されたステップのワーカー UUID を表示します。
実行ツリー 	クリックして [実行ログ] ペインを折りたたみ、[実行ツリー] を表示します。

[実行ログ] > [検索] ダイアログボックス

[実行ログ] の [検索] ボタンを使用して、表示するステップを検索できます。1 つまたは複数の検索条件を入力します。検索条件を満たすステップが強調表示されます。

🔍 検索 ◀ ▶ 🔄 CSV

ステップ番号:	<input type="text"/>	種類:	<input type="text" value="▼"/>
名前:	<input type="text"/>	入力:	<input type="text"/>
未加工結果:	<input type="text"/>	レスポンス:	<input type="text" value="▼"/>
トランジション:	<input type="text"/>	ROI:	<input type="text"/>
現在のフロー:	<input type="text"/>	ユーザー:	<input type="text"/>
ワーカー ID:	<input type="text"/>		

✕ クリア ◀ 前へ 次へ ▶

GUI アイテム	説明
クリア	クリックして検索条件ボックスをクリアします。
次のページ	クリックして検索条件を満たす次のステップを強調表示します。
前のページ	クリックして検索条件を満たす前のステップを強調表示します。
◀ ▶	[検索] ダイアログボックスを閉じ、ツールバーの矢印を使用して検索結果間を移動できます。

フロー情報

フロー実行名の右の[下]矢印  をクリックして、[フロー情報] ペインを展開します。

実行エクスペローラー スケジューラー

⏸ ⏹ ⏪ ⏩ ⏲ ⏳ ▶ 実行

Displayed URL Test 完了 - 解決済み ✔ 📄 ☰

開始時刻: 午後2時8分 ユーザー: N/A
 期間: 27.282 秒 実行 ID: 100300038

<p>フローの UUID: 7bf47261-c53a-40ce-99c7-f6909ab2833b</p> <p>フロー名: Displayed URL Test</p> <p>パス: Library/Accelerator Packs/Network/Deprecated/Displayed URL Test.xml</p> <p>説明:</p>	<p>フロー入力:</p> <p>List <input type="text" value="http://www.hp.com"/></p> <p>separator <input type="text" value=","/></p> <p>username <input type="text"/></p> <p>password <input type="text" value="*****"/></p> <p>subject <input type="text" value="Operations Orchestration URL Test Res"/></p> <p>keyName <input type="text" value="Email"/></p> <p>フロー出力:</p> <p>Result <input type="text"/></p>
--	---

GUI アイテム	説明
フローの UUID	フローの UUID (一意の識別子) を表示します。
フロー名	フローの名前を表示します。
パス	フローがある場所へのパスを表示します。
説明	フローの説明を表示します (存在する場合)。 ペインのすべてのテキストを表示できない場合、スライダーを使用して、ペインの下部のテキストを表示します。
フロー入力	フロー入力を表示します。
フロー出力	フロー出力を表示します。
上矢印 	クリックして [フロー情報] ペインを折りたたみます。

一般的なエラー

重複するキーをオブジェクト 'dbo.OO_CONTENT_CONFIG_ITEM' に挿入します。重複するキーの値は ('<構成アイテム>, <CONFIGURATION_ITEM_TYPE>) です。

例: "insert duplicate key in object 'dbo.OO_CONTENT_CONFIG_ITEM'. The duplicate key value is (Remote Command Execution - Protocols, SELECTION_LIST)"

このエラーメッセージは、コンテンツパックに同一の UUID を持つ構成が重複して存在する場合に表示されます。このエラーは、コンテンツを 9.x から 10.x (10.02 以前) にアップグレードした後に発生することがあります。

解決策:

重複している各アイテムのどちらかを削除します。

ファイル <cp jar 名> を読み取れませんでした。ファイルが破損している可能性があります。

このエラーメッセージは、HP OO がコンテンツパックを読み取れない場合に表示されます。

解決策:

ファイルが別のマシンからコピーされた場合、再度コピーを試みてください。

それ以外の場合、Studio に移動し、[コンテンツパックの作成] を選択して、コンテンツパックを再デプロイします。

ファイル <cp jar 名> を読み取れませんでした。ファイルが空です。

このエラーメッセージは、コンテンツパックファイルが空の場合に表示されます。

解決策:

ファイルが別のマシンからコピーされた場合、再度コピーを試みてください。

それ以外の場合、Studio に移動し、[コンテンツパックの作成] を選択して、コンテンツパックを再デプロイします。

ファイル形式が正しくありません。<cp jar 名> には、Lib および Content ルートフォルダーを含める必要があります。

このエラーメッセージは、コンテンツパックに必要な Lib および Content フォルダーがない場合に表示されます。

解決策:

ファイルが別のマシンからコピーされた場合、再度コピーを試みてください。

それ以外の場合、Studio に移動し、[コンテンツパックの作成] を選択して、コンテンツパックを再デプロイします。

注: コンテンツパックのコンテンツを手動で編集しないでください。

ファイル形式が正しくありません。 <cp jar 名> に contentpack.properties ファイルがありません。

このエラーメッセージは、コンテンツパックに必要なファイルがない場合に表示されます。

解決策:

ファイルが別のマシンからコピーされた場合、再度コピーを試みてください。

それ以外の場合、Studio に移動し、[コンテンツパックの作成] を選択して、コンテンツパックを再デプロイします。

注: コンテンツパックのコンテンツを手動で編集しないでください。

UUID <uuid> の <フローまたはオペレーション/構成アイテムの種類> がありません。これは <フロー/オペレーション>: <フローパス/オペレーション uuid> で必要になります。

このエラーメッセージは、フロー、オペレーション、または構成アイテムがない場合に表示されます。

解決策:

1. Studio に移動し、HP コンテンツパックまたはリポジトリ内のほかのプロジェクトで指定された UUID を持つフロー、オペレーション、または構成アイテムを検索します。
2. 見つかったフロー、オペレーション、または構成アイテムを含むコンテンツパックを使用して、デプロイメントユニットを再デプロイします。

UUID <uuid> の <フローまたはオペレーション/構成アイテムの種類> がありません。これは <フロー/オペレーション>: <フローパス/オペレーション uuid> およびその他 <依存関係の数> 件で必要になります。依存している項目の完全なリストについては、サーバーログを参照してください。

このエラーメッセージは、ほかのフローまたはオペレーションが依存しているエンティティ (フロー、オペレーション、または構成アイテム) がない場合に表示されます。

解決策:

1. サーバーログで、この不足しているエンティティに依存しているすべてのフローとオペレーションを確認してください。
2. Studio に移動し、HP コンテンツパックまたはリポジトリ内のほかのプロジェクトで指定された UUID を持つフロー、オペレーション、または構成アイテムを検索します。
3. 見つかったフロー、オペレーション、または構成アイテムを含むコンテンツパックを使用して、デプロイメントユニットを再デプロイします。

デプロイメント中に例外が発生しました。詳細についてはサーバーログを確認してください。

このエラーメッセージは、多くの異なる状況で表示される可能性があり、デプロイメント中に例外を発生させます。

解決策:

サーバーログで、例外の詳細を確認してください。

デプロイしているコンテンツパックは、以前にデプロイされています。以前のデプロイメントでは、このコンテンツパックにはデプロイ済みのほかのコンテンツパック (<1 つまたは 2 つのコンテンツパック名 >) で使用されるエンティティ (UUID が <uuid> の '<entity name>' という名前の '<entity type>') が含まれていました。現在 デプロイしようとしているコンテンツパックにはこのエンティティがありません。

このエラーメッセージは、すでにデプロイされているコンテンツパックを現在 デプロイしようとして、このコンテンツパックに、ほかのデプロイ済みのコンテンツパックで使用されているエンティティが含まれていたが、デプロイ中のバージョンにそのエンティティがない場合に表示されます。

解決策:

オプション 1: Studio に移動し、現在 デプロイしようとしている以前のバージョンのコンテンツパック内で指定された UUID を持つフロー、オペレーション、または構成アイテムを検索し、それを現在のバージョンのコンテンツパックに追加します。

オプション 2: Studio に移動し、依存しているコンテンツパックで、指定されたフロー、オペレーション、または構成アイテムの依存関係を削除し、それらのコンテンツパックも再デプロイします。

デプロイしているコンテンツパックは、以前にデプロイされています。以前のデプロイメントでは、このコンテンツパックにはデプロイ済みのほかのコンテンツパック (<コンテンツパック名 > および <ほかのコンテンツパックの数 > など) で使用されるエンティティ (UUID が <uuid> の '<entity name>' という名前の '<entity type>') が含まれていました。現在 デプロイしようとしているコンテンツパックにはこのエンティティがありません。依存しているコンテンツパックの完全なリストについては、サーバーログを参照してください。

このエラーメッセージは、すでにデプロイされているコンテンツパックを現在 デプロイしようとして、このコンテンツパックに、ほかのデプロイ済みのコンテンツパックで使用されているエンティティが含まれていたが、デプロイ中のバージョンにそのエンティティがない場合に表示されます。

解決策:

サーバーログで、この不足しているエンティティに依存しているすべてのコンテンツパックを確認してください。

オプション 1: Studio に移動し、現在 デプロイしようとしている以前のバージョンのコンテンツパック内で指定された UUID を持つフロー、オペレーション、または構成アイテムを検索し、それを現在のバージョンのコンテンツパックに追加します。

オプション 2: Studio に移動し、依存しているコンテンツパックで、指定されたフロー、オペレーション、または構成アイテムの依存関係を削除し、それらのコンテンツパックも再デプロイします。

UUID <uuid> のフローには <スケジュールされたタスクの数 > 個のスケジュールされたタスクがあり、これらは削除されます。

この警告メッセージは、デプロイ済みのコンテンツパックにタスクがスケジュールされたフローが含まれていて、このコンテンツパックの新しいバージョンをデプロイすることによって、フローが削除される場合に表示されます。

解決策:

修正するものではありません。

<フロー名> のスキーマの検査でエラーが発生しました。<XML パーサーの例外>。

このエラーメッセージは、スキーマが正しく検証されていない場合に表示されます。

解決策:

Studio に移動し、[コンテンツパックの作成] を選択して、コンテンツパックを再デプロイします。

注: コンテンツパックのコンテンツを手動で編集しないでください。

重複パスのあるフローをデプロイしようとしています。このパスは、デプロイメントユニットの別のコンテンツパックのフローか、以前にデプロイされたフローにすでに存在します。エラーの詳細を表示するには、サーバーログレベルを DEBUG に設定してデプロイメントをもう一度実行してください。

このエラーメッセージは、デプロイしようとしているコンテンツパックに含まれるフローのパスが、デプロイメントユニット内の別のコンテンツパックの別のフローのパスと同じである場合に表示されます。

解決策:

1. フローパス、フローの UUID、およびコンテンツパック名の詳細を表示するには、サーバーログレベルを DEBUG に設定してデプロイメントを再度実行します。次のいずれかのエラーを受信します。
 - 重複するパス <フローパス> を持つフローをデプロイしようとしています。このパスを持つフローは、以前にデプロイされています。
 - 重複するパス <フローパス> を持つフローをデプロイしようとしています。このパスを持つフローは、コンテンツパック <コンテンツパックの名前> に存在しています。
2. Studio で、重複がなくなるようにいずれかのコンテンツパックを変更し、コンテンツパックを再デプロイします。必要な変更の詳細については、以下の該当するエラーメッセージのセクションを参照してください。

重複するパス <フローパス> を持つフローをデプロイしようとしています。このパスを持つフローは、以前にデプロイされています。

このエラーメッセージは、デプロイしようとしているコンテンツパックに含まれるフローのパスが、以前にデプロイされたフローのパスと同じである場合に表示されます。

解決策:

Studio で、フローのパス (いずれかのフォルダー名またはフロー名) を変更し、コンテンツパックを再デプロイします。

重複するパス <フローパス> を持つフローをデプロイしようとしています。このパスを持つフローは、コンテンツパック <コンテンツパックの名前> に存在しています。

このエラーメッセージは、デプロイしようとしているコンテンツパックに含まれるフローのパスが、デプロイメントユニット内の別のコンテンツパックの別のフローのパスと同じである場合に表示されます。

解決策:

Studio で、フローのパス (いずれかのフォルダー名またはフロー名) を変更し、コンテンツパックを再デプロイします。

重複する名前 <システムプロパティ名> を持つシステムプロパティをデプロイしようとしています。この名前は、コンテンツパック <コンテンツパックの名前> のシステムプロパティにすでに存在します。

このエラーメッセージは、デプロイしようとしているコンテンツパックに含まれるシステムプロパティが、デプロイメントユニットの別のコンテンツパックにすでに存在している場合に表示されます。

解決策:

Studio で、システムプロパティの名前を変更し、コンテンツパックを再デプロイします。

重複する UUID <uuid> を持つ <フローまたはオペレーション/構成アイテムの種類> をデプロイしようとしています。この UUID は、コンテンツパック <コンテンツパックの名前> の <フローまたはオペレーション/構成アイテムの種類> にすでに存在します。

このエラーメッセージは、デプロイしようとしているコンテンツパックに含まれるフロー、オペレーション、または構成アイテムの UUID が、デプロイメントユニットにデプロイされている別のコンテンツパックのアイテムの UUID と同じである場合に表示されます。

解決策:

1. Studio で、指定された UUID を持つフロー、オペレーション、または構成アイテムを検索します。
2. フロー、オペレーション、または構成アイテムを同じプロジェクトにコピーします。
3. その同じプロジェクト内のフロー、オペレーション、または構成アイテムの元のコピーを削除します。
4. [コンテンツパックの作成] を選択して、コンテンツパックを再デプロイします。

注: コンテンツパックのコンテンツを手動で編集しないでください。

プロパティ <content.pack.name/content.pack.version> がプロパティファイル contentpack.properties にありません。

このエラーメッセージは、コンテンツパックの名前またはバージョンがコンテンツパックのプロパティファイルにない場合に表示されます。

解決策:

Studio に移動し、[コンテンツパックの作成] を選択して、コンテンツパックを再デプロイします。

この操作を実行するためのアクセス許可がありません。

このエラーメッセージは、該当する操作を実行するアクセス許可がないユーザーとしてログインしている場合に表示されます。

解決策:

適切なアクセス許可を持つユーザーとしてログインします。または、該当する操作を実行するアクセス許可をユーザーに与えるように、管理者に依頼します。

サービスは利用できません。サーバーがダウンしているか、ビジー状態であるか、ネットワークの問題が発生しています。サーバーログで、デプロイメントステータスを確認してください。

このエラーメッセージは、サーバーがビジー状態で要求を処理できないか、メンテナンスのためにダウンしているか、何らかのネットワークエラーによってレスポンスがクライアントに到達できない場合に表示されます。

解決策:

サーバーログで、デプロイメントが開始または正常に終了しなかったか、失敗したかどうかを確認してください。

<サーバーのレスポンスステータス (内部サーバーエラーなど)>。詳細についてはサーバーログを確認してください。

このエラーメッセージは、サーバーから予期しないエラーステータス ("Out of memory" など) が返された場合に表示されます。

解決策:

サーバーログで、例外の発生を確認してください。

エラーが発生しました。詳細についてはサーバーログを確認してください。

このエラーメッセージは、サーバーから予期しないエラーステータスが返されたが、エラーステータステキストを受信しなかった場合に表示されます。

解決策:

サーバーログで、例外の発生を確認してください。

解決策: changelog がロックされるのを待ちます。

システムへのログインを何回か試みてもサーバーが起動せずこのエラーメッセージが表示されます。

解決策:

DATABASECHANGELOGLOCK テーブルの **LOCKED** 列の値を **0** に設定します。

デプロイメント中にファイル名が破損する。再デプロイしてみてください。

場合によってはファイル名が破損した状態になり、例外が発生します。

解決策:

もう一度デプロイしてください。

コマンドラインからの HP OO コマンドの実行

 Operations Orchestration Shell (OOSH) を使用すると、Central 10.x Web インタフェースからでなく、コマンドラインから HP OO コマンドを実行できます。これにより、コマンドを実行するスクリプトを作成し、HP OO プロセスを自動化できます。

次のような操作を実行できます。

- フローの実行
- コンテンツパックのデプロイ
- ファイルの管理 - インポート、アップロード、削除など
- フロー情報の表示
- システム構成の管理

```

OOSH

oosh version: 1.25-SNAPSHOT

Welcome to oosh. For assistance type "help" then hit ENTER.
oosh>connect --url http://16.59.62.205:8293/oo/
connected
oosh>finfo --uuid b1e8dfa0-b975-41c7-84ac-249565aa8dda

FlowInfo
-----

Flow ID (UUID): b1e8dfa0-b975-41c7-84ac-249565aa8dda
Name           : Connectivity Test
Content pack   : HPOO-oo-base (1.0-SNAPSHOT)
Description    :
                Checks to see whether or not a connection exists, and if it exists check
s to see
                if it is adequately reliable.

Inputs:
host - The host to ping
from.
username - The username for host.
password - The password for
host.
lossThreshold - What percentage of packet loss you consider to be
acceptable for this connection.
latencyThreshold - How long (in milliseconds)
you consider to be an acceptable latency for this connection.
target - The
host to ping.
characterSet - The character encoding of the target computer.
The default is the RAS machine's default encoding.

Responses:
success -

```

OOSH ユーティリティで使用できるコマンドの詳細なリスト、および各コマンドで使用できるオプションについては、「[参照情報](#)」セクションを参照してください。

OOSH ユーティリティは <installation path>\central\bin および <installation path>\ras\bin にあります。

注: OOSH ユーティリティからアップグレードに関連するコマンドを呼び出すユーザーは、それに対応するアクセス許可を持っている必要があります。

注: OOSH ユーティリティは Java 1.7 で動作します。

コマンドの実行

OOSH ユーティリティ内または通常のプロンプト/シェルからコマンドを実行することができます。

通常のプロンプト/シェルからコマンドを実行する場合は、`c:\hpoo\central\bin> oosh.bat <command>` と入力します。

例:

```
c:\hpoo\central\bin> oosh.bat trigger --uuid ABC --user ABC --password ABC --url ABC
```

注: HP OO 10.x では、HP OO 9.x で使用していた **RSFlowInvoke** および **JRSFlowInvoke** の代わりに、このユーティリティを使用します。

注: OOSH ユーティリティは、`ras\bin` からでも使用できます。

Central 10.x サーバーへの接続

OOSH をシェルモードで実行している場合、`connect` コマンドを使用して Central 10.x サーバーに接続できます。

その他すべてのコマンドは、`url`、`user`、`password` の基本的な接続プロパティをサポートします。これにより、最初に `connect` コマンドを使用せずとも、コマンドラインから直接これらのプロパティを呼び出すことができます。

注: ユーザー名を指定 (`user` プロパティを使用) し、パスワード (`password` プロパティを使用) を指定しないこともできます。接続時に、パスワードを入力するよう促されます。

また、複数の LDP 環境では、次の形式でユーザー名を入力する必要があります。`domain\username`ドメインを指定しないでユーザー名を入力すると、OOSH は最初にデフォルト LDAP を使用してユーザー認証を試み、これが失敗すると、HP OO 内部ドメイン内の認証を試みます。

`connect` コマンドにはその他のオプションもあります。HTTP プロキシ経由での接続も可能です。

`connect` コマンドで使用できるオプションの詳細なリストについては、「[参照情報](#)」セクションを参照するか、コマンドラインで `help connect` と入力してください。

1. oosh.bat バッチファイルをダブルクリックし、OOSH ユーティリティを起動します。
2. コマンドラインで次のように入力します (例)。

```
connect --url <Central サーバーの URL>
```

3. **Enter** キーを押します。

接続が成功すると、コマンドラインに次のように表示されます。

```
Connected
```

フローに関する情報の表示

1. OOSH ユーティリティのコマンドラインで、次のように入力します。

```
finfo --uuid <フローの UUID>
```

注: フローの UUID は、[フローライブラリ] 情報パネルに表示されます。

2. **Enter** キーを押します。

フローの情報がコマンドラインに表示されます。

フローの実行

trigger コマンドでは、--user、--password、--url などのオプションを使用できます。trigger コマンドで使用できるオプションの詳細なリストについては、「[参照情報](#)」セクションを参照するか、コマンドラインで help trigger と入力してください。

1. OOSH ユーティリティのコマンドラインで、次のように入力します (例)。

```
trigger --uuid <フローの UUID>
```

2. **Enter** キーを押します。

コンテンツパックのデプロイ

このコマンドは、Central 10.x サーバーへのアクティブな接続がある場合にのみ動作します。deploy コマンドで使用できるオプションの詳細なリストについては、[参照情報](#) セクションを参照するか、コマンドラインで help deploy と入力してください。

1. OOSH ユーティリティのコマンドラインで、次のように入力します (例)。

```
deploy --url <OO Central の URL> --files <デプロイするファイルのコンマ区切りリスト>
```

2. **Enter** キーを押します。

OOSH ユーティリティに関するヘルプの表示

OOSH ユーティリティで使用可能なすべてのコマンドのリストと説明を表示するには、次のように入力します。

```
help
```

特定のコマンドに関するヘルプを表示するには、次のように入力します。

```
help <コマンド>
```

例:

```
help trigger
```

OOSH ユーティリティから HP OO コマンドを実行するスクリプトの作成

1. スクリプトを作成するには、実行する OOSH コマンドを記述した簡単なテキストファイルを作成します。各コマンドを実行する順にそれぞれ別の行に記述します。
2. スクリプトを作成するには、実行する OOSH コマンドを記述した簡単なテキストファイルを作成します。各コマンドを実行する順にそれぞれ別の行に記述します。

実行可能ファイルのパースーとしての OOSH の追加

Linux でのみ、OOSH を実行ファイルのパースーとして追加することもできます。

1. たとえば、次のように script-a というファイルを作成します。

```
#!/<インストールディレクトリ>/oosh  
<コマンドシーケンス>
```

2. このファイルに対して chmod (アクセス権限の変更) を実行します。

```
chmod 755 script-a
```

3. このファイルをコマンドラインから実行します。

```
./script-a
```

参照情報

OOSH ユーティリティで使用可能なコマンド

コマンド	引数	説明	デフォルト値/ 動作	必須
connect		OO 10.x Central サーバーに接続します		
	--url	OO 10.x Central の URL		はい
	--user	OO Central ユーザー名 複数 LDAP 環境では、ユーザー名をドメイン\ユーザー名の形式で入力します。	ドメインを指定しないでユーザー名を入力すると、OOSH は最初にデフォルト LDAP を使用してユーザー認証を試み、これが失敗すると、HP OO 内部ドメイン内の認証を試みます。	いいえ
	--password	OO Central パスワード		いいえ
	--proxyhost	接続時に経由する http プロキシホスト		いいえ
	--proxyport	接続時に経由する http プロキシポート	8080	いいえ
	--proxyuser	接続時に使用する http プロキシユーザー		いいえ
	--proxypassword	接続時に使用する http プロキシパスワード		いいえ

コマンド	引数	説明	デフォルト値/ 動作	必須
deploy		コンテンツパックをデプロイします (アクティブな接続が必要)		
	--url	OO 10.x Central の URL		はい (ただし、connect コマンドを使用してすでに Central に接続している場合は除く)
	--user	OO Central ユーザー名 複数 LDP 環境では、ユーザー名をドメイン\ユーザー名の形式で入力します。		いいえ
	--password	OO Central パスワード		いいえ
	--files	デプロイするコンテンツパックのコンマ区切りリスト		はい
disconnect		OO 10.x Central サーバーから切断します		

コマンド	引数	説明	デフォルト値/ 動作	必須
trigger		フローの実行		
	--url	OO 10.x Central の URL		はい(ただし、connect コマンドを使用せずに Central に接続している場合は除く)
	--user	OO Central ユーザー名 複数 LDP 環境では、ユーザー名をドメイン\ユーザー名の形式で入力します。		いいえ
	--password	OO Central パスワード		いいえ
	--uuid	実行するフローの UUID。例: cd38b579-4220-4fa5-bafd-78d67f73eb6f		はい
	--inputs	コンマ区切りのキー=フローの入力の値のマッピング。例: key1=value1、key2=value2		いいえ

コマンド	引数	説明	デフォルト値/ 動作	必須
track		特定の実行に関する情報を表示 します (追跡)		
	--url	OO 10.x Central の URL		はい (ただし、 connect コマンドを使用 してすでに Central に接 続している場合は除く)
	--user	OO Central ユーザー名 複数 LDP 環境では、ユー ザー名をドメイン\ユー ザー名の形式で入力 します。		いいえ
	--password	OO Central パスワード		いいえ
	--id	実行 ID		はい
	--property	特定のプロパティ (デ フォルト: all) を表示 します。使用可能な プロパティ: executionId、execution Name、status、result StatusType、result StatusName	all	いいえ

コマンド	引数	説明	デフォルト値/ 動作	必須
finfo flow-info		特定のフロー実行に関する情報を表示します		
	--url	OO 10.x Central の URL		はい(ただし、connect コマンドを使用せずに Central に接続している場合は除く)
	--user	OO Central ユーザー名 複数 LDP 環境では、ユーザー名をドメイン\ユーザー名の形式で入力します。		いいえ
	--password	OO Central パスワード		いいえ
	--property	特定のプロパティ(デフォルト: all)を表示します。使用可能なプロパティ: id、name、path、description、cp Name、version	all	いいえ

コマンド	引数	説明	デフォルト値/ 動作	必須
lcp、 list- content- packs		接続されているサーバーに現在デプロイされているすべてのコンテンツパックをリストします		
	--url	OO 10.x Central の URL		はい(ただし、connect コマンドを使用せずに Central に接続している場合は除く)
	--user	OO Central ユーザー名 複数 LDP 環境では、ユーザー名をドメイン\ユーザー名の形式で入力します。		いいえ
	--password	OO Central パスワード		いいえ
lsc、 list-sys- config		システム構成をリストします		
	--url	OO 10.x Central の URL		はい(ただし、connect コマンドを使用せずに Central に接続している場合は除く)
	--user	OO Central ユーザー名 複数 LDP 環境では、ユーザー名をドメイン\ユーザー名の形式で入力します。		いいえ
	--password	OO Central パスワード		いいえ
	--key	特定のキーの値のみを要求するようにします		いいえ

コマンド	引数	説明	デフォルト値/ 動作	必須
ssc		システム構成を設定します		
set-sys-config	--url	OO 10.x Central の URL		はい(ただし、connect コマンドを使用してすでに Central に接続している場合は除く)
	--user	OO Central ユーザー名 複数 LDP 環境では、ユーザー名をドメイン\ユーザー名の形式で入力します。		いいえ
	--password	OO Central パスワード		いいえ
	--key	システム構成キー		はい
	--value	システム構成値	空の文字列	いいえ
show connection		接続プロパティを表示します		

コマンド	引数	説明	デフォルト値/ 動作	必須
historical-data-start-date		履歴データのインポートの開始日を 設定します		
	--url	OO 10.x Central の URL		はい(ただし、connect コマンドを使用してすでに Central に接続している場合は除く)
	--user	OO Central ユーザー名 複数 LDP 環境では、ユーザー名を ドメイン\ユーザー名の形式で入力 します。		いいえ
	--password	OO Central パスワード		いいえ
historical-data-status		履歴データのインポートのステータス を取得します		
	--url	OO 10.x Central の URL		はい(ただし、connect コマンドを使用してすでに Central に接続している場合は除く)
	--password	OO Central パスワード		いいえ

コマンド	引数	説明	デフォルト値/ 動作	必須
import-historical-data		9.x サーバーで定義されたデータを持つデプロイ済みコンテンツの履歴データをインポートします		
	--url	OO 10.x Central の URL		はい(ただし、connect コマンドを使用せずに Central に接続している場合は除く)
	--user	OO Central ユーザー名 複数 LDP 環境では、ユーザー名をドメイン\ユーザー名の形式で入力します。		いいえ
	--password	OO Central パスワード		いいえ
import-permissions		アクセス許可ファイルを持つデプロイ済みコンテンツのアクセス許可をインポートします		
	--url	OO 10.x Central の URL		はい(ただし、connect コマンドを使用せずに Central に接続している場合は除く)
	--user	OO Central ユーザー名 複数 LDP 環境では、ユーザー名をドメイン\ユーザー名の形式で入力します。		いいえ
	--password	OO Central パスワード		いいえ

コマンド	引数	説明	デフォルト値/ 動作	必須
import-schedules		9.x サーバーで定義されたスケジュールを持つデプロイ済みコンテンツのスケジュールをインポートします		
	--url	OO 10.x Central の URL		はい(ただし、connect コマンドを使用せずに Central に接続している場合は除く)
	--user	OO Central ユーザー名 複数 LDP 環境では、ユーザー名をドメイン\ユーザー名の形式で入力します。		いいえ
	--password	OO Central パスワード		いいえ
permissions-status		これまでにインポートされたすべてのアクセス許可のリストを取得します		
	--url	OO 10.x Central の URL		はい(ただし、connect コマンドを使用せずに Central に接続している場合は除く)
	--user	OO Central ユーザー名 複数 LDP 環境では、ユーザー名をドメイン\ユーザー名の形式で入力します。		いいえ
	--password	OO Central パスワード		いいえ
	--output	出力を書き込む場所の完全なパス		いいえ

コマンド	引数	説明	デフォルト値/ 動作	必須
upload- permission s-file		コンテンツのアップグレード中に作成されたアクセス許可ファイルをアップロードします		
	--url	OO 10.x Central の URL		はい(ただし、connect コマンドを使用せずに Central に接続している場合は除く)
	--user	OO Central ユーザー名 複数 LDP 環境では、ユーザー名をドメイン\ユーザー名の形式で入力します。		いいえ
	--password	OO Central パスワード		いいえ
	--file	アクセス許可ファイルへのフルパスで、コンテンツアップグレードユーティリティの Output フォルダーにあります		いいえ

注: HP OO 9.x から 10.x (10.02 以前) へのアップグレード後に、HP OO Shell ユーティリティを使用して履歴データを移行すると、HP OO 10.x で要求されている "RESOLVED" でなく "Resolved" という結果になります。これにより、ダッシュボードの結果分布に重複が生じます。この場合、HP OO 10.02 または 10.10 にアップグレードしてください。

